

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学院の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホウジツン シバウラキョウギョウダガク								
フリガナ大学の名称	シバウラキョウギョウダガクガクイン								
大学本部の位置	芝浦工業大学大学院 (Shibaura Institute of Technology graduate school)								
大学の目的	東京都江東区豊洲三丁目7番5号								
大学の目的	芝浦工業大学大学院は、工学に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。（芝浦工業大学大学院学則 第1条）								
新設研究科等の目的	大学院理工学研究科の志願者数及び入学定員数は、過去数年間安定的に増加している。また、輩出する人材も安定的に社会に受け入れられて活躍している。学生の進学意欲と社会の人材養成に対する高い期待に応えるため、大学院理工学研究科修士課程、大学院理工学研究科博士（後期）課程の収容定員を変更する。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	理工学研究科 修士課程 [Graduate School of Engineering and Science] [Master's Program]	—	—	—	—	—	—	—	[豊洲キャンパス] 東京都江東区豊洲三丁目7番5号 [大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
	電気電子情報工学専攻 [Electrical Engineering and Computer Science]	2	200 (110)	—	400 (220)	修士（工学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	材料工学専攻 [Materials Science and Engineering]	2	50 (40)	—	100 (80)	修士（工学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	応用化学専攻 [Applied Chemistry]	2	40 (30)	—	80 (60)	修士（工学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	機械工学専攻 [Mechanical Engineering]	2	140 (85)	—	280 (170)	修士（工学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	システム理工学専攻 [Systems Engineering and Science]	2	150 (75)	—	300 (150)	修士（システム理工学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	社会基盤学専攻 [Civil Engineering]	2	40 (25)	—	80 (50)	修士（工学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	建築学専攻 [Architecture and Architectural Engineering]	2	170 (110)	—	340 (220)	修士（工学） 修士（建築学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	計	—	790 (485)		1,580 (970)				
理工学研究科 博士（後期）課程 [Graduate School of Engineering and Science] [Doctor's Program]	—	—	—	—	—	—	—	—	[豊洲キャンパス] 東京都江東区豊洲三丁目7番5号 [大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
地域環境システム専攻 [Regional Environment Systems]	3	15 (12)	—	45 (36)	博士（工学） または博士（学術）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上	
機能制御システム専攻 [Functional Control Systems]	3	18 (15)	—	54 (45)	博士（工学） または博士（学術）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上	
計	—	33 (27)		99 (81)					

同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		理工学研究科 修士課程 定員変更						
		・電気電子情報工学専攻〔定員増〕	(90名)	(令和7年4月)	届出予定)			
		・材料工学専攻〔定員増〕	(10名)	(令和7年4月)	届出予定)			
		・応用化学専攻〔定員増〕	(10名)	(令和7年4月)	届出予定)			
		・機械工学専攻〔定員増〕	(55名)	(令和7年4月)	届出予定)			
		・システム理工学専攻〔定員増〕	(75名)	(令和7年4月)	届出予定)			
		・社会基盤学専攻〔定員増〕	(15名)	(令和7年4月)	届出予定)			
		・建築学専攻〔定員増〕	(60名)	(令和7年4月)	届出予定)			
		理工学研究科 博士(後期)課程 定員変更						
		・地域環境システム専攻〔定員増〕	(3名)	(令和7年4月)	届出予定)			
		・機能制御システム専攻〔定員増〕	(3名)	(令和7年4月)	届出予定)			
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	理工学研究科修士課程 電気電子情報工学専攻							
	理工学研究科修士課程 材料工学専攻							
	理工学研究科修士課程 応用化学専攻							
	理工学研究科修士課程 機械工学専攻							
	理工学研究科修士課程 システム理工学専攻							
	理工学研究科修士課程 国際理工学専攻							
	理工学研究科修士課程 社会基盤学専攻							
	理工学研究科修士課程 建築学専攻							
	理工学研究科博士(後期)課程 地域環境システム専攻							
理工学研究科博士(後期)課程 機能制御システム専攻								
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設	理工学研究科修士課程 電気電子情報工学専攻	44人 (44)	21人 (21)	-人 (-)	3人 (3)	68人 (68)	-人 (-)	4人 (-)
	理工学研究科修士課程 材料工学専攻	13 (13)	2 (2)	- (-)	- (-)	15 (15)	- (-)	- (-)
	理工学研究科修士課程 応用化学専攻	11 (11)	6 (6)	- (-)	- (-)	17 (17)	- (-)	- (-)
	理工学研究科修士課程 機械工学専攻	30 (30)	8 (8)	- (-)	- (-)	38 (38)	- (-)	- (-)
	理工学研究科修士課程 システム理工学専攻	49 (49)	17 (17)	- (-)	3 (3)	69 (68)	- (-)	1 (1)
	理工学研究科修士課程 社会基盤学専攻	12 (12)	2 (2)	- (-)	- (-)	14 (14)	- (-)	- (-)
	理工学研究科修士課程 建築学専攻	32 (32)	5 (5)	- (-)	1 (1)	38 (38)	- (-)	2 (2)
	理工学研究科博士(後期)課程 地域環境システム専攻	83 (83)	17 (17)	- (-)	1 (1)	101 (100)	- (-)	2 (2)
	理工学研究科博士(後期)課程 機能制御システム専攻	112 (112)	45 (45)	- (-)	6 (6)	163 (164)	- (-)	4 (4)
	計	386 (386)	123 (123)	0 (0)	14 (14)	523 (523)	0 (0)	13 (13)
既設	理工学研究科修士課程 国際理工学専攻	8 (8)	5 (5)	- (-)	- (-)	13 (13)	- (-)	- (-)
	計	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
合計		394 (394)	128 (128)	0 (0)	14 (14)	536 (536)	0 (0)	13 (13)

職 種		専 属		そ の 他		計		
事 務 職 員		184 (184)	人	159 (159)	人	343 (343)	人	
技 術 職 員		13 (13)	人	7 (7)	人	20 (20)	人	
図 書 館 職 員		2 (2)	人	23 (23)	人	25 (25)	人	
そ の 他 の 職 員		0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人	
指 導 補 助 者		0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人	
計		199 (199)	人	189 (189)	人	388 (388)	人	
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	120,669.9㎡	0㎡	0㎡		120,669.9㎡		
	そ の 他	18,719.5㎡	0㎡	0㎡		18,719.5㎡		
	合 計	139,389.4㎡	0㎡	0㎡		139,389.4㎡		
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
		148,506.4㎡ (148,506.4㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		148,506.4㎡ (148,506.4㎡)		
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室		新設研究科等の 専任教員研究室		
		110室	281室	78室		309室		
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕			
	大学全体	230,457 [22,846] (222,457 [22,846])	25,421 [23,041] (25,421 [23,041])	261 [23] (261 [23])	5,448 [5,266] (5,448 [5,266])	0	0	
	計	230,457 [22,846] (222,457 [22,846])	25,421 [23,041] (25,421 [23,041])	261 [23] (261 [23])	5,448 [5,266] (5,448 [5,266])	0	0	
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	-	-	
		教員1人当り研究費等		1,132千円	1,132千円	1,132千円	-	-
		共同研究費等		11,363千円	11,363千円	11,363千円	-	-
		図書購入費	17,806千円	17,806千円	17,806千円	17,806千円	-	-
	設備購入費	62,473千円	62,473千円	62,473千円	62,473千円	-	-	
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	-	-	
			1,205,000円	1,305,000円	-	-	-	
1,465,000円			1,305,000円	-	-	-		
841,800円			841,800円	841,800円	-	-		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料収入、資産運用収入等						
※図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。								
本大学卒業(修了)者 修士課程 他大学卒業(修了)者 修士課程 本大学卒業(修了)者 博士(後期)課程 他大学卒業(修了)者 博士(後期)課程								
大 学 等 の 名 称	芝浦工業大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
工学部	年	人	年次 人	人		倍		[豊洲キャンパス] 東京都江東区豊洲 三丁目7番5号 [大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市見沼 区深作307番地
	機械工学課程	4	228	—	912	0.95	令和6年度	同上
	物資化学課程	4	208	—	832	1.03	令和6年度	同上
	電気電子工学課程	4	208	—	832	1.00	令和6年度	同上
	情報・通信工学課程	4	218	—	872	0.99	令和6年度	同上
	土木工学課程	4	104	—	416	0.98	令和6年度	同上
先進国際課程	4	9	—	36	1.00	令和2年度	同上	
計	—	975	—	3,900	—	—	—	

既設大学等の状況

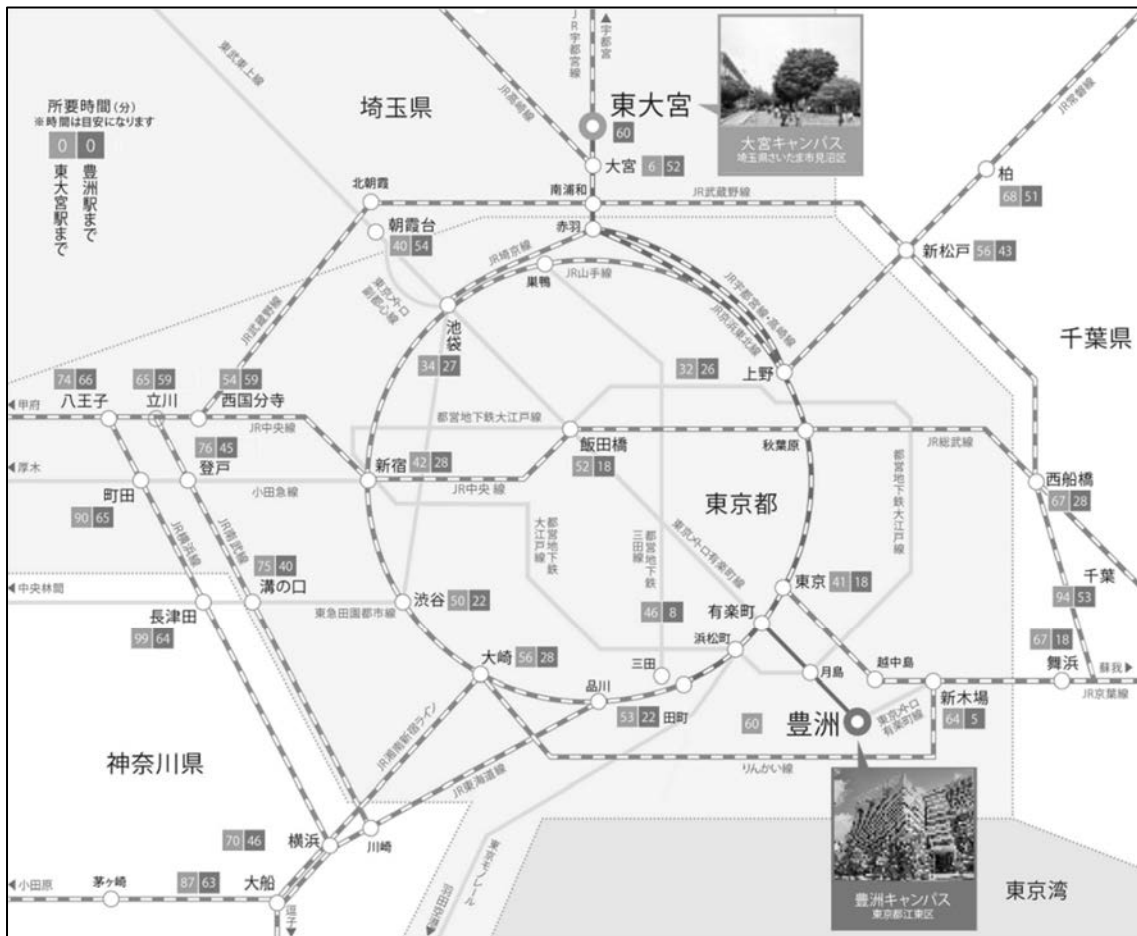
システム理工学部						1.02		〔大宮キャンパス〕 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地	
電子情報システム学科	4	115	—	460	学士（工学）	1.00	平成3年度		
機械制御システム学科	4	90	—	360	学士（工学）	1.02	平成3年度		同上
環境システム学科	4	90	—	360	学士（工学）	1.04	平成3年度		同上
生命科学科	4	115	—	460	学士（生命科学）	1.00	平成20年度		同上
数理科学科	4	75	—	300	学士（数理科学）	1.03	平成21年度		同上
計	—	485	—	1,940	—		—		
デザイン工学部						1.08		〔豊洲キャンパス〕 東京都江東区豊洲三丁目7番5号 〔大宮キャンパス〕 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地	
デザイン工学科	4	160	—	640	学士（デザイン工学）	1.08	平成21年度		
計	—	160	—	640	—		—		
建築学部						1.08		〔豊洲キャンパス〕 東京都江東区豊洲三丁目7番5号	
建築学科	4	240	—	960	学士（建築学）	1.08	平成29年度		
計	—	240	—	960	—		—		
理工学研究科 修士課程						1.76		〔豊洲キャンパス〕 東京都江東区豊洲三丁目7番5号 〔大宮キャンパス〕 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地	
電気電子情報工学専攻	2	110	—	220	修士（理工学）	2.00	昭和38年度		令和7年度入学定員増（90人）
材料工学専攻	2	40	—	80	修士（理工学）	1.36	昭和38年度		令和7年度入学定員増（10人）
応用化学専攻	2	30	—	60	修士（理工学）	1.50	昭和38年度		令和7年度入学定員増（10人）
機械工学専攻	2	85	—	170	修士（理工学）	1.74	昭和51年度		令和7年度入学定員増（55人）
システム理工学専攻	2	75	—	150	修士（理工学）	2.00	平成23年度		令和7年度入学定員増（75人）
国際理工学専攻	2	10	—	20	修士（理工学）	1.35	平成29年度		同上
社会基盤学専攻	2	25	—	50	修士（理工学）	1.64	令和3年度		令和7年度入学定員増（15人）
建築学専攻	2	110	—	220	修士（理工学）	1.65	令和3年度		令和7年度入学定員増（60人）
計	—	485	—	970	—		—		
理工学研究科 博士（後期）課程						1.19		〔豊洲キャンパス〕 東京都江東区豊洲三丁目7番5号 〔大宮キャンパス〕 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地	
地域環境システム専攻	3	12	—	36	博士（工学）または博士（学術）	1.22	平成7年度		令和7年度入学定員増（3人）
機能制御システム専攻	3	15	—	45	博士（工学）または博士（学術）	1.15	平成7年度		令和7年度入学定員増（3人）
計	—	27	—	81	—		—		
附属施設の概要	なし								

学校法人芝浦工業大学 設置認可等に係る組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
芝浦工業大学				芝浦工業大学				
工学部				工学部				
機械工学課程	228	—	912	機械工学課程	228	—	912	
物質化学課程	208	—	832	物質化学課程	208	—	832	
電気電子工学課程	208	—	832	電気電子工学課程	208	—	832	
情報・通信工学課程	218	—	872	情報・通信工学課程	218	—	872	
土木工学課程	104	—	416	土木工学課程	104	—	416	
先進国際課程	9	—	36	先進国際課程	9	—	36	
計	975		3,900	計	975		3,900	
システム理工学部				システム理工学部				
電子情報システム学科	115	—	460	電子情報システム学科	115	—	460	
機械制御システム学科	90	—	360	機械制御システム学科	90	—	360	
環境システム学科	90	—	360	環境システム学科	90	—	360	
生命科学科	115	—	460	生命科学科	115	—	460	
数理科学科	75	—	300	数理科学科	75	—	300	
計	485		1,940	計	485		1,940	
デザイン工学部				デザイン工学部				
デザイン工学科	160	—	640	デザイン工学科	160	—	640	
計	160		640	計	160		640	
建築学部				建築学部				
建築学科	240	—	960	建築学科	240	—	960	
計	240		960	計	240		960	
芝浦工業大学大学院				芝浦工業大学大学院				
理工学研究科 修士課程				理工学研究科 修士課程				
電気電子情報工学専攻	110	—	220	電気電子情報工学専攻	<u>200</u>	—	<u>400</u>	定員変更(90)
材料工学専攻	40	—	80	材料工学専攻	<u>50</u>	—	<u>100</u>	定員変更(10)
応用化学専攻	30	—	60	応用化学専攻	<u>40</u>	—	<u>80</u>	定員変更(10)
機械工学専攻	85	—	170	機械工学専攻	<u>140</u>	—	<u>280</u>	定員変更(55)
システム理工学専攻	75	—	150	システム理工学専攻	<u>150</u>	—	<u>300</u>	定員変更(75)
国際理工学専攻	10	—	20	国際理工学専攻	10	—	20	
社会基盤学専攻	25	—	50	社会基盤学専攻	<u>40</u>	—	<u>80</u>	定員変更(15)
建築学専攻	110	—	220	建築学専攻	<u>170</u>	—	<u>340</u>	定員変更(60)
計	485		970	計	<u>800</u>		<u>1,600</u>	
芝浦工業大学大学院				芝浦工業大学大学院				
理工学研究科博士（後期）課程				理工学研究科博士（後期）課程				
地域環境システム専攻	12	—	36	地域環境システム専攻	<u>15</u>	—	<u>45</u>	定員変更(3)
機能制御システム専攻	15	—	45	機能制御システム専攻	<u>18</u>	—	<u>54</u>	定員変更(3)
計	27		81	計	<u>33</u>		<u>99</u>	

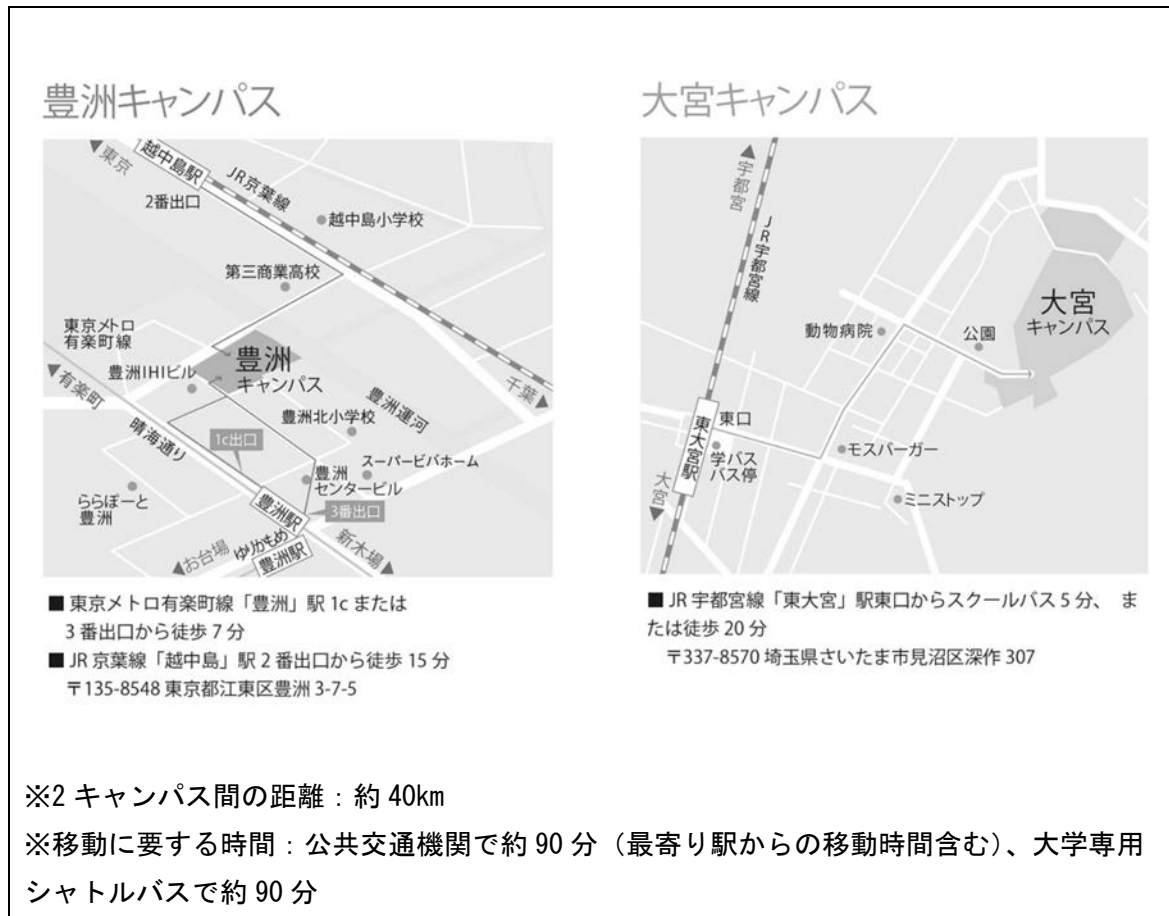
校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面



校地校舎等の図面

(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



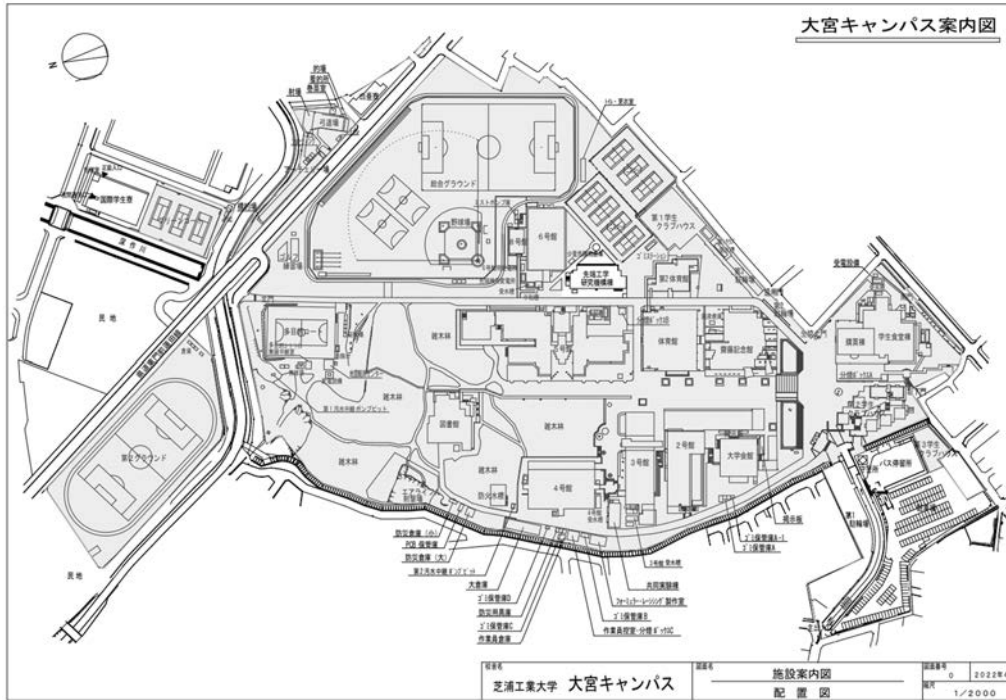
校地校舎等の図面

(3) 校舎, 運動場等の配置図

①大宮キャンパス

校地面積：153,981 m² (色付部分)

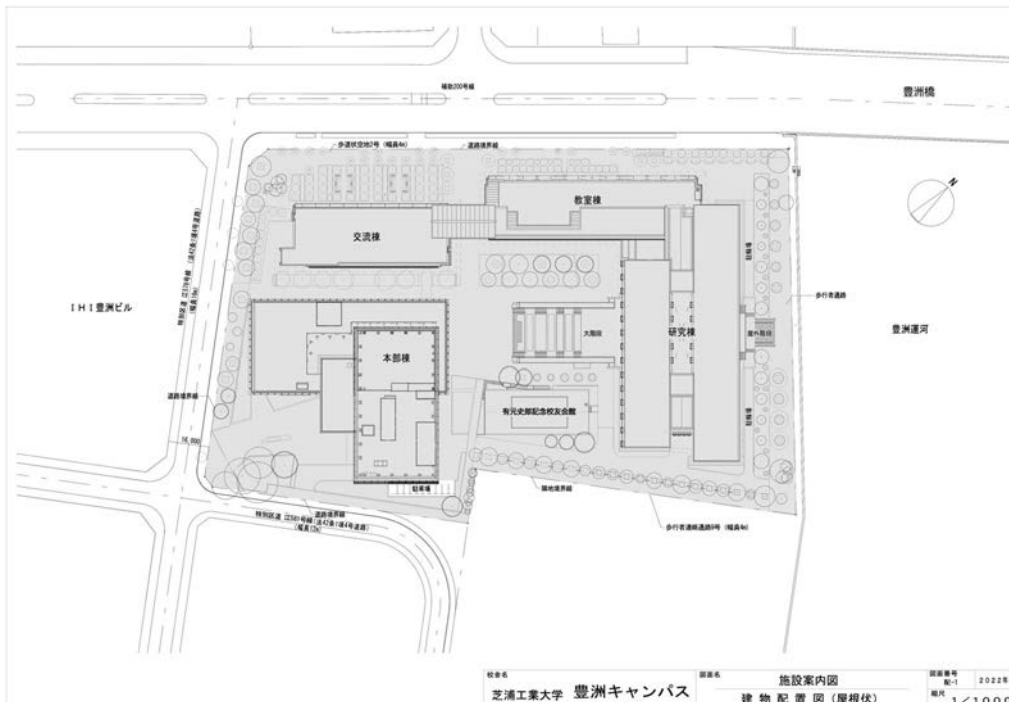
校舎面積：46,742 m²



②豊洲キャンパス

校地面積：29,870 m² (色付部分)

校舎面積：101,762 m²



校地校舎等の図面

(4) 校舎平面図

色付部分…専有部分

色無部分…共用部分

学 則

令和7年度
(2025年度)

芝浦工業大学大学院

芝浦工業大学大学院学則

第1章 総則

(目的)

第1条 この学則は、芝浦工業大学学則第5条に基づき、芝浦工業大学大学院(以下「本学大学院」という。)について、必要な事項を定める。

2 芝浦工業大学大学院(以下「本学大学院」という。)は、工学に関する理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己点検・評価等)

第1条の2 本学大学院は教育研究水準の向上を図り、本学大学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び自己評価を行い、その結果を公表する。点検及び評価に関する必要事項は別に定める。

(認証評価)

第1条の3 本学大学院は第1条の2の措置に加え、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受審し、その結果を公表するものとする。

(設置場所)

第2条 本学大学院は、東京都江東区豊洲三丁目7番5号 芝浦工業大学に置く。

(構成)

第3条 本学大学院に次の研究科を置く。

理工学研究科

2 理工学研究科に博士課程を置き、博士課程を博士(前期)課程(2年)及び博士(後期)課程(3年)に区分し、博士(前期)課程を修士課程として取り扱うものとする。

3 前項の博士(前期)課程は「修士課程」という。

4 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。

5 博士(後期)課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

第2章 理工学研究科

第1節 教育研究上の目的及び教育組織

(教育研究上の目的)

第4条 修士課程においては、学部教育で培われた専門基礎能力をさらに向上させる教育研究を実施し、専門分野の高度な開発技術者及び研究者の育成を行うことを目的とする。

- 2 博士(後期)課程においては、学際的観点から、専門分野のより高度な学識を有する開発技術者、並びに先駆的な学術研究の推進と工学又は学術に関する多様な分野において主導的役割を果たしうる研究者の育成を行うことを目的とする。
- 3 各専攻の人材養成その他教育研究上の目的については付表1—1のとおりとする。

(修業年限及び在籍年数)

第5条 修士課程における標準修業年限は、2年とし、その最長在籍年数は4年とする。

- 2 博士(後期)課程における標準修業年限は3年とし、その最長在籍年数は6年とする。
- 3 在学期間については、優れた成績を上げた者は、各課程とも1年以上在学すれば足りるものとする。

(専攻の種類)

第6条 理工学研究科修士課程及び博士(後期)課程に次の専攻を置く。

修士課程

電気電子情報工学専攻

材料工学専攻

応用化学専攻

機械工学専攻

システム理工学専攻

国際理工学専攻

社会基盤学専攻

建築学専攻

博士(後期)課程

地域環境システム専攻

機能制御システム専攻

(収容定員)

第7条 理工学研究科の収容定員は、付表2のとおりとする。

第2節 教育課程及び履修方法

(教育課程の編成方針)

第8条 理工学研究科は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、理工学研究科は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。
- 3 各専攻の教育課程の編成方針については付表1—2のとおりとする。

(副専攻プログラム)

第8条の2 理工学研究科は、各専攻が編成する教育課程のほか、学生が所属する課程の専攻に係る分野以外の特定分野又は特定課題に関する教育課程(以下「副専攻プログラム」という。)を開設し、その学習成果を認定するものとする。

- 2 副専攻プログラムにおける研究指導並びに授業科目及び単位数は、付表3のとおりとする。
- 3 副専攻プログラムに関し必要な事項については、芝浦工業大学大学院副専攻プログラム規程の定めるところによる。

(授業及び研究指導)

第9条 理工学研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。

(授業の方法)

第9条の2 授業は講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 本学大学院生は本条第1項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。
- 3 本学大学院生は本条1項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修する場合についても同様とする。

(成績評価基準等の明示等)

第10条 理工学研究科は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

- 2 理工学研究科は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第11条 理工学研究科は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

- 2 理工学研究科長は、教育改善研修等の実施結果について、毎年度、学長に報告しなければならない。

(研究指導並びに授業科目及び単位数)

第12条 理工学研究科修士課程の各専攻における研究指導並びに授業科目及び単位数は、付表3のとおりとする。

- 2 理工学研究科博士(後期)課程の各専攻における研究指導科目は、付表4のとおりとする。
- 3 各授業科目の1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業

の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技等については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(指導教員)

第13条 修士課程の学生は所属の専攻に設けられている部門の中より1研究指導を選択する。

2 前項の研究指導を担当する指導教員のうち1名を当該学生の指導教員とする。

第13条の2 博士(後期)課程の学生は所属の専攻に設けられている部門の中より1特別研究を選定する。

2 前項の特別研究を担当する教員のうち1名を当該学生の主担当指導教員とする。

3 主担当指導教員を補佐するため副担当指導教員を置く。副担当指導教員は、学生が選定した部門、又はこれと関連する部門の担当教員の中から主担当指導教員が選任するものとする。

(他の大学院又は研究所等における研究指導)

第14条 理工学研究科長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等(外国の大学の大学院又は外国の研究所等を含む。以下「他の大学の大学院等」という。)において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項により研究指導を受ける期間は、修士課程の学生については1年以内とする。

3 他の大学の大学院等で研究指導を受ける期間は、理工学研究科の修業年限及び在学年限に算入するものとする。

(履修方法)

第15条 理工学研究科修士課程における授業科目の履修方法は、次のとおりとする。

(1) 学生は、その在学期間中に所要の授業科目を履修し、30単位以上を修得し、かつ指導教員による研究指導を受けるものとする。ただし、理工学研究科修士課程において標準修業年限で修了する場合、特別演習及び特別実験を除く授業科目について1年間に履修可能な単位の上限を原則として20単位とする。

(2) 学生は、授業科目の選択等研究全般について、指導教員の指導を受けるものとする。

(3) 学生は、学年又は学期の始めに当該学年内に履修しようとする授業科目について、履修登録を行わなければならない。

(4) 指導教員が当該学生の研究上特に必要と認めた場合は、在学中他の専攻について履修し、10単位を限度として理工学研究科所定の単位数に充当することができる。

第15条の2 理工学研究科博士(後期)課程における研究指導科目の履修方法は、次のとおりとする。

(1) 学生は、その在学期間中に選定した特別研究に関する博士論文の作成その他の研究全般について、主担当及び副担当指導教員の指導を受けなければならない。

(2) 学生は、所属の専攻に設けられている研究指導科目のうち少なくとも特論1科目を履修する

ものとする。

- (3) 学生は、学年又は学期の始めに当該学年内に履修しようとする研究指導科目について、履修登録を行わなければならない。
- (4) 主担当指導教員が必要と認めた場合は、他の専攻の研究指導科目又は修士課程の授業科目を履修することができる。
- (5) 主担当指導教員が研究教育上、有益と認めた場合は、学生は他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができる。

(他の大学院との協議に基づく授業科目の履修の取扱)

第16条 他の大学院との協議に基づき、本学の理工学研究科学生に他の大学の大学院の授業科目を履修させ、又は他の大学の大学院学生に本学の理工学研究科の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項により履修する授業料等は他の大学院との協議によりその都度定める。
- 3 他の大学の大学院等で履修した授業科目及び単位数については、理工学研究科が認める場合、15単位を限度として理工学研究科所定の単位数に充当することができる。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第17条 学生が理工学研究科入学前に本学大学院において履修した授業科目について修得した単位は、10単位を限度として、理工学研究科が認める場合、入学後の理工学研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 学生が理工学研究科入学前に他の大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、15単位を限度として、理工学研究科が認める場合、入学後の理工学研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 本条第1項の規定により修得したものとみなし、又は認めることができる単位数については、理工学研究科において修得した単位以外のものについては、第15条第1項第4号と合わせて、10単位を限度として理工学研究科所定の単位数に充当することができる。
- 4 本条第2項の規定により修得したものとみなし、又は認めることができる単位数については、第16条と合わせて、20単位を限度として理工学研究科所定の単位数に充当することができる。

(入学前の既修得単位を勘案した在学期間の短縮)

第17条の2 理工学研究科は、必要と認めた場合、修士課程及び博士(後期)課程において、入学前の既修得単位等を勘案して、1年を超えない範囲で在学したものとみなすことができる。

(教育職員の免許状)

第17条の3 教育職員免許状の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 2 理工学研究科の専攻において、当該所要資格を取得できる教育職員免許状の種類・教科は、付表5のとおりとする。

第3節 課程修了の要件

(履修認定の方法)

第18条 各授業科目の履修認定は、試験等によって行う。

(成績の評価)

第19条 各授業科目の成績は、「優・良・可・不可」をもって表示し、可以上を合格とする。

(修了の要件)

第20条 修士課程を修了するには、第5条第1項及び第15条に規定する修士課程の履修上の要件を充たし、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

2 前項の規定において、各専攻で適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

第20条の2 博士(後期)課程を修了するには、第5条第2項及び第15条の2に規定する博士(後期)課程における履修上の要件を充し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

2 前項において、博士(後期)課程における履修上の要件を充し、退学した者は満期退学者とする。

第4節 学位及びその授与

(学位授与の判定)

第21条 学位授与の判定は、前条の結果に基づき、第24条に定める理工学研究科委員会において審議のうえ、これを決定する。

(学位授与の方針等)

第21条の2 学位授与は付表6の学位授与方針並びに学位審査基準に基づき行う。

(学位の授与)

第22条 修士の学位及び博士の学位授与は、前条の決議に基づき、学長がこれを行う。

2 本学則に定めるもののほか学位授与に関する必要な事項は別に定める。

(副専攻プログラムの認定証書の授与)

第22条の2 副専攻プログラムについて所定の単位を修得し、その副専攻の学習成果の認定を受けた者には、前条の学位と併せて副専攻プログラム認定証書を授与する。

第5節 教員組織及び運営組織

(教員組織)

第23条 理工学研究科教員は教授・准教授・講師・助教をもって組織し、助手及び実験補助員を

置くことができる。

- 2 理工学研究科における研究指導並びに授業を担当する教員は大学院設置基準に規定する大学院教員に該当する資格を有する本法人の教員(非常勤講師を含む)をもって充てる。
- 3 前項の教員の資格基準等は別に定める。
- 4 理工学研究科には、専門分野の別に応じ専攻ごとに、不可欠な教員組織として、大学院設置基準に定める教員を置くものとし、専門分野の別に応じて所属する専攻を主専攻とする。なお、教育研究指導上必要な場合、主専攻以外に副専攻として学生に対する教育研究指導を行うことができるものとする。

(運営組織)

第24条 本学大学院理工学研究科に理工学研究科委員会(以下「理工学研究科委員会」という。)を置く。

- 2 理工学研究科委員会は、理工学研究科長及び各課程の専攻における指導教員をもって組織する。

(研究科長)

第25条 理工学研究科に理工学研究科長を置く。理工学研究科長については、別に定める。

第25条の2 理工学研究科長は学長が推薦し、理事会が承認する。

(理工学研究科委員会)

第26条 理工学研究科に理工学研究科委員会を置く。

- 2 理工学研究科委員会は理工学研究科長がこれを招集し、その議長となる。

第27条 理工学研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び課程の修了に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 教育及び組織に関する事項
 - (4) 研究科、課程、科目及び授業に関する事項
 - (5) 教員の研究育成及び留学に関する事項
 - (6) 教育研究費予算の配分の方針に関する事項
 - (7) 教員の任用に関する事項
 - (8) 学生の指導育成に関する事項
 - (9) 学生の賞罰に関する事項
 - (10) 教員の資格審査に関する事項
 - (11) 学則に関する事項
 - (12) その他学長から意見を求められた事項
- 2 理工学研究科委員会は、前項各号に定めるもののほか、学長及び理工学研究科長その他の教授会等が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる次の事項について審議し、及び学

長等の求めに応じて意見を述べることができる。

- (1) 理工学研究科委員会の運営に関する事項
- (2) 図書、設備及び施設に関する事項
- (3) 授業日数及び休業に関する事項
- (4) 研究科規則に関する事項
- (5) その他学長等から意見を求められた事項

3 前項でいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。

第6節 学年・学期及び休業日

(学年、学期)

第28条 理工学研究科の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

学年を2期に分け、4月1日から9月30日までを前期、10月1日から翌年3月31日までを後期とする。

(休業日)

第29条 理工学研究科における休業日は次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律に規定する日
- (2) 日曜日
- (3) 本学創立記念日(11月4日)
- (4) 春季休業
- (5) 夏季休業
- (6) 冬季休業

2 学長は、理工学研究科委員会の議を経て休業日を変更し、又は臨時休業日を定めることができる。

第7節 入学・休学・退学及び転学

(入学の時期)

第30条 入学の時期は、4月又は10月とする。

(入学資格)

第31条 理工学研究科修士課程に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程(文部科学大臣指定外国大学日本校)を修了した者

- (6) 外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 指定された専修学校の専門課程(文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧)を修了した者
- (8) 文部科学大臣が指定した者
- (9) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、理工学研究科委員会において特に優れた成績で所定の単位を修得したと認めた者
- (10) その他、理工学研究科委員会において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた22歳以上の者

第31条の2 理工学研究科博士(後期)課程に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 修士の学位や専門職学位を有する者
- (2) 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程(文部科学大臣指定外国大学(大学院相当)日本校)を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院において、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者
- (7) 文部科学大臣が指定した者
- (8) その他、理工学研究科委員会において、修士の学位や専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた24歳以上の者

(入学志願の手続)

第32条 理工学研究科に入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて、これを所定の期日までに提出しなければならない。

(入学試験)

第33条 入学試験は学力・人物・健康について行う。

(入学許可)

第34条 前条の選考に合格した者について、理工学研究科委員会の議を経て学長が入学を許可する。

(入学手続)

第35条 入学を許可された者は、指定の期日までに所定の書類を提出するとともに付表7、付表8に定める入学金・授業料その他の学費を納入しなければならない。

(休学)

第36条 学生が病気その他止むを得ない事由によって、欠席しようとするときは、その事実を証明する書類(兵役の場合は徴兵に関する証明書等)を添えて保証人連署のうえ、休学願を提出し、学長の許可を得なければならない。

- 2 入学初年度の1年前期は、休学することはできない。
- 3 休学期間は1ヵ年以内とする。ただし、特別の理由のある者は休学延期の願い出により引き続き休学することができる。
- 4 休学期間は、修士課程にあつては2年、博士(後期)課程にあつては3年を超えることはできない。
- 5 休学期間は、在学年数に算入しないが、在籍年数には算入する。
- 6 休学の願い出に際しては、休学開始日の前日の属する期までの学費は納入していなければならない。
- 7 休学の始期は学年又は学期の始めとする。
- 8 休学者は休学した学期の単位を取得することはできない。

(復学)

第37条 休学者が、復学しようとする時は、所定の復学願を提出し、学長の許可を得て復学することができる。

- 2 復学の始期は学年又は学期の始めとする。

(退学)

第38条 病気その他止むを得ない事由によって退学しようとする者は、所定の退学願を提出し学長の許可を受けなければならない。

- 2 退学の願い出に際しては、退学の日の属する期までの学費は納入していなければならない。

(再入学)

第39条 止むを得ない理由で退学した者が再入学を願い出たときは、理工学研究科委員会の議を経てこれを許可することがある。ただし、第56条により退学した者については再入学は許可しない。

(転学)

第40条 他の大学院から理工学研究科に転学を志願する者は、転学試験に合格しなければならない。

- 2 転学志願者は、所定の書類に本人の所属する大学院の長の承諾書を添付しなければならない。
- 3 転学者の他大学院での既修得単位は、理工学研究科委員会の議を経て理工学研究科の単位に充当することができる。

第40条の2 理工学研究科から他の大学院に転学しようとする者は、理工学研究科委員会の議を経て学長の許可を受けなければならない。

(専攻の変更)

第41条 理工学研究科に入学後、専攻を変えることはできない。

(除籍)

第42条 次の各号の一つに該当するものは除籍とする。

- (1) 行方不明の届け出のあった者
- (2) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者
- (3) 本学則第5条第1項及び第2項に定める在籍年数を超えた者
- (4) 休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者

第8節 学費等

(入学検定料)

第43条 本研究科に入学を志望する者は、諸納入金に関する内規に定める入学検定料を納めなければならない。

2 納入した入学検定料は、事情のいかんにかかわらずこれを返還しない。

(学費等)

第44条 学費等の納入金額は、付表7のとおりとする。

2 学費とは入学金、維持料、授業料をいう。

3 納入した学費等は、事情のいかんにかかわらずこれを返還しない。

4 休学期間中の学費は、許可された期の翌期から休学する期に限り授業料及び維持料を免除し、休学在籍料を徴収する。

ただし、兵役による休学の場合は、兵役期間に限り授業料及び維持料に加え、休学在籍料を免除する。

第9節 科目等履修生及び研究生

(科目等履修生)

第45条 理工学研究科において、本学学生以外の者が理工学研究科所定の授業科目を一つ又は複数選択して履修する者を科目等履修生とする。

2 科目等履修生については、学則に定めるもののほかは、別に定める。

(研究生)

第46条 理工学研究科修士課程において一定の研究課題について研究を行う者を研究生とする。

2 研究生の研究期間は6ヵ月以上2年以内とする。

(入学資格及び入学)

第47条 科目等履修生の入学資格は本学則第31条及び第31条の2に準ずる。

2 研究生として理工学研究科に入学できる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 理工学研究科修士課程を修了した者、又はこれと同等以上の学力があると認められた者

(2) 理工学研究科博士(後期)課程を修了又は終了(満期退学)した者及びこれらと同等以上の学力があると認められた者

3 科目等履修生、研究生は理工学研究科の学生の授業、研究に支障のない限り理工学研究科委員会の議を経て、学長が入学を許可する。

(単位の修得証明)

第48条 科目等履修生が試験に合格した時は、単位修得証明書を交付する。

第49条 研究生はその研究成果についての研究証明書の交付を受けることができる。

(学費等)

第50条 科目等履修生及び研究生の学費等は、付表8のとおりとする。

(学則の準用)

第51条 科目等履修生、研究生については、本章に規定するもののほか本学則各章の規定を準用する。

第10節 研究指導施設及び厚生保健施設

(図書館)

第52条 本学の図書館は理工学研究科の教員及び学生の閲覧に供する。

(学科・付置機関の施設等)

第53条 本学各学部学科及び付置機関の施設、設備等は必要に応じ、理工学研究科学生の研究指導に充てることができる。

(厚生保健施設)

第54条 理工学研究科学生は、本学の諸厚生施設を利用することができる。

第11節 賞罰

(表彰)

第55条 人物・学業ともに優秀な者は、これを表彰する。

(懲戒)

第56条 理工学研究科の学則及び諸規程に背き、又はその他学生の本分にもとる行為があった者は、理工学研究科委員会の議を経て懲戒処分に付する。

2 懲戒処分はその事情によって譴責・停学及び退学の3種とする。

3 次の各号の一つに該当する者は、退学を命ずる。

(1) 入学誓約書に違反した者

(2) 性行不良で学生の品位を汚し、その改善の見込みがない者

(3) 学生の本分に反した者

第12節 雑則

(規程の改廃)

第57条 本学則の改廃は、理工学研究科委員会の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 本学則は、昭和38年4月1日から施行する。
- 2 本改正学則は、昭和42年4月1日から施行する。
- 3 本改正学則は、昭和47年8月1日から施行する。
- 4 本改正学則は、昭和50年4月1日から施行する。
- 5 本改正学則(定員変更を含む)は、昭和51年4月1日から施行する。
機械工学専攻、建設工学専攻の総定員は、昭和51年度においてそれぞれ8名、10名とする。
- 6 本改正学則は、昭和52年4月1日から施行する。
- 7 本改正学則は、昭和53年4月1日から施行する。ただし、学費等は昭和53年度以降の入学生に適用する。
- 8 本改正学則は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、入学検定料は昭和53年7月1日から適用する。
- 9 本改正学則は、昭和55年4月1日から施行する。ただし、入学検定料は昭和54年7月1日から適用する。
- 10 本改正学則は、昭和56年4月1日から施行する。ただし、学費等は昭和56年度以降の入学生に適用する。
- 11 本改正学則は、昭和57年4月1日から施行する。
- 12 本改正学則は、昭和58年4月1日から施行する。
- 13 本改正学則は、昭和58年4月1日から施行する。ただし、入学検定料は昭和58年7月1日から適用する。
- 14 (授業科目・単位数の一部変更並びに学費等の変更)
本改正学則は、昭和60年4月1日から施行する。ただし、学費等は昭和60年度入学生に適用する。
- 15 (授業科目の一部変更並びに入学検定料、学費等の変更)
本改正学則は、昭和61年4月1日から施行する。ただし、入学検定料は昭和61年2月1日より実施し、学費等は昭和61年度以降の入学生に適用する。
- 16 (授業科目・単位数の一部変更)
本改正学則は、昭和62年4月1日から施行する。
- 17 (授業科目・単位数の一部変更)
本改正学則は、昭和63年4月1日から施行する。
- 18 (授業科目・単位数の一部変更並びに学費等の変更)
本改正学則は、平成元年4月1日から施行する。ただし、入学検定料及び研究生の検定料は平成元年2月1日より適用し学費等は平成元年度入生より適用する。

19 (授業科目・単位数の一部変更、教員組織、委員会組織等一部変更に伴う条文修正並びに学費等の変更)

本改正学則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、学費等は平成2年度入学生に適用する。

20 (授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料、学費等の変更)

本改正学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、学費等及び入学検定料は平成3年度入学生より適用する。

21 (学費の一部変更)

本改正学則は、平成3年10月1日から施行する。

22 (大学院設置基準の改正に伴う学則条文の一部改正、付表の授業科目・単位数及び学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成4年4月1日から施行する。ただし、第15条は平成4年3月18日より、学費等は平成4年度入学生より適用する。

23 (学則条文の一部改正並びに付表の収容定員、授業科目等及び学費の変更)

この学則(改正)は、平成5年4月1日から施行する。ただし、学費等は平成5年度入学生より適用する。第18条第2項の委員長の任期は平成6年4月1日より適用する。

24 (学則条文の一部改正並びに付表の研究指導、授業科目・単位数及び学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成6年4月1日から施行する。

25 (学則条文の一部改正並びに付表の博士(後期)課程の専攻、入学・収容定員、研究指導科目・単位数及び学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成7年4月1日から施行する。ただし、この学則は、平成7年度入学生より適用する。

26 (専攻名称変更に係る学則条文第5条の一部改正。付表の収容定員、修士課程研究指導並びに授業科目及び単位数等の一部変更)

この学則(改正)は、平成8年4月1日より適用する。

(経過措置)

工学研究科修士課程金属工学専攻は、平成8年3月31日に当該専攻に在学するものが当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

27 (授業科目・単位数の一部変更並びに学費等の変更)

この学則(改正)は、平成8年4月1日から施行する。ただし、学費等は平成8年度入学生より適用する。

28 (授業科目・単位数等の一部変更並びに学費等の変更)

この学則(改正)は、平成9年4月1日から施行する。ただし、学費等は平成9年度入学生より適用する。

29 (授業科目・単位数等の一部変更並びに学費等の変更)

この学則(改正)は、平成10年4月1日から施行する。ただし、学費等は平成10年度入学生より適用する。

30 (授業科目・単位数等の一部変更並びに学費等の変更)

この学則(改正)は、平成11年4月1日から施行する。ただし、学費等は平成11年度入学生より適用する。

31 (付表の収容定員、授業科目・単位数等の一部変更並びに学費等の変更)

この学則(改正)は、平成12年4月1日から施行する。ただし、学費等は平成12年度入学生より適用する。

32 (専攻名称変更に係る学則条文第5条の一部改正、付表の研究指導・授業科目及び単位数等の一部変更並びに学費等の変更)

この学則(改正)は、平成13年4月1日より施行する。ただし、学費等は平成13年度入学生より適用する。

(経過措置)

工学研究科修士課程工業化学専攻は、平成13年3月31日に当該専攻に在学するものが当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

33 (授業科目・単位数等の一部変更並びに運営組織、研究科長及び委員長、大学院各課程委員会の審議事項、除籍一部変更に伴う条文の修正)

この学則(改正)は、平成14年4月1日より施行する。

34 (授業科目・単位数等の一部変更)

この学則(改正)は、平成15年4月1日より施行する。

35 (工学マネジメント研究科設置に伴う構成の一部変更)

この学則(改正)は、平成15年4月1日より施行する。

36 (専攻名称変更に係る学則条文第5条の一部改正。付表の収容定員、研究指導、授業科目・単位数等の一部変更)

この学則(改正)は、平成16年4月1日より施行する。

(経過措置)

工学研究科修士課程電気工学専攻は、平成16年3月31日に当該専攻に在学するものが当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

37 (研究指導、授業科目・単位数等の一部変更並びに委員会組織変更に伴う条文の一部修正)

この学則(改正)は、平成16年4月1日より施行する。

38 (学費等に係る学則条文第39条の一部改正、付表の研究指導、授業科目・単位数等の一部変更)

この学則(改正)は、平成17年4月1日より施行する。ただし、第39条の休学期間の学費の取り扱いは、平成17年度の在籍者から適用する。

39 (設置場所変更に係る学則条文第2条の一部改正、付表の収容定員の変更、付表の研究指導、授業科目・単位数等の一部変更)

この学則(改正)は、平成18年4月1日より施行する。

40 (目的及び教員組織に係る学則条文第1条、第16条の一部改正並びに付表の研究指導、授業科目・単位数等の一部変更)

この学則(改正)は、平成19年4月1日より施行する。

41 (付表1収容定員 博士(後期)課程の定員増)

この学則(改正)は、平成20年4月1日より施行する。

42 (学則条文第24条 入学の時期の一部改正)

この学則(改正)は、平成20年4月1日より施行する。

43 (学則条文第38条学費等の一部改正、及び学則条文第40条再入学金の削除。付表の4入学検定

料の削除)

この学則(改正)は、平成20年4月1日より施行する。

- 44 (修業年限及び在籍年数に係る学則条文第4条の一部改正、休学に係る学則条文第30条の一部改正、退学に係る学則条文第32条の一部改正、除籍に係る学則条文第37条の一部改正、付表の研究指導、授業科目・単位数等の一部変更)

この学則(改正)は、平成20年4月1日より施行する。

- 45 (教育課程の編成方針、成績評価基準等の明示等、教育内容等の改善のための組織的な研修等、他の大学院又は研究所等における研究指導、他の大学院との協議に基づく授業科目の履修の取扱、入学前の既修得単位の取扱いに係る学則条文第7条、第9条、第10条、第13条、第15条、第16条の追加)

この学則(改正)は、平成21年4月1日より施行する。

- 46 (副専攻プログラムに係る学則条文第7条の2、第21条の2の追加)

この学則(改正)は、平成21年4月1日より施行する。

- 47 (学費等に係る学則条文第45条3及び付表4の改正)

この学則(改正)は、平成21年4月1日より施行する。

- 48 (目的に係る学則第1条の一部変更及び教育研究上の目的第4条の追加)

この学則(改正)は、平成22年4月1日より施行する。

- 49 (専修科目及び指導教員に係る学則第13条の変更)

この学則(改正)は、平成22年4月1日より施行する。

- 50 (教員組織に係る学則第23条の一部変更)

この学則(改正)は、平成22年4月1日より施行する。

- 51 (研究指導、授業科目・単位数等の一部変更)

この学則(改正)は、平成22年4月1日より施行する。

- 52 (研究科名称変更に係る学則条文第3条、第6条、第7条、第11条、第12条、第14条、第15条、第21条、第24条、第25条、第26条、第27条、第28条、第30条、第32条、第32条の2、第35条、第40条、第41条、第42条、第49条、第58条、第59条の一部改正、システム理工学専攻設置に係る学則条文第6条の一部改正。付表の入学・収容定員、研究指導科目・単位数の一部変更)

この学則(改正)は平成23年4月1日から施行する。

- 53 (休業日に係る学則条文第30条の一部改正)

この学則(改正)は平成23年4月1日から施行する。

- 54 (目的に係る学則条文第1条の一部改正及び教育研究上の目的学則条文第4条の一部改正。付表1に人材養成に係る目的を追加)

この学則(改正)は、平成24年4月1日より施行する。

- 55 (教育職員の免許状に係る学則条文第17条の2の追加。付表3に教育職員免許状の種類・教科を追加)

この学則(改正)は、平成24年4月1日より施行する。

- 56 (学位授与の基準に係る学則条文第21条の2の追加。付表6に学位授与基準を追加)

この学則(改正)は、平成24年4月1日より施行する。

- 57 (履修方法に係る学則条文第15条(1)の一部改正)

この学則(改正)は、平成25年4月1日より施行する。

58 (付表2の建設工学専攻及びシステム理工学専攻の収容定員の一部改正)

この学則(改正)は、平成25年4月1日より施行する。

59 (付表2の建設工学専攻の人材の育成及び教育研究上の目的の一部改正)

この学則(改正)は、平成25年4月1日より施行する。

60 (入学資格に係る学則条文第32条、第32条の2の一部改正)

この学則(改正)は、平成26年4月1日より施行する。

61 (付表1の機械工学専攻及び機能制御システム専攻の人材の育成及び教育研究上の目的の一部改正)

この学則(改正)は、平成26年4月1日より施行する。

62 (付表の研究指導・授業科目・単位数等・学位審査基準の一部改正)

この学則(改正)は、平成26年4月1日より施行する。

63 (学校教育法及び同規則改正に伴う第26条、第27条、第28条の一部改正。並びに大学院協議会の代行に係る第28条第2項の改正)

この学則(改正)は、平成27年4月1日より施行する。

64 (付表1の人材の育成及び教育研究上の目的の一部改正)

この学則(改正)は、平成27年4月1日より施行する。

65 (設置場所に係る条文第2条、教育研究上の目的に係る条文第4条、教育課程の編成方針に係る条文第8条、学費等に係る条文第46条及び付表の改正)

この学則(改正)は、平成28年4月1日より施行する。

66 (学則条文第25条の2を追加する)

この学則(改正)は、平成28年6月15日より施行する。

67 (学則条文第27条の2(4)研究科長の選挙に関する事項の削除)

この学則(改正)は、平成28年6月15日より施行する。

68 (学則第1条の2の一部改正。第1条の3に認証評価を追記。第3条4項及び5項の一部改正。第6条に専攻を追記。第9条を授業及び研究指導、授業の方法に分類。第17条2項を一部改正。第30条を一部改正。付表1-1の理工学研究科の人材養成に係る目的の一部改正。付表1-2の理工学研究科教育課程の編成方針の一部改正。付表2の収容定員の一部改正。付表3の研究指導並びに授業科目及び単位数を一部改正。付表6 理工学研究科学位授与方針、学位審査基準の一部改正)

この学則(改正)は、平成29年4月1日より施行する。

69 (学則第3条の1の一部改正)

この学則(改正)は、平成31年4月1日より施行する。

70 (兵役義務により休学する場合の学費免除に係る学則第37条、学則第46条4の一部改正)

この学則(改正)は、平成31年4月1日より施行する。

71 (付表2の収容定員の一部改正)

この学則(改正)は、平成31年4月1日より施行する。

72 (学則第13条第3項及び第4項の削除、第17条第2項の一部改正、第27条第2項の一部改正、第40条第1項の一部改正、第40条の2～第57条の改正)

この学則(改定)は、令和2年4月1日より施行する。

73 (社会基盤学専攻・建築学専攻設置に係る学則条文第6条の一部改正、付表の一部改正、学則第16条第3項、第17条第1項、第2項、第3項、第4項の一部改正、第17条の2の改正、第31条、第31条の2の一部改正、第47条の一部改正)

この学則(改定)は、令和3年4月1日より施行する。

74 (学則第36条及び第44条の一部改正)

この学則(改定)は、令和4年4月1日から施行する。ただし、第44条の休学期間中の学費の取扱は、令和4年度の在籍者から適用する。

75 (学則第1条の2、第2条、第39条、付表の一部改正)

この学則(改定)は、令和5年4月1日より施行する。

76 (付表1-2、付表6の修正)

この学則(改定)は、令和6年4月1日より施行する。

77 (付表2の収容定員の一部改正)

この学則(改定)は、令和7年4月1日より施行する。

付表1-1

理工学研究科教育方針

理工学研究科の人材養成に係る目的

1 修士課程

大学院修士課程では、専門分野における専門家としての知識と意識を持ち、社会の新しい側面に対応し、それを即戦力として活用でき、さらに持続型社会の構築に貢献できる技術者・研究者の育成を目指す。このような人材には、高度な専門知識に裏付けられた、問題発掘能力や定量的に問題を解決する能力、さらにはグローバル社会に対応できる能力が求められる。これらの能力が養われるように、大学院修士課程では、国際的に通用する幅広い見識と柔軟思考を両輪とする教育研究が展開される。

専攻

専攻名	人材の育成及び教育研究上の目的
電気電子情報工学専攻	<p>今日、エネルギー・環境・宇宙・ナノ物性・デバイス・情報・通信など電気系の技術を抜きにして持続可能かつ高度で豊かな社会システムの構築を行うことは不可能です。本専攻では、産業技術基盤でもあるこれらの電気・電子・情報・通信関連技術に対する社会の要求に応えるため、①高度な専門知識修得と応用力養成、②問題の発見・解決能力の開発・養成、③プレゼンテーション・コミュニケーション能力の養成、④協調性・倫理観の養成、を主な教育目標に定め、優れた専門技術者・研究者を育成することを目指しています。</p> <p>上記の目標達成のために、本専攻は、電気・情報系の学問・技術領域を広くカバーし、そのほとんどの課題・問題に対応できる体制になっています。また、将来の進展が期待される斬新かつオリジナルな研究テーマにも即応できるようにしています。具体的には、本学の電気系学科が一体となって専攻を形成し、学部・学科を超えた大学院教育を実現しています。さらに、教育研究指導を、(1) 材料・デバイス、(2) 回路・制御、(3) 電力・エネルギー、(4) 通信、(5) 情報、(6) 情報科学、(7) ロボティクス・メカトロニクス、(8) バイオ・生体の8つの専門分野に分け、学生の希望に沿える教育研究体制としています。</p>
材料工学専攻	<p>材料工学専攻は、材料・物質に対する高度な知識、材料製造・開発の即戦力として活躍するための問題発見能力、解決能力に加えて、国際的に通用する幅広い見識を有し、持続可能な社会の実現に貢献できる技術者・研究者を養成することを目的とする。</p>
応用化学専攻	<p>科学と技術の発達は豊かな物質文明を与えてくれた反面、地球温暖化や生態環境の汚染など負の結果ももたらしました。化学工業においても、高機能であると同時に製造・使用・廃棄過程で環境に負荷を与えない物質や材料、環境に排出された汚染物質の除去や希少物質の回</p>

	<p>収を可能にする技術の開発が求められています。また、化石燃料に替わる再生可能エネルギーの製造、利用技術の開発も重要になっています。応用化学専攻では化学に対する深い理解のみならず、高度な学識と技術、幅広い教養、柔軟で適切な問題解決能力を身に付け、上記“持続可能な社会”の要求に応えられる研究者や技術者を養成し、国際社会に輩出することを目的としています。</p>
<p>機械工学専攻</p>	<p>機械工学は、「モノづくり」を通じて、人類の生活とそれを取り巻く地球環境について持続可能な社会を築くための基盤となる工学分野です。機械工学専攻では、環境、エネルギー、安全・安心、利便性などの社会ニーズを的確に把握できる能力、多彩な専門知識を柔軟に適用し、グローバルな視点から物事を複合的に考察・判断できる能力を育成し、さらに、新しい分野を切り拓くチャレンジ精神と実践能力を身に付けることを目標としています。</p> <p>機械工学専攻では9部門に分かれて研究指導コースが用意されており、各々基盤的な分野でのミクロな技術に関する研究から複合的な応用技術、システム技術に関するマクロな技術の分野まで幅広い研究教育が実践されています。また分野的にも、材料・構造力学、流体、熱・エネルギーなどの機械工学のベースから、ロボット、自動車、新エネルギーシステム、福祉工学、さらにバイオ関連や医療工学、デザイン工学などの複合的なモノづくりに関するシステム技術までをカバーしています。これらの研究を通じて、専門知識を学ぶだけでなく、技術者倫理を意識し自ら問題設定ができ、その解決へ向けて工学を實踐できる、グローバルな視点で社会貢献できる技術者の育成を大きな目標としています。また具体的なテーマの課題解決プロセスを通じて、常に新しいものにチャレンジできる教育プログラムを組んでいます。</p>
<p>システム理工学専攻</p>	<p>現代社会の問題は、ひとつの専門分野の枠を越えています。その解決方法は、未来への確かな展望のもと、環境問題、資源問題、あるいは伝統的文化や価値観などとの調和を基本に据えて、さまざまな技術や科学的要素の関連づけにより総合的に形成されています。</p> <p>システム理工学専攻では、持続可能な社会の実現のために現代社会の問題を複数分野の科学技術、文化・価値観、社会・環境、技術者倫理などを踏まえて柔軟に設定し、①必修科目、②研究指導科目、③選択科目、④共通科目の修得により得られた自身の核となる専門知識、領域を超えた背景知識とシステム思考を基本にして、複数領域を横断した問題の発掘力と総合的問題解決力を有する研究者及びエンジニアの養成を目標としています。</p>
<p>国際理工学専攻</p>	<p>社会や国家経済のグローバル化に伴い、知識を活用し地域社会及びグローバル社会全体のために貢献できる技術者の養成が求められて</p>

	<p>います。</p> <p>国際理工学専攻は、英語を教授・学修媒体とする理工学系の修士課程です。多国籍な環境の中で横断的な教育を提供しています。</p> <p>本専攻は、本学の人材育成目標である「世界に学び世界に貢献する理工学人材の育成」を大学院教育で具現化するものです。</p> <p>本専攻の使命は、世界から学び、地球規模の持続可能性に貢献する技術者・科学者を育成することです。</p> <p>教育目標は、指導教員の専門分野における専門的な知識と実践力を持ち、世界中の専門家と英語でコミュニケーションをとり、工学的・社会経済的な問題を解決できる次世代の技術者・科学者を育成することにあります。</p> <p>本専攻では上記目標達成のために、電気工学分野、電子情報工学分野、材料工学分野、応用化学分野などの主要な工学分野の専門科目と研究指導科目に加えて、共通科目やビジネス開発専門分野を含む副専攻科目を提供しています。</p>
社会基盤学専攻	<p>社会基盤学専攻では、人々の生活に必要な不可欠な社会基盤を建設・管理する技術や制度及び、防災・環境問題に関する技術や制度に関する知識と問題解決能力を備え、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを目的としている。</p>
建築学専攻	<p>建築学専攻は、豊かな建築・都市空間の創造を通して、人間文化の発展と持続可能な社会の実現に寄与し、環境の大きな変化と多様な価値観が共存する現代国際社会において、自然科学から人文社会科学におよぶ学際的視点を備えつつ、建築学に基づく解決方法をもって活躍できる人材を育成することを、教育研究上の目的とする。</p>

2 博士(後期)課程

<p>大学院博士(後期)課程では、研究者ポテンシャルの向上を目指して、大学院修士課程の修了者あるいは社会の第一線で活躍している技術者を対象に、豊かな学識を有する専門技術者及び研究者として育成することを目的とする。学際的観点から自己の専門分野を深めることにより、ソフト・ハード両面にわたって総合的な見地に立ち、システム全体の調和を図ること、及び持続型社会の構築に貢献できる能力の獲得を目指す。</p> <p>さらに、産業界で活躍できる博士号取得者となることができるように、複眼的工学能力、技術経営能力、メタナショナル能力を併せ持つシグマ型統合能力人材の育成を行う。</p> <p>上記の人材養成を核とする大学院博士(後期)課程における教育研究は、大学の使命である研究推進を担う中核としての役割も担う。</p>

専攻名	人材の育成及び教育研究上の目的
地域環境システム専攻	都市のような限定された地域においては、人間の社会的、文化的活動が、そこでの生活環境に好ましくない影響を及ぼすことが少なくな

	<p>い。地域の持続的発展には、地域活動の活性化と、生活環境の保全との調和が不可欠である。</p> <p>また、その実現には、電気電子・材料・化学・機械・建設工学など、幅広い分野にわたる課題に取り組む必要がある。</p> <p>地域環境システム専攻は、自らの専門分野の研究を深めると同時に、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を洞察し、異なる専門分野の研究者が互いの情報を交換することを通じて、地域環境におけるより良い社会・文化・生活の基盤形成に寄与し、持続可能な社会を実現することを目的とする。その教育目標は、地域環境に関する幅広い視野を持ち、高い専門性を活かして、この目的を達成できる人材の育成にある。</p>
機能制御システム専攻	<p>20世紀の日本は、効率性及び利便性を重視し、利益向上を求めてモノづくりに励んできた。結果として環境破壊などの矛盾が生じた。現在、これらの矛盾を解消しつつ、自動車、ロボット、エレクトロニクス、情報通信などの分野で、日本は世界をリードする技術を有している。そして、それらの技術は益々複雑化している。今後のグローバル社会において、科学技術のリーダとして世界に貢献するには、対象を深く解析し理解する能力に加えて、複雑化する技術の全体像を掌握し、システム全体の調和を図ることの出来る高い設計能力と技術経営能力が必須となる。</p> <p>例えば、東日本大震災直後に起きた原発事故では、社会における技術のマネジメント、実装と運用まで含めた社会における技術の利用に関するシステム化技術の重要性が再認識されるなど、再度実学教育を考え直す時期に来ています。また2015年に持続発展のための17の目標達成(SDGs)が国連全加盟国によって採択された。これはグローバルな価値観を持ち、国際的に活躍できる研究者・技術者の育成が求められていることも意味している。</p> <p>機能制御システム専攻では以上の背景の下に、グローバルな価値観を持ち、科学の真理を把握した上で、世界の研究者・技術者と協働して持続型社会実現のための世界の諸問題を解決できる優秀な研究者・技術者を養成するための教育研究を行うことを目的とする。本専攻は、通信機能制御、機能デバイス制御、システム制御、生命機能制御など、多くの教育研究分野を有し、学際的な教育研究を展開する。それにより、指導者の分野のみの教育研究に特化することなく、専攻全体が多様性をベースとした関連性を意識し積極的に連携しつつ、技術マネジメント基礎力や技術英語力、共通した価値観・倫理観などを兼ね備えた研究者・技術者の養成を目指す。</p>

付表1-2

理工学研究科教育課程の編成方針

1 修士課程

<p>大学院理工学研究科修士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる技術者を養成するため、以下の方針に基づきカリキュラムを編成しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度かつ幅広い専門知識の習得のために「専門科目」を配置します。さらには、英語による「専門科目」も配置し、グローバル社会で対応できる専門分野でのコミュニケーション基礎能力の養成を行います。また、学位取得に必要な「専門科目」の単位を英語のみで取得することも可能としています。 ・指導教員による研究指導のもとで専門的な研究に取り組むために「研究指導」科目を配置します。「研究指導」では、研究計画の策定、研究関連論文の調査、指導教員との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、グローバル社会で活躍できる技術者・研究者の養成を行います。 ・世界と社会の多様性の認識、倫理観やコミュニケーション基礎力を養成するために専攻横断型の「共通科目」を設置します。 ・複眼的工学能力、技術経営能力及びメタナショナル能力を併せ持つシグマ型統合能力人材の育成を目的として「共通科目」の一部で構成される「技術経営副専攻プログラム」を設置しています。理工学研究科では本プログラムの履修を奨励します。
--

専攻

専攻名	教育課程の編成方針
電気電子情報工学専攻	<p>本学の教育目的(建学の精神)である、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」に基づき、電気電子情報工学専攻は、教育目標として、「総合的問題解決能力を備えた世界に貢献できる技術者育成」を掲げています。この教育目標を達成するための体系的カリキュラムと組織でのPDCAのために、2年間の体系的・組織的なアクティブラーニング改革、学修成果の可視化と学生の学修時間のPDCAサイクルによる保証、教育改革の推進体制の強化、教職学協働による学修の保証、を遂行しています。</p> <p>電気電子情報工学専攻の求める人物像は、電気・電子・情報・通信関連の研究開発や生産に従事する技術者として将来活躍することを希求する人です。また、育成する人材像は、高度な電気・電子・情報・通信システムの構築に従事する技術者です。</p> <p>本専攻は、上記の目標達成のために、教育研究指導を、(1)材料・デバイス、(2)回路・制御、(3)電力・エネルギー、(4)通信、(5)情報、(6)情報科学、(7)ロボティクス・メカトロニクス、(8)バイオ・生体、に分け、学生の希望に沿える教育研究体制としています。さらに、それぞれの分野の履修モデルを提供しています。このモデルを参照して、研究指導(演習・実験)や、その他の授業科目を履修し、修了に必要な30単位を取得することで、研究の準備・実行が可能となっています。</p>

	<p>教育目標に対する学生の学修成果は、次のように評価しています。</p> <p>①「高度な専門知識修得と応用力養成」については、主に、授業科目のレポートや試験で評価します。②「問題の発見・解決能力の開発・養成」、③「プレゼンテーション・コミュニケーション能力の養成」、④「協調性・倫理観の養成」は、主に、研究指導(演習・実験)を通じて評価します。さらに、それらの総合的な能力を評価するために、内外の学会、会議などでの対外発表も修了要件の一つとしています。</p>
材料工学専攻	<p>材料工学専攻のカリキュラムは、学部教育のカリキュラムの延長上に位置づけられ、より高度な材料工学に関する知識や経験を修得できるように工夫されている。材料工学専攻の学生は、材料の物理や化学に関する基礎的な視点や材料工学の応用に係る理論等について解説する講義と、演習やプレゼンテーションを中心とした講義を選択して受講し、自らの研究分野に関連した知識を深めることができる。また、修士論文の研究においては、研究を発案・実行し、その成果を学会等で発表することで、工学の技術者・研究者としての経験や視野の広さを身につけることができる。</p>
応用化学専攻	<p>専門とする化学分野に対する理解を深めると共に、関連する他の化学分野の基礎知識や先端技術も幅広く理解する力を養うために、以下の方針に基づき、講義科目として(英語による講義を含む)を開設しています。</p> <p>(1) 幅広い分野の講義科目が開設されており、これら講義科目群から18単位以上を修得することにより、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学など基幹となる専門知識に加え、生命科学、化学工学などの学際領域にかかわる知識を取得できるように配慮されたカリキュラムになっています。</p> <p>(2) 問題発見・解決能力を実践的に養うために、特別演習、特別実験など研究指導科目が用意されています。単位を取得した後の課程後半では、専門技能の錬成に専念して、修士論文を完成させることができます。</p> <p>(3) 得られた研究成果を積極的に発信(学会発表や論文発表)できるような指導を行っています。</p>
機械工学専攻	<p>機械工学専攻では、次の方針に沿って教育を行います。</p> <p>(1) 社会のニーズを的確に捉え、問題設定ができる能力を身につける。</p> <p>(2) 問題解決において専門知識を適切に利用できる能力を身につける。</p> <p>(3) 物事を様々な角度から捉え複眼的に考察する姿勢を身につける。</p> <p>(4) グローバルな視点から問題解決に取り組む姿勢及びコミュニ</p>

	<p>ケーション能力を身につける。</p> <p>(5) 新しい分野に挑戦する意欲的姿勢、豊かな教養と高い倫理観を身につける。</p> <p>(6) 持続可能な社会を意識して問題解決にあたる姿勢を身につける。</p> <p>(7) 上記に基づく質の高い教育を専攻内のすべての学生が受けられるよう、見直し・改善を継続的に行う。</p>
システム理工学専攻	<p>教育研究上の目的を達成するために、以下の教育研究を実施します。</p> <p>(1) 必修科目の学修により、総合的問題解決を図る「システム思考」、目的達成のための機能をデザインする「システム手法」、問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を、シンセシス(統合的な思想)主導による領域横断型の教育研究を通じて修得させます。また、この科目は、分野混成プロジェクトによる特別演習を伴い、その演習を通じてコミュニケーション力やリーダーシップ力を身に付けさせます。</p> <p>(2) 機械・制御、電子・情報、社会・環境、生命科学、数理科学の5分野から、自身の専門的知識の核となる分野で研究指導科目を定め、その分野に対する専門的問題解決力の修得を実現します。</p> <p>(3) 研究指導科目への取り組みを通じて、各自が設定したテーマを解明し総合的解決策を導き出す能力を修得するとともに、修士論文の作成を通じて修得した知識の体系化能力を身に付けさせます。</p> <p>(4) すべての分野に対して、自身が必要とする知識を選択科目として履修、修得することを可能にします。この結果、領域を超えた背景知識が得られます。</p> <p>(5) 共通科目の学修を通じて、コミュニケーション力を身につけるとともに、個々の科学技術を総合して問題解決を実行するための人間力の修得、社会に貢献するエンジニアとしての技術倫理観を身に付けさせます。</p>
国際理工学専攻	<p>国際理工学専攻では、学位授与方針で定めている知識・技術及び心構えを身につけることを目標として、以下の教育研究カリキュラムを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専攻必須科目の学修による専門知識及び分野横断的な基礎知識を身につける。 2 英語開講科目による英語コミュニケーション能力及び口頭・筆記による技術英語力を身につける。 3 研究指導による専門知識及び問題の発見と解明、解決策を導き出す能力を身につける。 4 海外留学及びインターンシップによる異文化交流を通して、世

	<p>界的な潮流における多様性と適応性の重要性を体験できる。</p> <p>5 研究指導より高い倫理観を身につける。</p> <p>6 修士論文の作成を通して、英語による論理展開や理工学的な文章の書き方などの研究成果を体系化する能力を身につける。</p> <p>7 学会発表等の学術的活動を通して、情報発信能力を身につけ、それによる社会貢献を体験する。</p>
<p>社会基盤学専攻</p>	<p>社会基盤学専攻では、ディプロマ・ポリシー及び教育研究上の目的に沿って、以下の能力を修得させることを目標にカリキュラムを構成しています。</p> <p>(1) 社会基盤学が対象とする構造物、自然、社会からなる総合システムを自然科学と社会科学に基づいて扱うことができる。</p> <p>(2) 人と環境の関係の正しい理解のもと、社会を取り巻く種々の環境要因を的確に分析し、持続可能な社会づくりと新しい環境システムの実現に貢献することができる。</p> <p>(3) 社会基盤分野の専門知識を体系的に修得し、問題解決に応用することができる。</p> <p>(4) 社会基盤分野における課題を発見・整理・分析し、合理的な解決方法を示すことができる。</p> <p>(5) 社会基盤に関する事項について、自らの意見を他者に論理的に伝え、高度な議論ができる。</p> <p>(6) グローバル社会において、社会基盤分野での基礎的なコミュニケーションが取れる。</p> <p>(7) 社会基盤が社会・環境に及ぼす影響を考え、技術者の責任と役割を理解し、技術者倫理を遵守することができる。</p>
<p>建築学専攻</p>	<p>ディプロマ・ポリシー及び教育研究上の目的に沿って、建築学専攻では以下に掲げる能力を修得させることを目標にカリキュラムを設計しています。</p> <p>A)建築学が対象とする建築、都市、自然、社会からなる総合システムを自然科学と社会科学に基づいて扱うことができる。</p> <p>B)都市やまち、建築などの背景となる歴史、風土、習慣、芸術や国際情勢などの知識を修得し、将来に続く豊かな人間文化の創造に役立たせることができる。</p> <p>C)人と環境の関係の正しい理解のもと、都市・建築を取り巻く種々の環境要因を的確に分析し、持続可能な社会づくりと新しい都市・建築の実現に貢献することができる。</p> <p>D)専門とする分野の専門知識を体系的に修得し、問題解決に応用することができる。</p> <p>E)人や社会が満足できる都市、まち、建築を実現するために、条件</p>

	<p>や課題を発見・整理・分析し、合理的な解決方法を示すことができる。</p> <p>F)建築技術の基礎的な数理的知識を応用して、科学的な側面から高度に把握することができる。</p> <p>G)記述や討議、プレゼンテーションなどを通して、自らの意見を他者に論理的に伝え、さらに、高度な議論ができる。</p> <p>H) PBLの実践を通して他者理解や他者と協働した課題への取り組み方及び異文化に属する者や専門分野が異なる者との協働の仕方を身につけ、グローバル化に対応した社会貢献ができる。</p> <p>D)建築が人、社会、環境に及ぼす影響を考え、建築に携わる責任と役割を理解し、技術者倫理を遵守することができる。</p> <p>さらに、各授業科目では一方向的な知識の伝達ではなく、学生同士や教員との濃密な議論を通じて専門的知識と技術の深化をはかります。また、各授業科目では、評価方法・評価基準を厳密に設定し、修士号に相応しい学修成果を多面的に評価し、所定の学修・教育到達目標を達成します。</p>
--	---

2 博士(後期)課程

<p>大学院理工学研究科博士(後期)課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる研究者・技術者を養成するため、ソフト・ハード両面に渡り総合的な視点から専門性の研鑽ができるように以下の方針に基づきカリキュラムを編成しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士論文作成に必要な高度な知識や実験スキルの養成を行うため、「専門科目」を配置します。 ・「研究指導」においては、指導教員による研究指導のもとで、研究計画の策定、研究関連論文の調査、指導教員との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、グローバル社会で活躍できる研究者・技術者の育成を行います。 ・将来の自律した研究者・教育者の養成のために「プレFD科目」を配置します。 ・また、複眼的工学能力、技術経営能力及びメタナショナル能力を併せ持つシグマ型統合能力人材の育成を目的として、修士課程の共通科目の一部の「技術経営副専攻プログラム」の履修を奨励しています。

専攻名	教育課程の編成方針
地域環境システム専攻	<p>地域環境システム専攻では、地域環境計画・環境材料工学・エネルギー環境工学・環境防災工学・先端マネジメント工学の分野において、地域や環境に関する総合的な見地からシステム全体の調和を図ることができ、創造性が豊かな優れた研究推進・開発能力をもち、世界の研究者・技術者と協働して、高い倫理観から持続型社会の実現のための世界の諸問題を解決できる、そのような高度な専門性を有する研究者及び高度職業人を養成することを目的にしています。</p> <p>そのため、ソフト・ハード両面に渡り総合的な視点から専門性が</p>

	<p>研鑽できるように、以下の方針に基づきカリキュラムを編成しています。</p> <p>博士（工学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域環境システムの各分野において、博士論文作成に必要な高度な知識や実験スキルの養成を行うため、「専門科目：特論」を配置します。（DP の資質・能力2,3 に対応） 2. 地域環境システム各分野の「研究指導：特別研究」においては、指導教員による研究指導のもとで、研究計画の策定、研究関連論文の調査、指導教員との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、グローバル社会で活躍できる研究者・技術者の育成を行います。（DP の資質・能力1,4 に対応） 3. 将来の自律した研究者・教育者の養成のために研究倫理教育プログラムの受講を必須とするとともに、「プレFD 科目」を設置して受講を奨励します。（DPの資質・能力5 に対応） 4. 複眼的工学能力、技術経営能力およびメタナショナル能力を併せ持つシグマ型統合能力人材の育成を目的として、修士課程の共通科目の一部の「技術経営副専攻プログラム」の履修を奨励しています。（DP の資質・能力1,4,5に対応） <p>博士（学術）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域環境システムの各分野において、博士論文作成に必要な高度な知識や実験スキル、他分野と融合した学際領域の研究遂行能力の養成を行うため、「専門科目：特論」を配置します。（DP の資質・能力2,3 に対応） 2. 地域環境システム各分野の「研究指導：特別研究」においては、指導教員による研究指導のもとで、研究計画の策定、研究関連論文の調査、指導教員との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、グローバル社会で活躍できる研究者・技術者の育成を行います。（DP の資質・能力1,4 に対応） 3. 将来の自律した研究者・教育者の養成のために研究倫理教育プログラムの受講を必須とするとともに、「プレFD 科目」を設置して受講を奨励します。（DPの資質・能力5 に対応） 4. 複眼的工学能力、技術経営能力およびメタナショナル能力を併せ持つシグマ型統合能力人材の育成を目的として、修士課程の共通科目の一部の「技術経営副専攻プログラム」の履修を奨励しています。（DP の資質・能力1,4,5に対応）
機能制御システム専攻	<p>機能制御システム専攻では、通信機能制御、機能デバイス制御、システム制御、生命機能制御などの分野で、創造性豊かな優れた研究推進及び研究開発能力を持ち、世界の研究者・技術者と協働して持続型</p>

社会の実現のための世界の諸問題を解決できる高度な専門性を有する研究者及び高度職業人を養成することを目的にしています。

そのためソフト・ハード両面に渡り総合的な視点から専門性が研鑽できるように以下の方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- ・機能制御システム分野において博士論文作成に必要な高度な知識や実験スキルの養成を行うため、「専門科目」を配置します。
- ・機能制御システム分野の「研究指導」においては、指導教員による研究指導のもとで、研究計画の策定、研究関連論文の調査、指導教員との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、グローバル社会で活躍できる研究者・技術者の育成を行います。
- ・将来の自律した研究者・教育者の養成のために「プレFD科目」を配置します。
- ・また、複眼的工学能力、技術経営能力及びメタナショナル能力を併せ持つシグマ型統合能力人材の育成を目的として、修士課程の共通科目の一部の「技術経営副専攻プログラム」の履修を奨励しています。

付表2

収容定員

理工学研究科

修士課程

専攻	入学定員	収容定員
電気電子情報工学専攻	200名	400名
材料工学専攻	50名	100名
応用化学専攻	40名	80名
機械工学専攻	140名	280名
システム理工学専攻	150名	300名
国際理工学専攻	10名	20名
社会基盤学専攻	40名	80名
建築学専攻	170名	340名
計	800名	1,600名

博士(後期)課程

専攻	入学定員	収容定員
地域環境システム専攻	15名	45名
機能制御システム専攻	18名	54名
計	33名	99名

修士課程研究指導並びに授業科目及び単位数

電気電子情報工学専攻

(1) 研 究 指 導

1 / 2

部 門	研 究 指 導	研 究 指 導 科 目	単 位 数	
材料・デバイス	ナノエレクトロニクス研究	特 別 演 習	1	1
	機能材料工学研究	特 別 演 習	2	1
	光デバイス工学研究	特 別 演 習	3	2
	半導体エレクトロニクス研究	特 別 演 習	4	2
	超構造量子物質エレクトロニクス研究	特 別 実 験	1	1
回路・制御	電子回路工学研究	特 別 実 験	2	1
	電磁波回路工学研究	特 別 実 験	3	2
電力・エネルギー	エネルギー機器制御工学研究	特 別 実 験	4	2
	電力システム工学研究			
	エネルギー物性研究			
	宇宙電気推進研究			
	動的機能デバイス研究			
	電源システム工学研究			
通 信	通信情報分類工学研究			
	情報通信システム工学研究			
	音響通信情報システム研究			
	通信網工学研究			
	無線通信システム工学研究			
	無線信号処理研究			
情 報	計算機アーキテクチャ研究			
	データ工学研究			
	インタラクティブグラフィクス研究			
	応用知覚工学研究			
	分散システム研究			
	コンピュータ・メディアエータッド・コミュニケーション研究			
	基盤システム研究			
	実証的ソフトウェア工学研究			
	知能情報工学研究			
	プログラミング言語研究			
	社会情報システム研究			
	実世界インタラクション研究			
	スポーツ情報学研究			
社会情報ネットワークデザイン研究				
量子情報工学研究				
情 報 科 学	知能ソフトウェア工学研究			
	数理工学研究			
	広域分散システム研究			
	情報デザイン研究			
	情報・メディア教育研究			
メディア体験デザイン研究				
ロボティクス・メカトロニクス	ロボティクス・メカトロニクス研究			
バイオ・生体	生物電子工学研究			
	生体計測工学研究			
	生体通信工学研究			
	分子センサ工学研究			

(2) 授 業 科 目

2 / 2

授 業 科 目	単 位 数	教 職
機 能 材 料 工 学 特 論	2	工 業
半 導 体 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 特 論	2	工 業
電 子 回 路 工 学 特 論	2	工 業
集 積 回 路 工 学 特 論	2	工 業
高 周 波 回 路 工 学 特 論	2	工 業
先 端 画 像 処 理 ・ ロ ボ テ ィ ク ス 特 論	2	工 業
パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス 特 論	2	工 業
モ ー シ ョ ン コ ン ト ロ ー ル 特 論	2	工 業
量 子 ビ ー ム 応 用 特 論	2	工 業
交 流 モ ー タ 設 計 特 論	2	工 業
通 信 情 報 分 類 工 学 特 論	2	情 報
音 響 信 号 処 理 特 論	2	情 報
無 線 通 信 ネットワーク工学特論	2	情 報
デ ー タ 工 学 特 論	2	情 報
分 散 シ ス テ ム 特 論	2	情 報
コ ン ピ ュ ー タ ・ メ デ ィ エ ー テ ッ ド ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 特 論	2	情 報
基 盤 シ ス テ ム 特 論	2	情 報
実 証 の ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 特 論	2	情 報
自 然 言 語 処 理 シ ス テ ム 特 論	2	情 報
ソ フ ト ウ ェ ア 構 成 特 論	2	情 報
ソ フ ト ウ ェ ア 設 計 特 論	2	情 報
知 能 シ ス テ ム 特 論	2	情 報
画 像 メ デ ィ ア 工 学 特 論	2	情 報
離 散 数 学 特 論	2	情 報
ネ ッ ト ワ ー ク プ ロ グ ラ ミ ン グ 特 論	2	情 報
メ カ ト ロ ニ ク ス シ ス テ ム 制 御 特 論	2	工 業
メ カ ト ロ ニ ク ス 特 論	2	工 業
ロ ボ ッ ト タ ス ク ・ シ ス テ ム 特 論	2	工 業
確 率 ・ 統 計 的 推 定 シ ス テ ム 特 論	2	
セ ン サ 工 学 特 論	2	情 報
神 経 工 学 特 論	2	工 業
生 体 シ ス テ ム 工 学 特 論	2	情 報
実 世 界 イン タ ラ ク シ ョ ン 特 論	2	情 報
ス ポ ー ツ 情 報 学 特 論	2	情 報
有 限 数 学 特 論	2	情 報
イン タ フ ェ ー ス デ ザ イン 特 論	2	工 業
人 間 中 心 設 計 特 論	2	工 業
自 律 走 行 シ ス テ ム 特 論	1	
光 フ ァ イ バ セ ン シ ン グ 特 論	2	
動 的 機 能 デ バ イ ス 特 論	2	工 業
情 報 ・ メ デ ィ ア 教 育 研 究 特 論	2	
分 子 セ ン シ ン グ 特 論	2	
量 子 情 報 工 学 特 論	2	
HCI デ ザ イン 研 究 特 論	2	
メ デ ィ ア 体 験 デ ザ イン 特 論	2	
無 線 信 号 処 理 特 論	2	
モ ー タ ド ラ イ ブ シ ス テ ム 特 論	3	

授 業 科 目	単 位 数	教 職
Advanced Electronic Circuit	2	
Electric Power Control	2	
Advanced Power System	2	
Advanced Quantum - Beam Applications	2	
Ubiquitous Computing System	2	
Mobile Communication Networks	2	
Wireless Communications Network	2	
Advanced Antenna Engineering	2	
Advanced Computer Architecture	2	
Advanced Information System Engineering	2	
Advanced OS and Virtualization	2	
Topics in Data Engineering	2	
Autonomous Mobile Robot System	2	
Autonomous Driving System	1	
Robot Task & System	2	
Space Robotics	2	
Sensor Engineering	2	
Advanced Neural Engineering	2	
Bionic and biomimetic system engineering	2	
Urban and Regional Development in Information Age	2	
Advanced Seminar in Advertising Design	2	
Information Network Design	2	
Space Electric Propulsion	2	
Data Science for Human Behavior Analysis	2	
Nano Devices and Materials	2	
Optical Fiber Engineering	2	
Epitaxial Semiconductor Materials	2	

材料工学専攻

(1) 研究指導

1 / 2

部 門	研 究 指 導	研 究 指 導 科 目	単 位 数
材 料 基 礎	材 料 化 学 研 究	特 別 演 習	1 1
	材 料 物 理 研 究	特 別 演 習	2 1
	材 料 電 気 化 学 研 究	特 別 演 習	3 2
	薄 膜 材 料 研 究	特 別 演 習	4 2
	半 導 体 材 料 研 究	特 別 実 験	1 1
	ラ ン ダ ム 系 材 料 研 究	特 別 実 験	2 1
	資 源 ・ エ ネ ル ギ ー 材 料 科 学 研 究	特 別 実 験	3 2
	材 料 科 学 研 究	特 別 実 験	4 2
	先 端 材 料 研 究		
	材 料 設 計 工 学 研 究		
	観 測 宇 宙 物 理 学 研 究		
	多 機 能 材 料 デ ザ イ ン 研 究		
材 料 特 性	生 体 材 料 研 究		
	高 機 能 材 料 研 究		
	生 物 有 機 材 料 化 学 研 究		
	応 用 光 化 学 研 究		

(2) 授業科目

授 業 科 目	単位数	教 職
非 鉄 金 属 材 料 特 論	2	理 科
材 料 化 学 特 論	2	理 科
生 物 化 学 特 論	2	理 科
機 能 材 料 特 論	2	理 科
材 料 物 理 特 論	2	理 科
電 気 化 学 デ バ イ ス 特 論	2	理 科
半 導 体 デ バ イ ス 特 論	2	理 科
融 体 物 性 特 論	2	理 科
電 子 顕 微 鏡 学 特 論	2	理 科
表 面 物 性 特 論	2	理 科
エ ネ ル ギ ー 工 学 特 論	2	理 科
材 料 加 工 処 理 特 論	2	理 科
先 端 材 料 工 学 特 論	2	理 科
生 体 分 子 化 学 特 論	2	理 科
応 用 光 化 学 特 論	2	理 科
電 波 天 文 学 特 論	2	理 科
High Functional Materials	2	
Materials Chemistry	2	
Thin Film Physics	2	
Methods in Bio - inspired Nanomaterial Science	2	
Basic Physics in Electron Microscopy	2	
Enzyme Engineering	2	
High-pressure science	2	
Biomaterials	2	

応用化学専攻

(1) 研究指導

1 / 2

部 門	研 究 指 導
物 理 化 学	応 用 光 化 学 研 究
	計 算 物 理 化 学 研 究
	有 機 電 気 化 学 研 究
	化 学 工 学 研 究
	分 離 シ ス テ ム 工 学 研 究
	高 分 子 構 造 化 学 研 究
有 機 化 学	反 応 有 機 化 学 研 究
	有 機 材 料 化 学 研 究
	高 分 子 材 料 化 学 研 究
	生 体 分 子 化 学 研 究
	Organic Electronic Materials Chemistry
分 析 化 学	環 境 分 析 化 学 研 究
生 物 化 学	ケ ミ カ ル バ イ オ ロ ジ ー 研 究
	生 態 工 学 研 究
無 機 化 学	無 機 材 料 化 学 研 究
	分 子 集 合 学 研 究
	エ ネ ル ギ ー 材 料 創 成 化 学 研 究

研 究 指 導 科 目	単 位 数
特 別 演 習	1 1
特 別 演 習	2 1
特 別 演 習	3 2
特 別 演 習	4 2
特 別 実 験	1 1
特 別 実 験	2 1
特 別 実 験	3 2
特 別 実 験	4 2

(2) 授業科目

2 / 2

授業科目	単位数	教職
計算物理化学特論	2	理科
化学工学特論	2	理科
反応有機化学特論	2	理科
高分子材料化学特論	2	理科
応用光化学特論	2	理科
環境分析化学特論	2	理科
エネルギー工学特論	2	理科
生体分子化学特論	2	理科
有機材料化学特論	2	理科
有機電気化学特論	2	理科
無機材料化学特論	2	理科
分子集合学特論	2	理科
エネルギー材料創成化学特論	2	理科
環境生態工学特論	2	理科
高分子構造化学特論	2	理科
Biomedical Technology Based on Chemical Engineering	2	
Environmental Analytical Chemistry	2	
Chemical Biology	2	
Energy and Water Treatment Based on Chemical Engineering	2	
Computational Physical Chemistry	2	
Organic Stereochemistry	2	
Chemistry of Solid State Materials	2	
Polymer Chemistry	2	
Enzyme Engineering	2	
Self-Assembles for Crystal Engineering	2	
Advanced Organic Electronic Materials Chemistry	2	

機械工学専攻

(1) 研究指導

部 門	研 究 指 導
力学・材料・加工	機械材料物性工学研究
	機械動力学研究
	粒状体力学研究
	固体力学研究
	強度設計学研究
	材料加工学研究
	機能材料工学研究
	機械加工学研究
流体・熱・エネルギー	熱流体工学研究
	マイクロ熱流体工学研究
	流体応用工学研究
	熱プロセス工学研究
	エネルギー環境工学研究
	光エネルギー工学研究
	燃焼工学研究
熱流体理工学研究	
制御・情報・知能	動的システム制御理論研究
	ロボット制御工学研究
人間工学・ライフサポート	ヒューマンマシンインタフェース研究
	バイオメカニクス研究
	言語認知科学研究
	生物微小流体工学研究
デザイン	プロダクトデザイン研究
	光学デザイン研究
	生体機能工学研究
	モデルベースデザイン研究
ナノ・マイクロ	レーザー応用工学研究
	熱物質移動工学研究
	マイクロロボティクス研究
	計算統計物理研究
	微小システム集積学研究

1 / 2

研 究 指 導 科 目	単 位 数
特 別 演 習	1 1
特 別 演 習	2 1
特 別 演 習	3 2
特 別 演 習	4 2
特 別 実 験	1 1
特 別 実 験	2 1
特 別 実 験	3 2
特 別 実 験	4 2

(2) 授 業 科 目

授 業 科 目	単 位 数	教 職
計 算 力 学 特 論 1	2	工 業
計 算 力 学 特 論 2	2	工 業
機 械 制 御 工 学 特 論	1	工 業
燃 焼 工 学 特 論	2	工 業
材 料 加 工 論	2	工 業
細 胞 デ バ イ ス 特 論	2	工 業
熱 機 関 工 学 特 論	2	工 業
連 続 体 力 学 特 論	2	工 業
レ ー ザ ー 工 学 特 論	2	工 業
固 体 力 学 特 論	2	工 業
インタフェースデザイン特論	2	工 業
機 械 加 工 学 特 論	1	工 業
人 間 中 心 設 計 特 論	2	工 業
エモーショナルデザイン特論	2	工 業
クリティカルシンキング特論	2	
プロモーションデザイン特論	2	工 業
磁 性 材 料 特 論	2	工 業
統 計 物 理 学 と 数 値 計 算	2	工 業
機 能 材 料 工 学 特 論	2	工 業
知 能 情 報 処 理 特 論	2	工 業
光 学 デ ザ イ ン 特 論	2	
風 環 境 シ ミ ュ レ ー シ ョ ン 特 論	1	
エルゴノミクスデザイン特論	2	
Advanced Materials Science	2	
Human - Machine System	2	
Biomechanics & Injury Prevention	2	
Experimental Thermo - fluid Engineering	2	
Advanced Applications of Fluid Engineering	2	
Adaptive and Optimal Control	2	
Microscale Machines and Mechanics	2	
Microscale Fluid Mechanics	2	
Advanced Structural Dynamics	1	
Advanced Thermal Fluid Measurement Science and Engineering	2	
Optical Engineering	2	
Energy Conversion Engineering	2	工 業

システム理工学専攻

(1) 研究指導

部 門	研 究 指 導
機 械 制 御	システムデザイン研究
	先端メカトロニクス研究
	流体制御システム研究
	制御システム研究
	ロボティクスシステム研究
電 子 情 報	医用超音波工学研究
	情報通信デザイン研究
	情報ネットワーク工学研究
	ビジュアル情報処理システム研究
	宇宙観測システム研究
	非線形システム研究
	インタラクティブメディア研究
	ソフトウェア工学研究
神経情報システム研究	
社 会 ・ 環 境	社会数理システム研究
	経済システム論研究
	環境システム研究
	防災空間計画研究
	環境政策研究
	社会システム科学研究
	社会シミュレーション研究
	コミュニティ情報システム研究
サステナビリティガバナンス研究	
生 命 科 学	社会情報ネットワーク研究
	生体制御システム研究
	生命創薬科学研究
	分子細胞生物学研究
	福祉支援システム研究
	食品科学研究
	環境生命科学研究
	脳機能計測システム研究
	健康影響科学研究
	生物物理学研究
	科学技術教育研究
認知システム研究	
数 理 科 学	応用数理研究
	数理制御研究
	数理物理研究
	非線形解析研究
	数理解析研究
	複素偏微分方程式研究
	解析学研究
	数学科教育学研究
	高等教育開発研究
	一般相対論・宇宙物理学研究
量子情報システム研究	

(2) 授業科目 1/2

研 究 指 導 科 目	単 位 数
特 別 演 習	1 1
特 別 演 習	2 1
特 別 演 習	3 2
特 別 演 習	4 2
特 別 実 験	1 1
特 別 実 験	2 1
特 別 実 験	3 2
特 別 実 験	4 2

(2) 授業科目

2 / 2

授 業 科 目	単位数	教 職
システム工学特論	2	工業
システム工学特別演習	2	工業
創造的工学設計論	2	工業
連続体力学特論	2	理科
先端メカトロニクス特論	2	工業
流体制御システム特論	1	理科
細胞生理学特論	2	理科
工業デザイン特論	2	工業
医用超音波工学特論	2	数学
制約プログラミング特論	2	工業
画像応用システム特論	2	工業
宇宙観測システム特論 I	1	理科
宇宙観測システム特論 II	1	理科
量子情報科学特論	2	数学
非線形現象特論	2	数学
社会数理システム特論	2	
経済システム論特論	2	
学校教育社会学特論	2	全教科
環境システム解析特論	2	工業
機能性食品学特論	2	理科
環境生命科学特論	1	理科
分子細胞生物学特論	2	理科
生体機械学特論	1	理科
科学技術教育特論	2	理科
生命創薬科学特論	2	理科
生体材料学特論	2	理科
関数解析特論	2	数学
情報数学特論 A	1	数学
情報数学特論 B	1	数学
応用線形代数特論 A	1	数学
応用線形代数特論 B	1	数学
微分幾何学特論	2	数学
非線形解析特論	2	数学
数理解析特論 A	1	数学
数理解析特論 B	1	数学
偏微分方程式特論	2	数学
解析学特論	2	数学
応用代数学特論	2	数学
宇宙探査ロボティクス特論	2	工業
データ・シミュレーションプロジェクト	2	数学
社会システム科学特論	2	数学
社会システム科学特別演習	2	数学
確率解析特論	2	数学
結び目理論特論	2	数学
環境政策特論	2	
分散ネットワークシステム特論	2	

授 業 科 目	単位数	教 職
脳機能計測システム特論	2	理科
理工学カリキュラム・デザイン	2	全教科
健康影響科学特論	2	理科
ソフトウェア工学特論	2	
神経情報システム特論	2	
実践研究論文特論	2	
クロスカルチャーエンジニアリング プロジェクト	2	
クロスイノベーションプロジェクト	2	
Seminar in Cognitive Science	2	
Control Systems Engineering	2	
Life Support Robot	1	工業
Statistical Signal Processing	2	
Data Communication Engineering	2	
Engineering Optimization	2	
Neurophysiology and Rehabilitation Engineering	2	
Advanced Biofluid Engineering	1	
Cohomology of Classifying Spaces	1	数学
Linear Representations of Finite Groups	1	数学
Advanced Robust Control	2	数学
Advanced Digital Control	2	数学
Advanced Course on Materials for Energy and Environment	2	
Electronic Circuits and Systems	2	
Spatial Planning for Disaster Risk Reduction	2	
Urban Environmental System Planning	2	
Advanced Design Survey	1	
Ergonomics	2	

国際理工学専攻

(1) 研究指導

1 / 2

部	門	研	究	指	導
国際理工学		国際理工学	研究	指導	研究

研	究	指	導	科	目	単	位	数
特	別	演	習		1	1		
特	別	演	習		2	1		
特	別	演	習		3	1		
特	別	演	習		4	1		
特	別	演	習		5	1		
特	別	演	習		6	1		
特	別	演	習		7	1		
特	別	演	習		8	1		
特	別	実	験		1	1		
特	別	実	験		2	1		
特	別	実	験		3	1		
特	別	実	験		4	1		

研	究	指	導	科	目	単	位	数
Research		Guidance			1	3		
Research		Guidance			2	3		
Research		Guidance			3	3		
Research		Guidance			4	3		
Diploma		Seminar			1	2		
Diploma		Seminar			2	2		
Diploma				thesis		10		

(2) 授 業 科 目

2 / 2

授 業 科 目	単 位 数	教 職
国 際 理 工 学 特 論	2	
Overseas Research Project	2	
Advanced Materials Science	2	
Ubiquitous Computing System	2	
Spatial Planning for Disaster Risk Reduction	2	
Data Communication Engineering	2	
High - Pressure Science	2	
Material Science for Engineering	2	
Structural Chemistry	2	
Materials for Energy and Environment	2	
How to Write and Publish a Scientific Paper at International Journals	2	
Advances in Superconducting Cable Technology and its Applications	2	
Superconducting materials : Synthesis and Characterization	2	
General and Sustainable Chemistry	2	
Basic Molecular Spectroscopy	2	
Advanced Spectroscopy	2	
Vacuum Technology and Surface Analysis	2	
Electronic Circuits and Systems	2	
Intensive course on Integrated Circuits Analysis and Design 1	2	
Intensive course on Integrated Circuits Analysis and Design 2	2	
Materials Characterization Methods	2	
Science of cooking	2	
Stochastic Systems for Control and Machine Learning	2	
Student Conference	2	
Artificial Intelligence in Games	2	
Microscale Fluid Mechanics	2	
Biomechanics & Injury Prevention	2	
Chemical Biology	2	
Environmental Analytical Chemistry	2	
Biomedical Technology Based on Chemical Engineering	2	
Energy and Water Treatment Based on Chemical Engineering	2	
Organic Stereochemistry	2	
Advanced Power System	2	
Quantum Materials: Experimental aspect	2	
Autonomous Mobile Robot System	2	
Advanced Quantum - Beam Applications	2	
Electric Power Control	2	
Wireless Communications Network	2	
Advanced Electronic Circuit	2	

授 業 科 目	単 位 数	教 職
Nano Devices and Materials	2	
Epitaxial Semiconductor Materials	2	
Optical Fiber Engineering	2	
Robot Task & System	2	
Topics in Data Engineering	2	
Advanced Computer Architecture	2	
Advanced Antenna Engineering	2	
Advanced Neural Engineering	2	
gPBL in Europe	2	
Neurophysiology and Rehabilitation Engineering	2	
Control Systems Engineering	2	
Advanced Robust Control	2	
Advanced Digital Control	2	
Engineering Optimization	2	
Adaptive and Optimal Control	2	
Methods in Bio - inspired Nanomaterial Science	2	
Materials Chemistry	2	
Thin Film Physics	2	
Experimental Thermo - fluid Engineering	2	
Mobile Communication Networks	2	
Advanced Biofluid Engineering	1	
Urban and Regional Development in Information Age	2	
Advanced Structural Dynamics	1	
Space Robotics	2	
Advanced Seminar in Advertising Design	2	
Self-Assembles for Crystal Engineering	2	
Advanced Applications of Fluid Engineering	2	
Energy Conversion Engineering	2	
Nuclear Energy	2	
Advanced Project Based Learning 2	2	

社会基盤学専攻

(1) 研究指導

1 / 2

部門	研究指導
社会基盤施設	土木構造研究
	建設複合材料研究
	コンクリート構造研究
	地盤基礎工学研究
	社会基盤マネジメント研究
地域・環境計画	水工学研究
	空間情報工学研究
	持続性社会基盤研究
	土木計画研究

研究指導科目	単位数
特別演習	1 1
特別演習	2 1
特別演習	3 2
特別演習	4 2
特別実験	1 1
特別実験	2 1
特別実験	3 2
特別実験	4 2

(2) 授 業 科 目

2 / 2

授 業 科 目	単 位 数	教 職
Lectures on Civil Engineering	2	
コンクリート材料科学特論	2	工 業
環 境 地 盤 工 学 特 論	2	工 業
コンクリート工学特論	2	工 業
地 盤 振 動 工 学 特 論	2	工 業
地 盤 耐 震 工 学 特 論	2	工 業
鋼 構 造 物 の 耐 久 性 設 計 特 論	2	工 業
交 通 計 画 特 論	2	工 業
空 間 情 報 構 築 特 論	2	工 業
水 圏 環 境 特 論	2	工 業
水 文 ・ 水 資 源 学 特 論	2	工 業
学 校 教 育 社 会 学 特 論	2	全 教 科
鋼 構 造 特 論	2	工 業
理工学カリキュラム・デザイン	2	全 教 科
社会基盤学グローバル演習	2	工 業
橋 梁 技 術 基 礎 特 論	2	工 業
Urban and Regional Development in Information Age	2	
Geotechnical Engineering	2	
Environmental Geotechnics	2	
Durability Design for Steel Structures	2	
Science of Concrete Material	2	
Environmental Hydraulics	2	
Hydrology and Water Resources	2	
Principles of Sustainable Development for Engineers	2	

建築学専攻

(1) 研究指導

1/2

部 門	研 究 指 導
建 築 計 画	※ 建 築 計 画 研 究
	※ 住 環 境 計 画 研 究
建 築 設 計	※ 建 築 設 計 研 究
	※ 建 築 設 計 情 報 研 究
	※ 空 間 デ ザ イ ン 研 究
	※ プロジェクトデザイン研究
建 築 史	※ 建 築 史 研 究
環 境 工 学	建 築 環 境 工 学 研 究
	都 市 環 境 工 学 研 究
建 築 構 造	建 築 構 造 研 究
	建 築 地 震 防 災 研 究
	建 築 構 造 計 画 研 究
	建 築 構 造 シ ス テ ム 研 究
	建 築 鋼 構 造 研 究
生 産 工 学	材 料 施 工 研 究
	※ 生 産 シ ス テ ム 研 究
都 市 計 画	※ 都 市 計 画 研 究
	※ 都 市 デ ザ イ ン 研 究

研 究 指 導 科 目	単 位 数
特別演習 1 [※印の研究指導]	2
特別演習 2 ["]	2
特別演習 3 ["]	4
特別演習 4 ["]	2
特別実験 2 ["]	1
特別実験 4 ["]	2

(2) 授 業 科 目

2 / 2

授 業 科 目	単 位 数	教 職	授 業 科 目	単 位 数	教 職
建 築 計 画 特 論	2		イ ン タ ー ン シ ッ プ 2	2	
住 環 境 計 画 特 論	2		イ ン タ ー ン シ ッ プ 3	2	
建 築 設 計 特 論 1	2		イ ン タ ー ン シ ッ プ 4	2	
建 築 設 計 特 論 2	2		建 築 学 総 論	2	
近 代 都 市 設 計 特 論	2		環 境 工 学 特 論 1	2	
建 築 設 計 情 報 特 論	2		環 境 工 学 特 論 2	2	
建 築 ・ 地 域 プロジェクト演習	2		環 境 工 学 特 論 3	2	
空 間 デ ザ イン 特 論	2		環 境 工 学 特 論 4	2	
建 築 ・ 都 市 デ ザ イン 史 特 論	2		環 境 工 学 特 論 5	2	
構 造 設 計 特 論	2		建 築 学 演 習 ・ デ ザ イン 1 A	2	
近 代 建 築 論 特 論 1	2		建 築 学 演 習 ・ デ ザ イン 1 B	2	
近 代 建 築 論 特 論 2	2		建 築 学 演 習 ・ デ ザ イン 2 A	2	
環 境 設 計 演 習 1	2		建 築 学 演 習 ・ デ ザ イン 2 B	2	
環 境 設 計 演 習 2	2		建 築 学 演 習 ・ 都 市 地 域 デ ザ イン	2	
環 境 設 計 演 習 3	2		建 築 生 産 マ ネ ジ メ ン ト 特 論 1	2	
地 盤 - 建 築 基 礎 振 動 工 学 特 論	2		建 築 生 産 マ ネ ジ メ ン ト 特 論 2	2	
建 築 空 間 構 造 特 論	2		復 興 デ ザ イン 学 特 論	2	
鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 構 造 特 論	2		Housing and Environmental Design	2	
建 築 構 造 解 析 特 論	2		History of architecture and urban design	2	
構 造 振 動 学 特 論	2		gPBL in Europe	2	
建 築 構 造 シ ス テ ム 特 論	2		Architectural Environment Planning	2	
建 築 鋼 構 造 特 論	2		Architectural Planning and Project Design	2	
鋼 構 造 建 物 設 計 特 別 演 習	2		Exchange program with ENSAPB (a)	2	
特 殊 構 造 建 物 設 計 特 別 演 習	2		Exchange program with ENSAPB (b)	2	
材 料 施 工 特 論	2		Exchange program with Hanyang University (a)	2	
建 築 生 産 特 論 1	2		Exchange program with Hanyang University (b)	2	
建 築 生 産 特 論 2	2		Exchange program with MARHI (a)	2	
建 築 材 料 特 論	2		Exchange program with MARHI (b)	2	
ま ち づ く り 特 論	2		Urban and Community Design	2	
市 街 地 整 備 計 画 特 論	2		Placemaking Seminar	2	
環 境 設 計 特 論	2		Urban Environmental System Planning	2	
都 市 計 画 総 論	2		Engineering for architecture	2	
空 間 計 画 特 論	2		Architectural planning and design	2	
イ ン タ ー ン シ ッ プ 1	2				

全専攻共通・技術経営副専攻プログラム科目

<技術経営副専攻プログラム科目>

(2) 授業科目

授業科目	単位数
マーケティング特論	2
イノベーション・マネジメント論	2
研究財産戦略特論	2
生産マネジメント特論	2
ビジネスエスノグラフィ	2
経営学特論～人と組織のマネジメント～	2
International Marketing	2
Management of Innovation	2
Management of Intellectual Property	2
International Production Management	2
Global Engineering Management	2
Intensive Workshop	2

<教職関連科目>

(2) 授業科目

授業科目	単位数	教職
教育学特論	2	全教科

<全専攻共通科目>

(2) 授業科目

授業科目	単位数
科学コミュニケーション学	2
大学教育開発論	2
実践インターンシップ 1	2
実践インターンシップ 2	2
Course Design and Teaching	2
Japanese Culture and History	2
Advanced Global PBL 1	2
Advanced Global PBL 2	2
Advanced Internship	2
Advanced Internship II	2
Japanese Language I	2
Japanese Language II	2
Japanese Language III	2
Japanese Language IV	2

付 表 4

博士（後期）課程 研究指導科目
地域環境システム専攻

分 野	研 究 指 導 科 目	単 位 数
地 域 環 境 計 画	地 域 環 境 計 画 特 論	2
環 境 材 料 工 学	環 境 材 料 工 学 特 論	2
エ ネ ル ギ ー 環 境 工 学	エ ネ ル ギ ー 環 境 工 学 特 論	2
環 境 防 災 工 学	環 境 防 災 工 学 特 論	2
先 端 マ ネ ジ メ ン ト 工 学	先 端 マ ネ ジ メ ン ト 工 学 特 論	2

機能制御システム専攻

分	野	研 究 指 導 科 目	単 位 数
通 信 機 能 制 御 工 学	通 信 機 能 制 御 工 学	特 論	2
機 能 デ バ イ ス 工 学	機 能 デ バ イ ス 工 学	特 論	2
シ ス テ ム 制 御 工 学	シ ス テ ム 制 御 工 学	特 論	2
生 命 機 能 制 御 工 学	生 命 機 能 制 御 工 学	特 論	2

博士(後期)課程 研究指導科目

地域環境システム専攻

分野	研究指導科目	単位数
地域環境計画	地域環境計画特論	2
環境材料工学	環境材料工学特論	2
エネルギー環境工学	エネルギー環境工学特論	2
環境防災工学	環境防災工学特論	2
先端マネジメント工学	先端マネジメント工学特論	2

機能制御システム専攻

分野	研究指導科目	単位数
通信機能制御工学	通信機能制御工学特論	2
機能デバイス工学	機能デバイス工学特論	2
システム制御工学	システム制御工学特論	2
生命機能制御工学	生命機能制御工学特論	2

付表5

教育職員免許状の種類・教科

専攻	免許状の種類	教科名
電気電子情報工学専攻	高等学校教諭専修免許状	情報・工業
材料工学専攻	中学校教諭専修免許状	理科
応用化学専攻	高等学校教諭専修免許状	理科
機械工学専攻 社会基盤学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業
システム理工学専攻	中学校教諭専修免許状	数学・理科
	高等学校教諭専修免許状	数学・理科・工業

※ 専修免許状取得に必要な単位数は、1教科につき24単位以上とする。

付表6

理工学研究科学位授与方針等

1 理工学研究科の学位授与方針

(1) 修士課程

大学院理工学研究科修士課程では、世界の技術者・研究者と協働して持続型社会の実現のための世界の諸問題を解決できる技術者・研究者を養成することを目的としています。

上記の目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ学業成績ならび学位論文審査の結果から、以下に示す知識・能力・資質を備えたと認められた者に、修士(工学、システム理工学、理工学又は建築学)の学位を授与します。

- ・理工学に関わる高度かつ幅広い専門知識。
- ・柔軟な思考能力と定量的な問題の解決能力。
- ・グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力。
- ・世界と社会の多様性の認識及び高い倫理観。

また、技術経営副専攻プログラムの講義科目を履修し、規程の単位を取得した場合は、技術経営副専攻プログラム認定書を授与します。

専攻

専攻名	学位授与方針
電気電子情報工学専攻	<p>ますますICT化する社会からのニーズ、グリーンITに象徴される地球環境を考えるグローバルな視点に立った技術者、研究者への要請に応えるべく、本専攻は、身に付けた専門知識・技術を活用し、直面する問題の本質を見抜き、的確な解決策を見出し、具体的な実現を図れるまでの、高い能力を有する人材を育成することを目標とし、以下の項目について修得することを求めます。</p> <p>(1) 電気・電子・情報・通信工学に関する専門分野の高度な知識を幅広く、また実際の適用を考慮したより深い専門的技術。</p> <p>(2) 研究を進める中で、問題点・課題を的確に抽出する問題発見、開拓能力や問題の具体的な解決方法を見出し、その最適性を評価できる問題解決能力。</p> <p>(3) 上記知識、技術や問題発見、解決能力を用いて、実社会の具体的な課題や問題に対して、的確に活用、応用できる能力。</p> <p>(4) 高い技術者の倫理観を持ち、積極的に難易度の高い課題に取り組み、柔軟な発想、思考に基づき、研究成果を総合的にまとめる能力。</p>
材料工学専攻	<p>材料は常に人間社会において重要な役割を果たしてきました。今後も、社会基盤技術として材料の重要性は増えています。さらに、最近の先端科学分野の発展とともに、材料工学分野は多様化しており、環境に負荷を与えずに、いかに材料を高機能化してい</p>

	<p>くかということが大きな課題となっています。このような社会のニーズ、社会的な背景に対応し、問題の本質を掌握する能力、問題を解決するための研究手法を考え出す能力、そして専門知識を実際の開発に活用できる能力を有する技術開発者及び研究者の育成を目指します。このような教育・人材養成目標を掲げ、修士課程修了までに次の項目の修得を求めます。</p> <p>(1) 材料工学の高度な知識・技術を学び、広い領域の課題を探求する姿勢のもと、問題点を適切に抽出し、問題発掘能力を身に付ける。</p> <p>(2) 高度な材料科学を体系的に理解し、問題・課題を解決する能力として測定や加工などの研究手法に関する実験能力を向上する。</p> <p>(3) 社会的問題に対し材料工学の先進的な視野をもって解決手法を見出し、幅広い見識と専門的な知識を実社会に活用できる能力を身に付ける。</p> <p>(4) 先端技術と社会、環境との関わりを理解し、総合的な材料工学の貢献と柔軟な思考を含む倫理的な発想を身に付ける。</p>
<p>応用化学専攻</p>	<p>応用化学専攻の研究は分析化学、有機化学、無機化学、物理化学の基幹領域とし、生物科学、化学工学などの学際領域を含んでいます。これら研究領域に係る講義やセミナー研究活動を通して専門とする化学分野に対する理解を深めると共に、関連する他の化学分野の基礎知識や先端技術も幅広く理解する力を養います。応用化学専攻は修士課程修了までに以下の能力の修得を求めます。</p> <p>1 与えられた研究課題を正確に理解した上で、必要な情報を収集し、課題解決のための計画を策定できる能力</p> <p>2 研究計画に基づき実験を行い、得られた結果を適切に解釈する能力</p> <p>3 研究成果を口頭発表や論文として発表し、討論できる能力及び修士論文としてまとめる能力</p> <p>4 自らの研究課題の社会的意義を適切に発信する日本語力、及び情報を正確に発信あるいは受信できる英語の基礎能力</p>
<p>機械工学専攻</p>	<p>機械工学専攻では、専門科目教育・研究指導を通じ、専門知識を学ぶだけでなく、技術者倫理を意識し自ら問題設定ができ、その解決へ向けて工学を実践できる技術者、グローバルな視点で社会貢献できる技術者の育成を大きな目標としています。また具体的なテーマの課題解決プロセスを通じて、常に新しいものにチャレンジできる教育プログラムを組んでいます。</p>

	<p>その目標達成のための修了要件を具体的に次のように定めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門知識・理解 <p>工学に関わる高度かつ幅広い専門知識を有し、学修の手引きで規定されている単位を取得していること。</p> ・ 問題設定・問題解決能力 <p>研究を進める際に、的確に問題設定をできる洞察力と柔軟な思考能力を有し、問題解決をする定量的かつ論理的思考力を有すると認められること。さらに、問題解決の達成度を自ら定量的に評価できること。</p> ・ 意欲・実践能力 <p>研究を進める際に、積極的に困難な課題解決へ向かうチャレンジ精神を発揮し、かつ的確に実践する能力を有していると認められること。</p> ・ コミュニケーション能力 <p>グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を有していると認められること。</p> ・ 倫理観 <p>世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を有していると認められること</p> ・ 総合力 <p>研究成果として、独自性の高い学術知見を的確にまとめていること。</p> <p>学会、協会など学術的活動において、研究内容・成果・作品を発表によって社会に発信すること。</p>
システム理工学専攻	<p>システム理工学専攻では、現代社会の問題を複数分野の科学技術、文化・価値観、社会・環境、技術者倫理などを踏まえて柔軟に設定し、自身の核となる専門知識、領域を超えた背景知識とシステム思考を基本にして、複数領域を横断した問題の発掘力と総合的問題解決力の獲得を目標にしています。修士課程に所定の期間在籍した者が、修士課程における必修科目、研究指導科目、選択科目、共通科目の履修と修士論文作成を通して、上記の目標が達成されたと判定されるときに、芝浦工業大学は修士の学位、修士(システム理工学)を授与します。</p> <p>その目標達成のための修了要件を具体的に次のように定めています。</p> <p>(1) 専攻必修科目の学修により、社会の問題解決に必要なシステム思考、システム工学の理論と手法、デザイン論、システムマ</p>

	<p>ネジメント技術を修得すること。</p> <p>(2) 専攻必修科目の特別演習を通じて、分野混成プロジェクトを成功させるためのコミュニケーション力やリーダーシップ力を身に付けること。</p> <p>(3) 選択科目の学修により、専門的知識と体験を深めることにより専門的問題解決力を修得すること。</p> <p>(4) 多分野の技術について学修することにより、領域を超えた背景知識を獲得し、自身の核となる専門分野の知識と組み合わせ、社会的に活用できる能力を有していること。</p> <p>(5) 研究指導科目への取り組みを通じて、各自が設定した研究テーマを解明し、総合的解決策を導き出す能力を修得するとともに、修士論文の作成を通じて修得した知識の体系化能力を身につけること。</p> <p>(6) 共通科目の学修を通して、コミュニケーション力を身につけるとともに、個々の科学技術を総合して問題解決のための人間力を修得すること。また、社会に貢献するエンジニアとしての技術倫理観を修得すること。</p>
国際理工学専攻	<p>国際理工学専攻では、国際コミュニケーション能力およびグローバルな視点を持ち、多様性と国際的協働を理解し、主軸となる専門領域およびそれを超えた分野</p> <p>横断的背景知識に基づいた思考を用いた工学的・社会経済的な問題解決力を通じて、地球規模の持続可能性に貢献する技術者・科学者を育成することを目標としています。その目標達成のための修了要件を次のように定めます。</p> <p>(1) 領域横断的背景知識および多様性への理解力、グローバルな思考力を修得すること。</p> <p>(2) 他国籍専門家との口頭および文章による技術的な交流に必要な国際コミュニケーション能力を修得すること。</p> <p>(3) 問題の発見と解明、解決策を導き出す能力を修得すること。</p> <p>(4) 異なる背景や異なる国籍の専門家と協働し、多様性への理解力を修得し、世界的な潮流における多様性と適応性の重要性を理解すること。</p> <p>(5) 技術倫理観を修得し、それに基づいた工学的・社会経済的解決策を提案する能力を修得すること。</p> <p>(6) 修士論文の作成を通して、知識の体系化における論理構成能力を身につけること。</p> <p>(7) 情報発信能力を身に付け、世界に貢献すること。</p>
社会基盤学専攻	社会基盤学専攻では、社会基盤学分野における高度かつ幅広い

	<p>知識と柔軟な思考能力を備え、地球規模で持続可能な社会を実現するために、社会基盤整備及び環境に関する諸問題を解決できる技術者・研究者を養成することを目標に修士課程修了までに次の項目の修得を求めます。</p> <p>(1) 高度な専門知識と研究開発能力、問題発掘能力、定量的に問題を解決する能力</p> <p>(2) 技術と環境・経済・文化との関係にも配慮できる柔軟な思考能力と幅広い見識</p> <p>(3) グローバル社会に対応したコミュニケーション能力と倫理観</p>
<p>建築学専攻</p>	<p>建築学専攻では、①自然科学や人文社会科学を含んだ学際的視点を持ち、②豊かな建築・都市空間を創造することで持続可能な社会の実現に貢献し、また、③多様な価値観が共存する現代国際社会で活躍できる人材を育成することを目標に修士課程修了までに次の項目の修得を求めます。</p> <p>修士（建築学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までの歴史的発展を踏まえつつ、豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、現代の建築や都市を取り巻く技術的・社会的課題を発見し、計画・デザインを通して自らが積極的にその解決に当たることができる能力 2. 建築学に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、新たな建築や都市のあり方を他者に率先して提示する姿勢 3. 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としての責任と役割を理解してたずさわる高い倫理観 4. 自然科学や人文社会科学に関する知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を融合し、計画・デザインを通して高度な建築業務を実践する能力 5. 社会や文化の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力及びグローバル社会に相応する国際感覚を持ちながら、計画・デザインを通して他者と協働する能力 <p>修士（工学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までの歴史的発展を踏まえつつ、豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、現代の建築や都市を取り巻く技術的・社会的課題を発見し、工学的観点から自らが積極的にその解決に当たることができる能力 2. 建築学に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、新たな建築や都市のあり方を他者に率先して提示する姿勢

	<p>3. 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としての責任と役割を理解してたずさわる高い倫理観</p> <p>4. 自然科学や人文社会科学に関する知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を融合し、工学的観点から高度な建築業務を実践する能力</p> <p>5. 社会や文化の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力及びグローバル社会に相応する国際感覚を持ちながら、工学的観点から他者と協働する能力</p>
--	--

(2) 博士(後期)課程

大学院理工学研究科博士(後期)課程は、世界の研究者・技術者と協働して持続型社会の実現のための世界の諸問題の解決、及び創造的な研究を独自に進めることのできる研究者・技術者を養成することを目的としています。

上記の目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、学業成績並びに学位論文審査の結果から、以下に示す知識・能力・資質を備えていると認められる者に対し、博士(工学)の学位を授与します。また、学位論文の主要内容に工学以外の要素を含む場合は、博士(学術)の学位を授与します。

- ・総合的な見地に立ち、システム全体の調和を図ることができる能力。
- ・創造性豊かな優れた研究推進・開発能力。
- ・高度な専門性を有する研究者となるための能力。
- ・グローバル社会に対応できる高度なコミュニケーション能力。
- ・世界と社会の多様性の認識及び高い倫理観。

また、技術経営副専攻プログラムの講義科目を履修し、規定の単位を取得した場合は、技術経営副専攻プログラム認定書を授与します。

【課程修了による博士号(課程博士)】

博士(後期)課程に所定の期間在籍し、学則上の修了要件を満たした者が、博士(後期)課程における講義科目の履修と博士論文作成を通して、豊かな学識を有する専門技術者あるいは研究者として独り立ちできる資質を備えるに至ったと判定され、さらに、専攻の示す学位審査基準を満たした者に、博士(工学)の学位を授与します。また、学位論文の主要内容に工学以外の要素を含む場合は、博士(学術)の学位を授与します。

【論文提出による博士号(論文博士)】

博士(後期)課程に在学していない者で、大学卒業後に(修士課程修了者は修士課程在学期間を含めて)5年以上の研究開発業務に従事したもの、あるいはそれと同等の経歴を有すると理工学研究科委員会が認めたものは、論文提出により博士の学位の授与を申請できます。学位授与申請を受けて、理工学研究科では、申請者の学力及び提出論文の内容を審査します。その結果、申請者が博士(後期)課程修了者と同等以上の学力及び研究力を有し、かつ豊かな学識を有する専門技術者あるいは研究者として、すでに独り立ちしていると判定され、さらに、専攻の示す学位審査基準を満たした者に、博士(工学)の学位を授与します。また、学位論文の主要内容に工学以外の要素を含む場合は、博士(学術)の学位を授与します。

専攻名	学位授与方針
<p>地域環境システム専攻</p>	<p>地域環境システム専攻では、地域環境計画・環境材料工学・エネルギー環境工学・環境防災工学・先端マネジメント工学の分野において、地域や環境に関する総合的な見地からシステム全体の調和を図ることができ、創造性豊かな優れた研究推進・開発能力を持ち、世界の研究者・技術者と協働して、高い倫理観から持続型社会の実現のための世界の諸問題を解決できる、そのような高度な専門性を有する研究者及び高度職業人を養成することを目的にしています。</p> <p>上記の教育目的を踏まえ、本研究科の定める博士学位請求の要件を満たし、学位論文審査の結果から、以下に示す資質・能力を備えていると認められる者に対して、博士(工学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な見地に立ち、システム全体の調和を図ることができる能力。 2. 創造性豊かな優れた研究推進・開発能力。 3. 高度な工学分野の専門性を有する研究者となるための能力。 4. グローバル社会に対応できる高度なコミュニケーション能力。 5. 世界と社会の多様性の認識および高い倫理観。 <p>また、学位論文の主要な内容に工学以外の要素を含む場合、以下に示す資質・能力を備えていると認められる者に対して、博士(学術)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な見地に立ち、システム全体の調和を図ることができる能力。 2. 創造性豊かな優れた研究推進・開発能力。 3. 高度な工学分野の専門性を有し、他分野と融合した学際領域の研究者となるための能力。 4. グローバル社会に対応できる高度なコミュニケーション能力。 5. 世界と社会の多様性の認識および高い倫理観。
<p>機能制御システム専攻</p>	<p>機能制御システム専攻では、通信機能制御、機能デバイス制御、システム制御、生命機能制御などの分野で、創造性豊かな優れた研究推進及び研究開発能力を持ち、世界の研究者・技術者と協働して持続型社会の実現のための世界の諸問題を解決できる高度な専門性を有する研究者及び高度職業人を養成することを目的にしています。</p> <p>上記の教育目的を踏まえ、本研究科の定める博士学位請求の要件を満たし、学位論文審査の結果から、以下に示す資質や能力を備えていると認められる者に対して、博士(工学又は学術)の学位</p>

	<p>を授与します。</p> <p>博士（工学）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創造性豊かな優れた研究推進及び研究開発能力。 2. 工学を基盤とした高度な専門性を有する技術者及び研究者となるための能力。 3. グローバル社会に対応できる高度なコミュニケーション能力。 4. 世界と社会の多様性の認識および高い倫理観。 <p>博士（学術）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創造性豊かな優れた研究推進及び研究開発能力。 2. 複数領域において高度な専門性を有する技術者及び研究者となるための能力。 3. グローバル社会に対応できる高度なコミュニケーション能力。 4. 世界と社会の多様性の認識および高い倫理観。
--	--

2 学位審査基準

(1) 修士課程

専攻名	学位審査基準
電気電子情報工学専攻	<p>次の基準を満たした人に修士(工学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究指導を受けた上、修士論文を作成・提出し審査に合格すること <p>なお、修士論文合格の判定基準は以下の通りです。</p> <p>「提出された修士論文について、学会において1件以上の発表*を実施した内容が盛り込まれている、若しくは同等の成果**が盛り込まれていること」</p> <p>*：学会の大会・研究会、国際会議における発表、学会論文誌における論文、レターの掲載等</p> <p>**：特許等学会以外での成果、若しくは上記学会での発表・掲載に相当する内容</p>
材料工学専攻	<p>材料工学専攻の教育理念、人材養成目標から、次の基準を満たした人に修士(工学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究指導を受けた上、修士論文を作成・提出し審査に合格する。 <p>なお、修士論文の合格の判定基準は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究指導を通し得られた成果を修士論文一報としてまとめ、修士(工学)の水準を十分に満たしていることが認められること。 (2) 学会、協会など学術的活動において、修士論文の内容・成果を1回以上の発表によって社会に発信すること、もしくはそれと同等の成果を有していること。

<p>応用化学専攻</p>	<p>次の基準を満たした人に修士(工学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指導教員の指導のもとで修士研究を行い、修士論文を作成し主査・副査に提出する。さらに、主査及び副査から60%以上の得点を得る。 2 修士論文に関する口頭発表を行い、主査及び副査から60%以上の得点を得る。
<p>機械工学専攻</p>	<p>以下の基準を満たすことで、修士(工学)の学位を授与します。</p> <p>授業科目18単位以上を取得し、指導教員による研究指導(特別演習・特別実験の12単位)を受けること。</p> <p>修士論文を提出し、その審査に合格すること。</p> <p>その判定基準は、新規性、有用性、普遍性、工学的論旨、総合完成度の観点で評価を行い、100点満点中60点以上を取得することとする</p>
<p>システム理工学専攻</p>	<p>次の基準を満たした人に修士(システム理工学)の学位を授与します。修士学位審査基準は、次のように定めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導を受けた上、修士論文を作成・提出し審査に合格すること。 <p>修士論文合格の判定基準は、「提出された修士論文について、1件以上の学会発表*を実施した内容が盛り込まれている、又は領域横断型研究の成果である、若しくは学会での発表と同等の成果**が盛り込まれていること」とする。</p> <p>*：学会発表とは、学会の講演会・大会・研究会・シンポジウム、国際会議における発表、学会論文誌における論文、レターの掲載等</p> <p>**：学会発表と同等の成果とは、特許等学会以外での成果、学会での発表・掲載に相当する内容</p>
<p>国際理工学専攻</p>	<p>次の基準を満たした人に修士(理工学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導科目単位以外、英語開講科目の単位を18単位以上取得すること。 ・研究指導を受けた上、修士論文を英語で作成し、提出すること。 ・修士論文および英語で実施する発表会の審査に合格すること。 <p>修士論文合格の判定基準は、「提出された修士論文について、1件以上の学会発表*を実施した内容が盛り込まれている、または領域横断型研究の成果である、もしくは学会での発表と同等の成果**が盛り込まれていること」とする。</p> <p>*)学会発表とは、学会の講演会・大会・研究会・シンポジウム、国際会議における発表、学会論文誌における論文、レターの掲載等</p>

	<p>**）学会発表と同等の成果とは、特許等学会以外での成果、学会での発表・掲載に相当する内容</p>
社会基盤学専攻	<p>次の基準を満たした人に修士(工学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間審査を所定の期日までに完了し、かつ修士論文及び発表において、主査・副査は60%以上の得点を合とし、主査1名、副査1名以上が合であること。
建築学専攻	<p>建築学専攻では、ディプロマポリシーで示す項目を修得した上で次の修了要件を満たした者に修士(建築学)若しくは修士(工学)の学位を授与します。</p> <p>* 中間審査を所定の期日までに完了し、なおかつ、60%以上の得点を合とする修士論文の審査及び発表において、主査1名、副査1名以上が合であること。</p>

(2) 博士(後期)課程

専攻名	学位審査基準
地域環境システム専攻	<p>次の基準を満たした人に博士(工学又は学術)の学位を授与します。本専攻において学位を取得するには、学位論文の提出に加えて、以下の基準を満たすことが求められます。</p> <p>(1) 課程博士の学位審査基準</p> <p>① 在籍期間</p> <p>本研究科博士(後期)課程に3年以上在籍し、所定の研究指導を受けていること。ただし、優れた研究業績を挙げた者については、1年以上在籍すればよいものとする。</p> <p>② 研究業績</p> <p>(i) 在籍期間中に学協会の審査のある学術論文誌に第一著者として投稿し、掲載された論文が原則として2編以上あること。ただし、同論文2編のうち1編は、審査のある国際会議のプロシーディングス2編(第一著者)に替えることができるものとする。なお、第一著者ではないが筆頭貢献者である場合には、主担当指導教員が当該学生の筆頭貢献者としての貢献度を示す書類を添付することでこれに代える。</p> <p>(ii) 論文誌掲載決定、国際会議発表決定のものは、それを証明する書類を添付すること。</p> <p>(2) 課程博士(社会人早期修了コース)の学位審査基準</p> <p>① 在籍期間</p> <p>修業年限は1年間とする。ただし、1年で修了できなかった場合は、引き続き在学し、修業年限は3年間とする。3年未満での修了も可能とする。</p>

	<p>②研究業績</p> <p>(i) 学位論文の内容に関わる第一著者又は第二著者の査読付き論文3編(掲載許可を含む)以上を有すること。ただし、最低1編の第一著者の論文を含むことが必要である。なお、第一著者ではないが筆頭貢献者である場合には、主担当指導教員が当該学生の筆頭貢献者としての貢献度を示す書類を添付することでこれに代える。</p> <p>(ii) 在学中に発表者としての国際会議のプロシーディング1編(第一著者)以上を有すること。ただし、当該発表が最終試験までに実施される、あるいは実施されたことを証明する書類が添付されていることが必要である。なお、当該発表は在籍前に申し込んだものでも可とする。</p> <p>(iii) 論文誌掲載決定、国際会議発表決定のものは、それを証明する書類が添付されていることが必要である。</p> <p>※社会人早期修了コースに出願できる者は、次に該当する一定の研究業績を有する社会人とする。</p> <p>①修士課程修了者で3年以上の業務経験を有する者。</p> <p>②論文(査読付き)を2編以上有する者。</p> <p>(3)論文博士の学位審査基準</p> <p>①大学を卒業後、研究開発業務を5年以上経験した者で、学協会の審査のある学術論文誌に第一著者として投稿し、掲載された論文が5編以上あること。ただし、満期退学者が再入学しないで博士の学位の授与申請を行うとき、審査が満期退学後2年以内に終了する場合に限り、研究業績に関しては課程博士の審査基準を適用する。</p> <p>ただし、ダブルディグリー協定に基づく交換留学生に対しては、課程博士における研究業績についての規定を学位審査基準として適用する。</p> <p>②論文誌掲載決定のものは、それを証明する書類を添付すること。</p>
機能制御システム専攻	<p>次の基準を満たした人に博士(工学又は学術)の学位を授与します。</p> <p>本専攻において学位を取得するには、学位論文の提出に加えて、以下の基準を満たすことが求められます。</p> <p>(1) 課程博士の学位審査基準</p> <p>①在籍期間</p> <p>本研究科博士後期課程に3年以上在籍し、所定の研究指導を受けていること。ただし、優れた研究業績を挙げた者について</p>

ては、1年以上在籍すればよいものとする。

② 研究業績

(i) 在籍期間中に学協会の審査のある学術論文誌に第一著者として投稿し、掲載された論文が原則として2編以上あること。ただし、同論文2編のうち1編は、審査のある国際会議のプロシーディングス2編(第一著者)に替えることができるものとする。

(ii) 論文誌掲載決定、国際会議発表決定のものは、それを証明する書類を添付すること。

(2) 課程博士(社会人早期修了コース)の学位審査基準

① 在籍期間

修業年限は1年間とする。ただし、1年で修了できなかった場合は、引き続き在学し、修業年限は3年間とする。3年未満での修了も可能とする。

② 研究業績

(i) 学位論文の内容に関わる第一著者又は第二著者の査読付き論文3編(掲載許可を含む)以上を有すること。ただし、最低1編の第一著者の論文を含むことが必要である。なお、第一著者ではないが筆頭貢献者である場合には、主担当指導教員が当該学生の筆頭貢献者としての貢献度を示す書類を添付することでこれに代える。

(ii) 在学中に発表者としての国際会議のプロシーディングス1編(第一著者)以上を有すること。ただし、当該発表が最終試験までに実施される、あるいは実施されたことを証明する書類が添付されていることが必要である。なお、当該発表は在籍前に申し込んだものでも可とする。

(iii) 論文誌掲載決定、国際会議発表決定のものは、それを証明する書類が添付されていることが必要である。

※社会人早期修了コースに出願できる者は、次に該当する一定の研究業績を有する社会人とする。

① 修士課程修了者で3年以上の業務経験を有する者。

② 論文(査読付き)を2編以上有する者。

(3) 論文博士の学位審査基準

① 大学を卒業後、研究開発業務を5年以上経験した者で、学協会の審査のある学術論文誌に第一著者として投稿し、掲載された論文が5編以上あること。ただし、満期退学者が再入学しないで博士の学位の授与申請を行うとき、審査が満期退学後2年以内に修了する場合に限り、研究業績に関しては課程博士の審査基準を適用する。ただし、ダブルディグリー協定に基づ

く交換留学生に対しては、課程博士における研究業績についての規程を学位審査基準として適用する。

②論文誌掲載決定のものは、それを証明する書類を添付すること。

付表7

1 学費等

修士課程

	1年次	2年次
(1) 入学金(一時金)	260,000円	—
(2) 授業料(年額)	1,021,000円	1,121,000円
授業料(半期)	510,500円	560,500円
(3) 維持料(年額)	184,000円	184,000円
維持料(半期)	92,000円	92,000円
(4) 休学在籍料(年額)	60,000円	60,000円
休学在籍料(半期)	30,000円	30,000円

※ 本学卒業生及び再入学の入学金は免除する。

博士(後期)課程

	1年次	2・3年次
(1) 入学金(一時金)	260,000円	—
(2) 授業料(年額)	657,800円	657,800円
授業料(半期)	328,900円	328,900円
(3) 維持料(年額)	184,000円	184,000円
維持料(半期)	92,000円	92,000円
(4) 休学在籍料(年額)	60,000円	60,000円
休学在籍料(半期)	30,000円	30,000円

※ 本学卒業生及び再入学の入学金は免除する。

付表8

1 科目等履修生の学費等

- (1) 審査料 10,000円
(ただし、本学卒業生は不要)
- (2) 入学金 30,000円
(ただし、本学卒業生は2分の1額)
- (3) 履修料(1単位) 15,000円

2 研究生の学費等

- (1) 検定料 諸納入金に関する内規に定める。
- (2) 登録料 59,000円
- (3) 研究指導料(年額) 300,000円
研究指導料(半期) 150,000円
- (4) 実験実習料 実費

※ 本学卒業生の研究生登録料は2分の1額とする。

**芝浦工業大学大学院 理工学研究科 収容定員変更の
届出の学則の変更の趣旨等を記載した書類**

目 次

ア	学則変更（収容定員変更）の内容……………	P. 2
イ	学則変更（収容定員変更）の必要性……………	P. 2
ウ	学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容……………	P. 2
	（ア）教育課程の変更内容	
	（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容	
	a 教育方法の変更内容	
	b 履修指導方法の変更内容	
	（ウ）教育組織の変更内容	
	（エ）施設・設備の変更内容	
	a 施設・設備の変更内容	
	b 図書等の資料の変更内容	
エ	2以上の校地において教育研究を行う場合……………	P. 6

ア 学則変更(収容定員変更)の内容

芝浦工業大学（以下「本学」という。）の修士課程の7専攻について、収容定員の増員を図る。具体的な変更内容は次のとおりである。

電気電子情報工学専攻は現在の入学定員110名から200名に変更する。

材料工学専攻は現在の入学定員40名から50名に変更する。

応用化学専攻は現在の入学定員30名から40名に変更する。

機械工学専攻は現在の入学定員85名から140名に変更する。

システム理工学専攻は現在の入学定員75名から150名に変更する。

社会基盤学専攻は現在の入学定員25名から40名に変更する。

建築学専攻は現在の入学定員110名から170名に変更する。

また、本学の博士（後期）課程の2専攻について、収容定員の増加を図る具体的な変更内容は次のとおりである。

地域環境システム専攻は現在の入学定員12名から15名に変更する。

機能制御システム専攻は現在の入学定員15名から18名に変更する。

イ 学則変更(収容定員変更)の必要性

本学の修士課程及び博士（後期）課程の入学者数は年々増加傾向にあり、直近3年間の修士課程の全専攻の入学者数は、706名→806名→855名と推移しており、学生の進学ニーズは日増しに高まっている。博士（後期）課程の全専攻も同様であり直近3年間の入学者数の合計は、29名→39名→37名と推移している。また、高度な専門知識に裏付けられた人材に対する社会的なニーズは質と量の両面において強く、その中核である理工系分野での人材の需要は高まっている。

学生の進学ニーズに応じてより多くの人材育成を行うとともに、社会の人材の需要に応えるためには、本学の修士課程の7専攻及び博士（後期）課程の2専攻の収容定員を変更する必要がある。

ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(ア) 教育課程の変更内容

本学の修士課程の7専攻の各専攻は、研究指導に直結した特別演習、特別実験の科目と講義科目を体系的に配置している。科目配置は、修了要件の30単位のうち、特別演習、特別実験の科目が12単位で、講義科目が18単位である。特別演習、特別実験の科目には修士論文に関する研究が含まれるが、修了要件の30単位に加え、修士論文の提出及び発表を修了要件としている。収容定員の変更の際に際して、指導教員1人あたりが担当する学生数には余裕がある態勢のた

め、これら教育課程の変更は行わず同等以上の内容を担保している。

本学の博士（後期）課程の2専攻は、修了要件の2単位を研究指導に直結した特別研究、特論の科目で取得することとしている。収容定員の変更に際して、指導教員1人あたりが担当する学生数には余裕がある態勢のため、これら教育課程の変更は行わず同等以上の内容を担保している。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

a 教育方法の変更内容

本学の修士課程の7専攻の各専攻で行われる研究指導の分野は、研究指導科目の「特別演習 1～4 又は 特別実験 1～4（計12単位）」を取得することとなっている。本研究では、各分野における専門知識の習得ならびに社会的及び学問的課題の解決能力を高めることを目的に研究指導を行っている。また、日本語又は英語による授業科目18単位以上を取得することとなっている。授業科目は、専門科目、技術経営副専攻プログラム、共通科目の科目群の中から履修し単位を取得することとなっている。更に、修了条件として指導教員が開講する専門科目の履修が原則必修となっている。修士論文は必修とし、論文提出と最終審査（発表及び質疑）により合否を判定している。収容定員の変更に際して、これら教育課程の変更は行わないが、修士論文の提出に際して、従来の条件に加えて一定の英語力や研究倫理教育の受講を課す等、更なる充実を図っている。収容定員の変更に際して、指導教員1人あたりが担当する学生数には余裕がある態勢のため、これら教育方法の変更は行わず同等以上の内容を担保している。

本学の博士（後期）課程の2専攻の各専攻で行われる研究指導の分野は、研究指導科目の「特別研究（研究指導） 又は 特論（計2単位）」を取得することとなっている。本研究では、ソフト・ハード両面に渡り総合的な視点から専門性を研鑽するとともに、グローバル社会で活躍できる研究者・技術者の育成を目的に研究指導を行っている。また、博士論文作成に必要な高度な知識や実験スキルの養成を行うため「専門科目」を配置しているほか、将来の自律した研究者・教育者の養成のために「プレFD科目」を配置している。収容定員の変更に際して、指導教員1人あたりが担当する学生数には余裕がある態勢のため、これら教育方法の変更は行わず同等以上の内容を担保している。

b 履修指導方法の変更内容

本学の修士課程の7専攻の各専攻は、学生が履修計画に沿って体系的に履修できるように、研究指導教員が学生に対して個別に履修指導を行う。専門分野の高度化に対応して、理工学研究科における特論科目は、学士課程教育の内容を

より高度化している。ほとんどの授業科目は数名から十数名程度の少人数教育であり、研究指導に関しては指導教員とほぼマンツーマン体制で行うため、きめ細かい指導を行うことが可能である。収容定員の変更に際して、指導教員1人あたりが担当する学生数には余裕がある態勢のため、これら履修指導方法の変更は行わず同等以上の内容を担保している。

本学の博士（後期）課程の2専攻の各専攻は、研究指導教員が学生に対して個別に履修指導を行うとともに、研究指導に関しては指導教員とほぼマンツーマン体制で行い、きめ細かい指導を修士課程より高度化した内容で行うことが可能である。収容定員の変更に際して、指導教員1人あたりが担当する学生数には余裕がある態勢のため、これら教育方法の変更は行わず同等以上の内容を担保している。

（ウ） 教育組織の変更内容

本学の修士課程の7専攻の各専攻に所属する教員の内訳は次のとおりであり、所属する教員が各専攻の教育・運営の中核を担っている。

電気電子情報工学専攻は、教員72名（専任は外国人教員6名含む、教授44名、准教授21名、助教3名。）が所属し、現在のS/T比率6.60に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は5.56である。

材料工学専攻は、主所属として教員15名（専任は教授13名、准教授2名）が所属し、現在のS/T比率6.41に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は6.66である。

応用化学専攻は、主所属として教員17名（専任は外国人教員4名含む、教授11名、准教授5名。）が所属し、現在のS/T比率5.29に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は4.70である。

機械工学専攻は、主所属として教員38名（専任は外国人教員2名含む、教授30名、准教授8名。）が所属し、現在のS/T比率7.82に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は7.37である。

システム理工学専攻は、主所属として教員70名（専任は外国人教員6名含む、教授49名、准教授17名、助教3名。）が所属し、現在のS/T比率4.23に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は4.29である。

社会基盤学専攻は、主所属として教員14名（専任は外国人教員2名含む、教授12名、准教授2名）が所属し、現在のS/T比率6.31に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は5.71である。

建築学専攻は、主所属として教員40名（専任は外国人教員6名含む、教授32名、准教授5名、助教1名。）が所属し、現在のS/T比率9.08に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は8.50である。

本学の博士（後期）課程の2専攻の各専攻に所属する教員の内訳は次のとおりであり、

所属する教員が、各専攻の教育・運営の中核を担っている。

地域環境システム専攻は、主所属として教員103名（専任は外国人教員13名含む、教授83名、准教授17名、助教1名。）が所属し、現在のS/T比率0.43に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は0.44である。

機能制御システム専攻は、主所属として教員167名（専任は外国人教員14名含む、教授112名、准教授45名、助教6名。）が所属し、現在のS/T比率0.32に対して、変更後の収容定員に対するS/T比率は0.32である。

以上から、計画的に整備を行って現状と同等以上の教員組織を確保する編成を行ってきており、収容定員の変更に際して、教員組織の編成に関する変更は行わず同等以上の内容を担保している。

(エ) 施設・設備の変更内容

a 施設・設備の変更内容

本学は東京都江東区豊洲に豊洲キャンパス（工学部3・4年次、デザイン工学部 3・4年次、建築学部 1～4年次、大学院理工学研究科）、埼玉県さいたま市深作に大宮キャンパス（工学部1・2年次、システム理工学部1～4年次、デザイン工学部1・2年次、大学院理工学研究科）を所有している。なお、本学の修士課程の7専攻及び博士（後期）課程の2専攻の各専攻は、は現行と変わらず理工学研究科に設置し、既存の研究室や実験室等の施設を有効利用するため、校地、運動場の整備計画等は行わない。これは、学生を収容できるスペースが十分確保可能な態勢であるため、収容定員の変更に際して、同等以上の内容を担保している。また、現在、大宮キャンパスの建替の計画が進行中であるが、授業及び研究に支障が出ないように計画的に整備を進めるため、収容定員の変更に際して、現状と同等の教育環境を提供できる。

b 図書等の資料の変更内容

① 図書の整備計画等について

技術者、研究者の育成に向け、2館総冊数約23万冊に加え、年間の蔵書計画として全分野から網羅的に洋書約1,000冊を含む約5,000冊を増冊すると共に、海外で出版された電子書籍や国際関連に係る資料やコミュニケーションを主題とした大学院向け資料の充実を推進している。また、本学はキャンパスが2ヶ所にあるため、場所と時間の制約を受けない電子資料の充実を推進している。現在入手済みの25,000余ある洋書電子書籍の利用促進を図る案内や洋書の所蔵状況一覧をホームページに追加するなど、電子書籍や洋書の利用拡充を図っている。図書館における教育研究促進のための機能として、豊洲図書館は面積2,401.8㎡で個室、学生が使えるPC、大型の図面や書籍などの閲覧やグループ学習に利用できる和室を備えている。大宮図書館は面積2,779㎡で個室、学生が使えるPC、グループ学習室を備えている。

学内便（配送）を活用した二館相互利用サービスを設けており、どのキャンパスにおいても学習や研究のために学内資料が利用できる体制が整備されている。また、ひとり30冊までの貸出を可能とし研究への支援を行っている。収容定員の変更に際して、学生が利用できる学内資料は十分確保しているとともに、増刷も計画しており、同等以上の内容を担保している。

②デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画について

SCOPUS、SciFinder、Web of Science などの外国文献データベースや J-DreamIII などの国内文献データベースを充実させている。データベースで検索された文献は、学内はもちろん学外所蔵図書も有効に活用できるように ILL(学外文献複写)を無料化することで研究への支援を行っている。Elsevier、Springer、Wiley、Nature、IEEE など自然科学・社会科学分野を中心に 5,000以上の電子ジャーナルを購読し、学習の補助資料や研究資料として提供している。電子資料は、学内・学外共に開館時間等の制限を受けることなく利用できる。時間に制約を受けないメリットを最大限活用するため電子資料への媒体変更を進めている。国立国会図書館のデジタル配信サービスに登録し、デジタルアーカイブで活用することで過去の資料について、豊洲と大宮の2キャンパスの図書館内で利用できるようにしている。

エ 2以上の校地において教育研究を行う場合

教育研究を行う校地は豊洲と大宮の2キャンパスとなるが、本学の修士課程の7専攻及び博士（後期）課程の2専攻の各専攻に所属する学生は、通常、指導教員が在籍するキャンパスにて研究指導や講義等を受講している。教員において2以上の校地での教育研究を行う者はいるが、時間割上においては、可能な限り同じ研究分野の授業を1つのキャンパスにて受講できるよう違う曜日に配置している（例：修士課程 建築学専攻及び博士（後期）課程 地域環境システム専攻 石川 祐次は春学期は木曜日に豊洲キャンパスで授業、月・水・金曜日は大宮キャンパスで授業。）。また同日に両キャンパスで同じ研究分野に関する講義がそれぞれ開講される場合は、学生がキャンパス間を移動可能な時間割に配置する等の配慮を行っている。また時間割については、履修指導等も含め学生へのフォローを行っている。そのため校地ごとの収容定員は定めていない。収容定員の変更に際して、これらの変更等は行わず同等以上の内容を担保している。

以 上

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 収容定員を変更する組織の概要

①収容定員を変更する組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地

収容定員を変更する組織の概要は次のとおりである。

収容定員を変更する組織			入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行う キャンパス)
芝浦工業大学 大学院 理工学研究科	修士 課程	電気電子情報工学 専攻	200	-	400	〔豊洲キャンパス〕 東京都江東区豊洲 三丁目7番5号 〔大宮キャンパス〕 埼玉県さいたま市 見沼区深作307番地
		材料工学専攻	50	-	100	
		応用化学専攻	40	-	80	
		機械工学専攻	140	-	280	
		システム理工学 専攻	150	-	300	
		社会基盤学専攻	40	-	80	
	建築学専攻	170	-	340		
	博士 (後期) 課程	地域環境システム 専攻	15	-	45	
		機能制御システム 専攻	18	-	54	

②収容定員を変更する組織の特色

本学の修士課程では、専門分野における専門家としての知識と意識を持ち、社会の新しい側面に対応し、それを即戦力として活用でき、さらに持続型社会の構築に貢献できる技術者・研究者の育成を教育目的としている。高度な専門知識に裏付けられた、問題発掘能力や定量的に問題を解決する能力、さらにはグローバル社会に対応できる能力が求められる。これらの能力が養われるように、国際的に通用する幅広い見識と柔軟思考を両輪とする教育研究を展開している。

本学の博士（後期）課程では、研究者ポテンシャルの向上を目指して、大学院修士課程の修了者あるいは社会の第一線で活躍している技術者を対象に、豊かな学識を有する専門技術者及び研究者として育成することを教育目的としている。学際的観点から自己の専門分野を深めることにより、ソフト・ハード両面にわたって総合的な見地に立ち、システム全体の調和を図ること、及び持続型社会の構築に貢献できる能力の獲得を目指している。さらに、産業界で活躍できる博士号取得者となることができるように、複眼的工学能力、技術経営能力、メタナショナル能力を併せ持つシグマ型統合能力人材の育成を展開している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①収容定員を変更する組織で要請する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

芝浦工業大学は今日に至るまで、「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神に掲げ、実用的な知識と技術を持ちながら、高い倫理観と豊かな見識を備える優れた技術者の育成に取り組んできた。

21世紀の現在、人類は地球温暖化などの世界規模の深刻な環境問題に直面するとともに、SDGsに象徴されるように持続可能な社会の実現が大きな課題になってきている。さらに、日本においては、社会の人口減少、少子化・高齢化とそれに起因する様々な課題が山積しているとともに、新型コロナウイルスの感染拡大を経てテレワークが浸透するなど社会のあり方は変わり、社会の多様化は進展している。また、能登半島地震をはじめとした地震や毎年のように発生する水害などの自然災害による被害は甚大であり、これらに対応して日本国内外で幅広く活躍のできる理工系人材の育成が急務となっている。

人間文化の発展と持続可能な社会の実現に寄与し、環境の大きな変化と多様な価値観が共存する現代国際社会において、自然科学から人文社会科学におよぶ学際的視点を備えつつ、理工学の各専門領域にもとづき、解決方法を持って活躍できる人材を育成することを目的にしている。

本学の修士課程の7専攻について、各分野及び就職先を含む求人状況は次のとおりである。

電気電子情報工学分野は、エネルギー、環境、宇宙、ナノ物性、デバイス、情報、通信などの分野に関わり、その就職先（人材需要）は化学メーカー、自動車メーカー、半導体メーカー、公務員など非常に幅が広い。そして、実際に求人状況は堅調であり、大学院生の就職状況も好調である。今後とも生活に幅広く関わる電気電子情報工学分野へのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

材料工学分野は、材料及びその材料製造、物質などの分野に関わり、その就職先（人材需要）は電機メーカー、自動車メーカー、半導体メーカー、研究所、公務員など非常に幅が広い。そして、実際に求人状況は堅調であり、大学院生の就職状況も好調である。今後とも産業の基盤に関わる材料工学分野へのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

応用化学分野は、化学、環境及びエネルギーなどの分野に関わり、その就職先（人材需要）は化学メーカー、半導体メーカー、文具メーカー、公務員など非常に幅が広い。そして、実際に求人状況は堅調であり、大学院生の就職状況も好調である。今後とも産業の基盤に関わる応用化学分野へのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

機械工学分野は、構造力学、流体、熱・エネルギーなどの分野を中心に幅広く関わり、その就職先（人材需要）は重工業メーカー、電機メーカー、半導体メーカー、公務員など非常に幅が広い。そして、実際に求人状況は堅調であり、大学院生の就職状況

も好調である。今後とも幅広い産業に関わる機械工学分野へのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

システム理工学分野は、機械・制御、電子・情報、社会・環境、生命科学、数理学のなどの分野に幅広く関わり、その就職先（人材需要）は、シンクタンク、化粧品会社、重工業メーカー、電機メーカー、公務員など非常に幅が広い。そして、実際に求人状況は堅調であり、大学院生の就職状況も好調である。今後とも幅広い産業に関わるシステム理工学分野へのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

社会基盤学分野は、土木、防災、環境などの分野を中心に幅広く関わり、その就職先（人材需要）は建設会社、建設コンサルタント、鉄道会社、公務員など非常に幅が広い。そして、実際に求人状況は堅調であり、大学院生の就職状況も好調である。今後とも建設産業やインフラ産業に関わる社会基盤学分野へのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

建築学分野は住宅・建物づくり、まちづくり、都市づくりに関わり、その就職先（人材需要）は建設会社、設計事務所、住宅メーカー、工務店、ディベロッパー（不動産等）、公務員など非常に幅が広い。そして、実際に求人状況は堅調であり、大学院生の就職状況も好調である。今後とも住宅建物やまちづくりに関わる建築学分野へのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

本学の博士（後期）課程の2専攻について、各分野及び就職先を含む求人状況について説明する。

地域環境システム分野は、電気、電子材料、化学、機械、建設工学などの分野に関わり、学際的な教育研究を展開している。その進路（人材需要）は研究者を中心に幅が広い。今後も社会に幅広く関わる地域環境システム分野の活躍する領域とそのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

機能制御システム分野は、通信機能制御、機能デバイス制御、システム制御、生命機能制御などの分野に関わり、学際的な教育研究を展開している。その進路（人材需要）は研究者を中心に幅が広い。今後も社会に幅広く関わる地域環境システム分野の活躍する領域とそのニーズは益々高まる状況であり、収容定員の変更は社会的な人材需要の動向等を踏まえたものである。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学の修士課程のうち9割は本学学部からの進学者であることから、18歳人口の学部進学動向が直接影響する。2022年度までのデータから2023年度にリクルート進学総研が「学校基本調査」を基に作成された「18歳人口予測」「進学率推移」「地元残留率」による分析によると、現役での大学進学率は2013年度から2022年度の10年間の比較で7.9ポイント上昇し55.3%となっている。特に上昇が大きいのは、北海道、四国地

方、東北地方で、また進学率が高いのは南関東、近畿、東海の三大都市圏である。今後2034年までの18歳人口の減少率と地元残留率から、東京都、愛知県、広島県、福岡県、熊本県は、人口減少率が低く、地元残留率が高いとされることから、学生募集のターゲットとなる地域とされる。

③収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

本学の各学部生の出身地は次のとおりである。②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析欄で上述したとおり、人口が減少せずに地元にも残るとされる南関東、東海地方の入学者割合は東京都33.74%、埼玉県21.16%、千葉県10.18%、神奈川県9.75%、静岡県1.82%、愛知県1.93%であり、入学者全体の78.58%がこのエリアからの入学者であり、本学の主の学生募集地域であることから、今後も安定して学部および大学院の入学者を確保できると考える。

図1：本学の学部入学の出身都道府県別入試状況（2024年度4月入学者）

都道府県	志願者数	合格者数	入学者数	入学者の割合
北海道	522	146	28	1.50%
青森県	85	17	7	0.37%
岩手県	103	39	3	0.16%
宮城県	443	164	15	0.80%
秋田県	83	15	5	0.27%
山形県	163	49	3	0.16%
福島県	254	75	16	0.86%
茨城県	1,441	363	59	3.16%
栃木県	893	238	38	2.04%
群馬県	824	219	29	1.55%
埼玉県	7,146	1,885	395	21.16%
千葉県	3,639	961	190	10.18%
東京都	11,544	3,158	630	33.74%
神奈川県	3,939	1,089	182	9.75%
新潟県	485	132	28	1.50%
富山県	151	40	4	0.21%
石川県	57	7	1	0.05%
福井県	56	13	2	0.11%
山梨県	332	102	13	0.70%
長野県	411	106	25	1.34%
岐阜県	124	35	10	0.54%

静岡県	1,048	375	34	1.82%
愛知県	607	191	36	1.93%
三重県	69	12	2	0.11%
滋賀県	26	10	1	0.05%
京都府	86	30	1	0.05%
大阪府	91	14	4	0.21%
兵庫県	76	22	5	0.27%
奈良県	32	1	0	0.00%
和歌山県	25	4	3	0.16%
鳥取県	14	3	0	0.00%
島根県	11	1	1	0.05%
岡山県	83	19	10	0.54%
広島県	165	40	4	0.21%
山口県	70	35	4	0.21%
徳島県	10	3	2	0.11%
香川県	102	16	2	0.11%
愛媛県	31	16	2	0.11%
高知県	60	32	3	0.16%
福岡県	379	82	16	0.86%
佐賀県	66	31	4	0.21%
長崎県	62	37	4	0.21%
熊本県	48	15	5	0.27%
大分県	34	13	9	0.48%
宮崎県	57	9	4	0.21%
鹿児島県	55	30	2	0.11%
沖縄県	192	64	8	0.43%
外国・その他	154	52	18	0.96%
計	36,348	10,010	1,867	—

④既設組織の定員充足の状況

本学の各学部の過去4年間の定員充足率は、次のとおりであり、入学者数を安定して確保している。

図2：本学の工学部各学科及び課程の入学定員に対する平均充足率

入学年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
機械工学科	1.05	1.06	1.04	—

機械機能工学科	1.07	1.11	1.03	-
材料工学科	1.03	0.99	0.99	-
応用化学科	1.10	1.10	1.07	-
電気工学科	1.05	1.03	1.01	-
情報通信工学科	1.07	1.09	1.08	-
電子工学科	1.08	1.06	1.05	-
土木工学科	0.99	1.01	1.00	-
情報工学科	1.09	1.05	1.03	-
先進国際課程	0.44	0.59	1.00	1.00
機械工学課程	-	-	-	0.95
物資化学課程	-	-	-	1.03
電気電子工学課程	-	-	-	1.00
情報・通信工学課程	-	-	-	0.99
土木工学課程	-	-	-	0.98

※ 機械工学課程、物資化学課程、電気電子工学課程、情報・通信工学課程、土木工学課程は2024（令和6）年度課程新設。

※ 機械工学科、機械機能工学科、材料工学科、応用化学科、電気工学科、情報通信工学科、電子工学科、土木工学科、情報工学科は2024（令和6）年度から募集停止。

※ 先進国際課程は学部教育をすべて英語で提供する性質上、秋入学者が主であり、2021年、2022年は集計時期とのズレが生じていたものである。

図3：本学のシステム理工学部各学科の入学定員に対する平均充足率

入学年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
電子情報システム学科	1.07	1.04	1.03	1.00
機械制御システム学科	1.06	1.06	1.08	1.02
環境システム学科	1.07	1.14	1.03	1.04
生命科学科	1.05	1.03	1.00	1.00
数理科学科	1.07	1.03	1.05	1.03

図4：本学のデザイン工学部入学定員に対する平均充足率

入学年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
デザイン工学科	1.04	1.05	1.04	1.08

図5：本学の建築学部入学定員に対する平均充足率

入学年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
建築学科	1.06	1.06	1.06	1.08

(3) 学生の確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

学生確保に向けた具体的な取組みは、以下行っている。

- ・大学院案内（パンフレット）や入学試験募集要項による募集活動
- ・本学ホームページによる広報活動
- ・大学院進学説明会や父母懇談会による広報活動
- ・本専攻所属予定の教員による学生の広報活動
- ・2021年度より学部入試のうち、指定校推薦入試の応募条件に「大学院進学を意識している人」と明示し、学部と大学院の6年間での教育・研究活動の広報

イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標

学生確保に向けた具体的な取組みは、以下を予定している。

- ・大学院案内（パンフレット）や入学試験募集要項による募集活動
- ・本学ホームページによる広報活動
- ・大学院進学説明会や父母懇談会による広報活動
- ・本専攻所属予定の教員による学生の広報活動
- ・2021年度より学部入試のうち、指定校推薦入試の応募条件に「大学院進学を意識している人」と明示し、学部と大学院の6年間での教育・研究活動の広報
- ・本学の学部3年生を中心対象とする、在学生作成の動画による学生への広報活動

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

本学の修士課程の入試制度は、本学内からの推薦入試、一般入試3回、社会人特別入試を2回、外国留学生特別入試2回を設けている。そのうち、最も志願者数が多い本学内からの推薦入試制度について、本学の学部3年生に対する説明動画を公開しており、2024年の説明動画の再生回数は667回を記録している。また、本学の大学院入試のWebページへのアクセス数は、2024年の1年間で12,606回を記録している。こうしたことから、収容定員を変更した後の入学者数として、入学定員充足率の100%を満たす、次の人数を見込んでいる。

本学の修士課程の7専攻は、電気電子情報工学専攻 200人、材料工学専攻 50人、応用化学専攻 40人、機械工学専攻 140人、システム理工学専攻 150人、社会基盤学専攻 40人、建築学専攻 170人である。

本学の博士（後期）課程の2専攻は、地域環境システム専攻 15人、機能制御システム専攻 18人である。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析、優位性

同じ私立理工系の分野で、これまで学部入試で競合するのは東京理科大学である。学部、修士課程、博士（後期）課程と本学より2倍近い収容定員を要する大学であ

り、特に学部入試に着目すると、本学工学部は同大学の工学部及び総域理工学部と、システム理工学部は同大学の総域理工学部及び先進工学部と、本学デザイン工学部は同大学の総域理工学部と、建築学部は工学部及び総域理工学部との併願関係にある。同大学とは入学試験日も重複するが、重複日程においては学科系統が異なることから受験者目線での併願もしやすい状況にあることから競合校として選定した。本学の一般入学者選抜はここ数年で少々減少しているものの、入学定員からみた志願者の規模等も含め質を維持しており、偏差値が同大に接近している学部もある。本学の強みは、機械工学や電気電子、情報工学、建築を始めとした学部の学問領域の多様性や産業界との連携により実務的なスキルを重視して教育をしていることである。次に示す本学と同大学の修士課程及び博士（後期）課程の収容定員充足状況や入学志願動向から、従来は両大学間に3倍以上の収容定員の差があったが、本学の修士課程及び博士（後期）課程の学生数の増加に伴い、2倍近い差まで縮まってきている。本学は特に「実務能力の強化」、「産業界との強い連携」、「工学分野の専門性」、「強力な企業ネットワーク」を活かして、この先も本学大学院への進学者数を増やして新しく設定する収容定員を充足していく。

図6：東京理科大学修士課程の収容定員充足状況等

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
在籍者数	2,887	3,002	2,997	2,962
収容定員	2,686	2,716	2,746	2,716
収容定員充足率	1.07	1.11	1.09	1.09

図7：東京理科大学博士（後期）課程の収容定員充足状況等（収容定員：338名）

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
在籍者数	291	304	310	301.7
収容定員充足率	0.86	0.90	0.92	0.89

図8：本学修士課程の収容定員充足状況等（収容定員：970名）

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
在籍者数	1,449	1,557	1,722	1,576

収容定員充足率	1.49	1.61	1.78	1.62
---------	------	------	------	------

図9：本学博士（後期）課程の収容定員充足状況等（収容定員：81名）

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
在籍者数	77	95	104	92
収容定員充足率	0.95	0.97	1.07	1.00

イ 競合校の入学志願動向等

下記に示すとおり両大学ともに過去3年間の入学試験における受験者数、入学者数は安定して人数を確保しており、理工学分野への社会的なニーズも継続して拡大していく傾向から、新たに設定する定員を充足することは可能と考える。

図10：東京理科大学修士課程の入学志願動向等

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
志願者数	1,891	1,867	1,843	1,867
合格者数	1,530	1,555	1,518	1,534
入学者数	1,467	1,502	1,455	1,474
入学定員	1,353	1,363	1,383	1,366
定員充足率	1.08	1.10	1.05	1.08

図11：東京理科大学博士（後期）課程の入学志願動向等（入学定員：111名）

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
志願者数	106	99	84	96.3
合格者数	100	95	80	91.7
入学者数	97	94	80	90.3
定員充足率	0.87	0.85	0.72	0.81

図12：本学修士課程の入学志願動向等（入学定員：485名）

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
志願者数	796	890	906	864
合格者数	775	860	880	838
入学者数	725	819	850	798
定員充足率	1.49	1.69	1.75	1.64

図13：本学博士（後期）課程の入学志願動向等（入学定員：27名）

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
志願者数	29	40	37	35.3
合格者数	29	39	37	35
入学者数	29	36	36	33.7
定員充足率	1.07	1.33	1.33	1.24

ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

本学の修士課程の7専攻の志願者は、次のとおりであることから、入学者数を安定して確保している。

図 14：本学の修士課程の7専攻の志願者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
電気電子情報工学専攻	185	237	230	217.3
材料工学専攻	53	50	62	55
応用化学専攻	41	50	48	46.3
機械工学専攻	128	152	157	145.7
システム理工学専攻	166	147	175	162.3
社会基盤学専攻	26	41	45	37.3
建築学専攻	176	192	188	185.3

図 15： 本学の博士（後期）課程の2専攻の志願者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
地域環境システム専攻	10	19	17	15.3
機能制御システム専攻	19	21	20	20

エ 学生納付金の金額設定の理由

本学の修士課程の学生納付金（学費・授業料等（入学金等を除く））は同額に設定されている【資料1】。また、同系列の主な大学院の学生納付金（学費・授業料等（入学金等を除く））として、東京理科大学大学院理学研究科又は工学研究科又は創域理工学研究科又は先進工学研究科又は生命科学研究科1,230,000円～1,310,000円、東京電機大学大学院理工学研究科又は工学研究科又はシステムデザイン工学研究科1,268,430円～1,528,430円、東京都市大学大学院総合理工学研究科又は環境情報学研究科 1,210,000円～1,300,000円、工学院大学大学院工学研究科 1,330,430円と比較すると若干高い方の水準となっているが、充実した教育・研究環境を確保する観点からも学生納付金の設定は妥当であると考えられる。

本学の博士（後期）課程の学生納付金（学費・授業料等（入学金等を除く））は同額に設定されている【資料2】。また、同系列の主な大学院の学生納付金（学費・授業料等（入学金等を除く））として、東京理科大学大学院理学研究科又は工学研究科又は創域理工学研究科又は先進工学研究科又は生命科学研究科1,000,000円、東京電機大学大学院先端科学技術研究科1,269,620円、東京都市大学大学院総合理工学研究科又は環境情報学研究科 1,210,000円～1,300,000円、工学院大学大学院工学研究科1,239,620円と比較すると若干低い方の水準となっており、学生納付金の設定は妥当であると考えられる。

しかし、学生の経済的負担軽減のため、1) 経済支援、2) 修学支援について次のような取り組みを本学では実施している。

本学の修士課程では、1) 経済支援として2種類（第一種（無利子）と第二種（有利子））の日本学生支援機構の奨学金に加え、成績優秀者に対する学内の給付奨学金を2種類設けている。本学の給付奨学生に採用された者は、他の奨学金の貸与を受けることができる【資料2】。また、二次的な効果として経済支援となっているのが、ティーチングアシスタント（TA）、「Students Consulting on Teaching」（SCOT）および国際学生寮のレジデントアドバイザー（RA）制度である。これらは、教員と職員、大学院生が協働で大学運営に当たるために導入されたが、活動の対価として支払っている給与が学生への経済支援の意味合いを有する。

本学の博士（後期）課程では、1) 経済支援として2種類（第一種（無利子）と第二種（有利子））の日本学生支援機構の奨学金に加え、成績優秀者に対する学内の給付奨学金を3種類設けている。本学の給付奨学生に採用された者は、他の奨学金の貸与を受けることができる【資料3】。また、二次的な効果として経済支援となっているの

が、ラーニングファシリテーター（LF）制度である。教員と職員、大学院生が協働で大学運営に当たるために導入されたが、活動の対価として支払っている給与が学生への経済支援の意味合いを有する。

2) 修学支援として、学生一人当たり、修士課程 170,000 円、博士課程 500,000 円の教育研究費の配分、国際学会での発表に伴う渡航費として上限120,000円で後援会から補助の整備が行われている。博士（後期）課程においては学生一人あたり 500,000 円の教育研究費を配分し、国内・外国での研究発表を含め研究推進を支援している。

③先行事例分析

先行事例の該当がない。

④学生確保に関するアンケート調査

本学の修士課程の7専攻の入学状況は、次のとおりであり、直近3年間平均で入学定員数を超える入学者数で入学定員数を確保している。また、標準修了年限の直近2年間にあたる2023年度、2024年度と同等の入学者数を確保することで、収容定員を変更した後の入学定員数を概ね確保できる水準にある。そのため、収容定員を変更した後の定員数を確保できると考えている。

図 16：電気電子情報工学専攻の定員数と入学者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	過去3年 平均
現在の入学定員数	110	110	110	—
収容定員を変更した後の 入学定員数	200			
入学者数	168	219	211	199

図 17：材料工学専攻の定員数と入学者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	3年間 平均
現在の入学定員数	40	40	40	—
収容定員を変更した後の 入学定員数	50			
入学者数	49	47	60	52

図 18：応用化学専攻の定員数と入学者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	3年間 平均
現在の入学定員数	30	30	30	—
収容定員を変更した後の 入学定員数	40			

入学者数	37	48	42	42
------	----	----	----	----

図 19：機械工学専攻の定員数と入学者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	3 年間 平均
現在の入学定員数	85	85	85	—
収容定員を変更した後の 入学定員数	140			
入学者数	118	146	146	137

図 20：システム理工学専攻の定員数と入学者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	3 年間 平均
現在の入学定員数	75	75	75	—
収容定員を変更した後の 入学定員数	150			
入学者数	147	129	168	148

図 21：社会基盤学専攻の定員数と入学者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	3 年間 平均
現在の入学定員数	25	25	25	—
収容定員を変更した後の 入学定員数	40			
入学者数	26	36	44	35

図 22：建築学専攻の定員数と入学者数

年度	2022年度	2023年度	2024年度	3 年間 平均
現在の入学定員数	110	110	110	—
収容定員を変更した後の 入学定員数	170			
入学者数	160	175	177	171

本学の博士（後期）課程の2専攻の入学状況は、次のとおりであり、直近4年間平均で入学定員数を超える入学者数で入学定員数を確保しているとともに、収容定員を変更した後の入学定員数を概ね確保できる水準にある。そのため、収容定員を変更した後の定員数を確保できると考えている。

図 23：地域環境システム専攻の定員数と入学者数

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	4 年間 平均
現在の入学定員数	12	12	12	12	—

収容定員を変更した後の入学定員数	15				
入学者数	14	10	17	16	14.3

図 24：機能制御システム専攻の定員数と入学者数

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	4年間平均
現在の入学定員数	15	15	15	15	—
収容定員を変更した後の入学定員数	18				
入学者数	13	19	19	20	17.8

⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学の修士課程の7専攻の進路状況は、次のとおりであり、ほぼ全員に近い学生が就職等による進路を決定している。

図 25：2023年度の本学の修士課程修了者の進路状況

専攻名	卒業者数	就職未決定者数	就職内定率
電気電子情報工学専攻	153	0	100.0%
材料工学専攻	46	0	100.0%
応用化学専攻	37	0	100.0%
機械工学専攻	113	0	100.0%
社会基盤学専攻	23	1	95.5%
建築学専攻	151	2	98.6%
合計	688	5	99.2%

また、文部科学省が2017年6月にまとめた「大学における工学系教育の在り方について¹⁾」まとめられた中で「工学関連基礎資料²⁾」によると、公私立大学における工学系専攻別分野別の入学者数の比較（修士）が明示されている。収容定員を変更する組織に関するところでは、1990年度の4,430名において、電気通信工学分野27.29%（約1,209名）から、2014年度には11,170名のうち電気通信工学分野24.16%（2,699名）に増加した。1990年度の4,430名において、応用化学分野16.12%（約714名）から、2014年度には11,170名のうち応用化学分野9.02%（1,007名）に増加した。1990年度の4,430名において、土木建築工学分野17.99%（約797名）から、2014年度には11,170名のうち土木建築工学分野は13.88%（1,550名）に増加した。以上から、修士の工学分野の各分野において入学者の増加している。

加えて、文部科学省が2024年3月にまとめた「博士人材活躍プラン～博士をとろう～¹⁾」の中で、指標として「学士号取得者に対する博士号取得者に割合」が明示され、2020年2.7%から、2030年5%と約2倍、2040年8%と約3倍に増加する大目標が掲げられ

た。こうした環境下で、本学の博士（後期）課程の入学者の増加が予想されている。

（４）収容定員を変更する組織の定員設定の理由

芝浦工業大学全体として長期ビジョン（「Centennial SIT Action」【資料3】）を策定し、学部生の大学院進学率を60%（2024年度は47.9%）に引き上げることを数値目標として掲げ、2027年の創立100周年に向けて大学一丸となって目標達成に向け取り組んでいる。

上記（１）から（３）までの説明とともに、本学の修士課程の7専攻及び博士（後期）課程の2専攻は、新設の専攻ではなく、現行の各専攻の収容定員を変更するものである。直近3,4年間の入学状況を考慮して適切な人数設定としていることから、入学定員の充足を見込むことが可能であると考えている。

【参考文献】

- (1) 文部科学省、大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）、工学
関連基礎資料、2017年6月

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/06/27/1387312_01.pdf

- (2) 文部科学省、博士活躍人材プラン～博士をとろう～、2024年3月

https://www.mext.go.jp/content/20240326-mxt_kiban03-000034860_1.pdf

【参考資料】

【資料 1】 芝浦工業大学大学院理工学研究科 学費一覧

【資料 2】 芝浦工業大学大学院 奨学金制度一覧

【資料 3】 芝浦工業大学長期ビジョン（Centennial SIT Action）

【資料1】芝浦工業大学大学院理工学研究科 学費一覧

学費等

修士課程

	1年次	2年次
(1) 入学金(一時金)※	260,000円	—
(2) 授業料(年額)	1,021,000円	1,121,000円
授業料(半期)	510,500円	560,500円
(3) 維持料(年額)	184,000円	184,000円
維持料(半期)	92,000円	92,000円

※ 本学卒業生及び再入学の入学金は免除する。

博士（後期）課程

	1年次	2年次	3年次
(1) 入学金(一時金)※	260,000円	—	—
(2) 授業料(年額)	657,800円	657,800円	657,800円
授業料(半期)	328,900円	328,900円	328,900円
(3) 維持料(年額)	184,000円	184,000円	184,000円
維持料(半期)	92,000円	92,000円	92,000円

※ 本学卒業生及び再入学の入学金は免除する。

【資料 2】 芝浦工業大学大学院 奨学金制度一覧

奨学金名称	金額	給付／貸与	給付／貸与 期間・回数	目的等
修士課程進学奨励 給付奨学金	年額 60 万円、30 万円、20 万円（学 費と相殺のため振 込は無し）	給付	2 年間	本学の大学院修士課程に進学 を希望する本学学部生で成 績・人物とも極めて優秀な学 生への給付を目的とした奨学 金
グローバル理工系 人材育成大学院給 付奨学金	年額 40 万円、30 万円（学費と相殺 のため振込は無し）	給付	2 年間	本学のグローバル理工系人材 育成の推進および本学の学部 生・卒業生の大学院進学の特 進及び女子学生の大学院進学 の積極的支援を目的とした奨 学金
日本学生支援機構 奨学金(第一種)／ (無利子)	月額 5 万円、8 万 8 千円から選択 (月々振込)	貸与	最短修業年 限	学力、人物とも優秀かつ健康 であり、経済的理由により学 資の支弁が困難な学生を対象 に日本学生支援機構の定める 学力基準、収入基準の双方を 満たす場合に貸与される奨学 金
日本学生支援機構 奨学金(第二種)／ (有利子)	月額 5 万円、8 万 円、10 万円、13 万円、15 万円から 選択 (月々振込)			

奨学金名称	金額	給付／貸与	給付／貸与 期間・回数	目的等
博士(後期)課程給付奨学金	年間学費等相当額、年間学費等半額相当額(学費と相殺のため振込は無し)	給付	3年間	本学の大学院修士課程から引き続き進学した学生、女子学生に対する大学院進学促進及び積極的支援を目的とした奨学金
博士(後期)課程留学生給付奨学金	学費相当額(学費と相殺のため振込は無し)及び国費外国人留学生給与相当額	給付	3年間	海外から本学博士(後期)課程に進学する留学生のうち、特に優秀であるに対して、積極的支援を目的とした奨学金
芝浦工業大学校友会大学院博士(後期)課程女性研究者育成奨学金	年額100万円を採用者で人数割	給付	3年間	本学の学部及び本学の大学院理工学研究科修士課程から引き続き進学して本学の教員を目指す女子学生に対する、大学院進学促進及び積極的支援を目的とした奨学金
日本学生支援機構奨学金(第一種)／(無利子)	月額8万円、12万円、15万円から選択(月々振込)	貸与	最短修業年限	学力、人物とも優秀かつ健康であり、経済的理由により学資の支弁が困難な学生を対象に日本学生支援機構の定める学力基準、収入基準の双方を満たす場合に貸与される奨学金
日本学生支援機構奨学金(第二種)／(有利子)	月額5万円、8万円、10万円、13万円、15万円から選択(月々振込)			

芝浦工業大学の中長期計画～Centennial SIT Action

芝浦工業大学は、「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」を建学の理念として1927年に設立された。この理念を継承しつつ、現在は、グローバル社会を意識し、「世界に学び世界に貢献するグローバル理工学人材の育成」を大学のミッションに据えている。

芝浦工業大学は、100周年を迎える2027年に、アジア工科系大学トップ10に入るという目標(KGI: key goal indicator)を設定した。これは、2014年に私立理工系大学として唯一、スーパーグローバル大学 (Top Global University) に文科省から選定されたことを機に、世界レベルのグローバル理工大学の構築を意図したものである。この目標達成に向かって進むため、5項目からなる取り組み課題を据え、Centennial SIT Action として宣言した。



本学が進める Centennial SIT Action に掲げる目指すべき大学像は

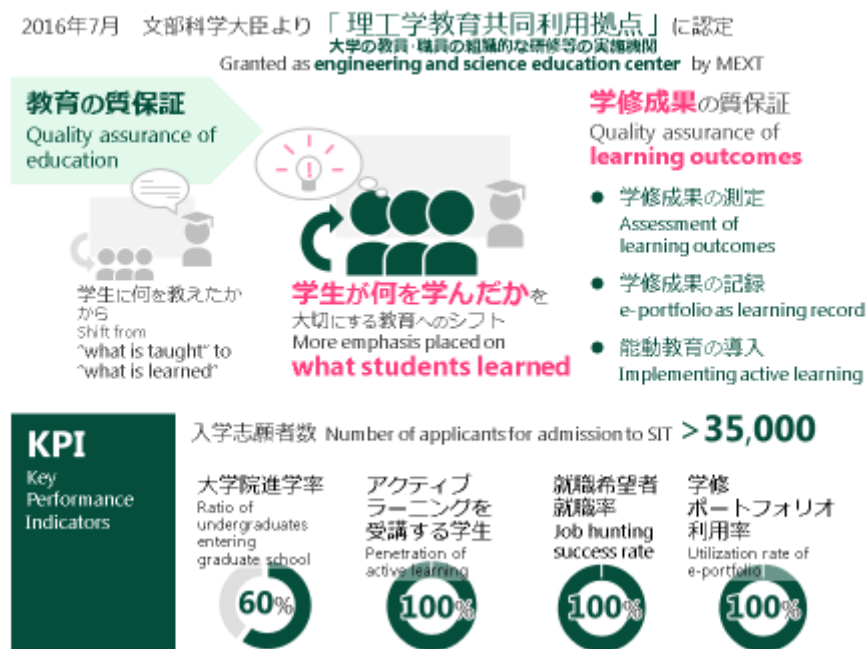
- 1 理工学教育日本一
 - 2 知と地の創造拠点
 - 3 グローバル理工学教育モデル校
 - 4 ダイバーシティ推進先進校
 - 5 教職協働トップランナー
- である。

これら行動計画に数値目標としての KPI (Key performance indicator) を設定し、行程管理を行っている。これら大学像を着実に実現すれば、結果として、世界レベルのグローバル理工大学の構築につながり、アジア工科系大学トップテン入りも可能となる。

1. 理工学教育日本一

芝浦工業大学は、「理工学教育日本一」を目指し、「学生に何を教えたか」ではなく、大学教育によって「学生が何を学んだか」を大切に教育への転換を進めている。そのため、「学生が何を学んだか」すなわち学修成果(learning outcomes)をいかに測定するかが重要となる。さらに、修得すべき能力には専門分野の知識だけでなく、汎用力(generic skill)も含まれる。本学では、評価指標としてのルーブリック(rubrics)の整備や、汎用力測定のためのツール (PROG: progress report of generic skills) の導入、そして、学生の学修過程と成果を記録するポートフォリオ (electric portfolio) の導入を教職協働で進めている。また、学生の主体的学びを促すためのアクティブラーニング (active learning) を全学的に導入する。

また、本学は2016年7月にグローバル理工学教育のモデル構築とその基本的な枠組み及び教育手法を国内に浸透させる拠点として、文部科学大臣より理工学教育共同利用拠点(大学の教員・職員の組織的な研修等の実施機関)に認定された。拠点制度は、各大学が持つ教育施設や機関を他大学等にも供することで、より多様で高度な教育を目指すものであり、本学は、その中心的役割も果たしていく。



2. 知と地の創造拠点

大学の重要な使命に研究がある。教育と研究は、まさに両輪であり、研究の活性化が教育の高度化につながる。特に、理工系大学では、最先端研究の場で人材育成することが求められている。

本学では、世界レベルの研究拠点の形成を目指して、重点研究分野の選定と、拠点に参加する教員チームの編成、さらに、国際共同研究も推奨している。

また、地域の自治体や中小企業との連携や共同研究も重要視している。研究活動は大学の活力の源泉であり、研究を通じた人材育成を進めるとともに、イノベーション創出による社会貢献を通じて、芝浦工業大学の価値・競争力を向上させることを企図する。

知の創造拠点－研究力

Center of excellence for advanced research

世界レベルの研究拠点の形成
World premier research center

個人レベルの独創的研究と国際共同研究も推奨
Promotion of innovative research and international collaboration

KPI

Key Performance Indicators

年間論文件数 Research papers published	600 / yr
国際共著論文数 International co-authored papers	200 / yr
国際会議講演件数 Talks at international conferences	500 / yr
海外共同研究数 International collaborative research	100 / yr

地の創造拠点－社会連携

Center of excellence for regional cooperation

地域の自治体や、中小企業との連携と共同研究
Promotion of collaboration with local government and regional companies

KPI

受託・共同研究 参加学生数 Students participating in academia-industry collaboration	300 / yr
--	----------

3. グローバル理工学教育モデル校

芝浦工業大学は、「世界に貢献するグローバル理工学人材」の育成を大学の人材育成目標としている。いかにグローバル理工学教育を進めるかは、重要な課題である。その中で、グローバル人材は、世界を経験することが重要と考え、入学した学生が全員海外経験することを KPI に掲げている。

2014 年、芝浦工業大学は文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援（タイプ B グローバル化牽引型）（以下「SGU」と表記）に採択された。本学は、私立理工系大学で唯一の SGU 大学であり、本事業を通して日本の理工系大学のグローバル化にも貢献する責務がある。

また、グローバル化には、産業界との連携も重要である。本学は、世界の産官学が協働してグローバル人材育成を行う GTI (global technology initiative) を構成し、グローバル PBL (project based learning) などの共同実施などを通して、グローバル理工学教育のけん引役を果たしていく。



私立理工系唯一のスーパーグローバル大学として、
日本のグローバル理工学教育を牽引

To lead global engineering education in Japan,
as the only one technical university
selected in top global university project



日本人学生海外経験率
Japanese students going
abroad



外国人留学生比率
Ratio of foreign
students



外国人教員比率
Ratio of foreign
faculty



学生英語力
English proficiency of students

CEFR B1 (TOEIC 550)

外国人留学生数
Number of foreign students

>2,400

4. ダイバーシティ推進先進校

教育も研究も多様性(diversity)の中でこそ大きな効果が得られると言われており、多様性の理解と受容は、グローバル理工大学を目指す本学には重要である。日本社会ならびに、大学では男女共同参画が大きく遅れている。これは、教育研究の多様性を失わせる一因となる。

本学では、男女共同参画をダイバーシティ推進の一環と位置付け、その積極的推進を進めている。2013年には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択された。女性教員数も18名から59名へと増えている。今後は、女性教員比率を、いまの18%から30%へ上昇することを目指し、女子学生比率も向上させる。

教育も研究も、多様性の中で大きな効果が得られる
Diversity enriches educational experience and drives research innovation.

多様性の受容

Diversity and Inclusion

多様性 国籍、人種、宗教、文化、男女、
年齢、身体的特徴

Diversity Nationality, Race, Religion, Culture,
Gender, Age, Physical disability

KPI
Key
Performance
Indicators

女性職員管理職比率
Ratio of female
management staffs



女性教員比率
Ratio of female
faculties



女子学生比率
Ratio of female
students



5. 教職協働トップランナー

大学改革は、教員と職員が一体となって進める必要がある。本学では、教職協働の成否の指標として、文科省の競争的事業の獲得件数を挙げている。これは、教職が協働しなければ獲得できないからである。

この成果の一環として、本学は、SGU、AP（大学教育再生加速プログラム）、COC（地（知）の拠点整備事業）の3事業に採択されている。また、2013年度から開始された「私立大学等改革総合支援事業」では開始から5年連続してタイプ1から4の全てに採択されている唯一の大学である。

今後は、2027年の目標達成のために、さらなる教職協働を推進するとともに、FSDS活動を教職協働で行うことで、教員とともに、職員の能力開発も積極的に進めていく。



教員と職員が一体となって、教育、研究、および大学運営を協働で推進

To promote education, research and university administration through **collaboration between faculty and staff members**



留学経験のある職員 Staff members experienced abroad



学外からの評価－職員力 Staff empowerment

TOEIC800以上の職員 Staff members with over TOEIC 800



女性職員比率 Ratio of female staff members



TOP 10

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ヤマダ ジュン 山田 純 <令和6年4月>		博士(工学)		芝浦工業大学長 (令和3年4月~令和10年3月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

専任教員一覧

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 電気電子情報工学専攻(M)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) (〈就任予定年月〉)	担当授業科目名	備考
電気電子情報工学分野	1	教授	藤田 吾郎 (〈令和7年4月〉)	電力システム工学研究 Advanced Power System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	2	教授	安藤 吉伸 (〈令和7年4月〉)	ロボティクス・メカトロニクス研究 メカトロニクス特論 Autonomous Mobile Robot System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	西川 宏之 (〈令和7年4月〉)	エネルギー物性研究 量子ビーム応用特論 Advanced Quantum-Beam Applications	研究指導 Mマル合 Dマル合
	4	教授	高見 弘 (〈令和7年4月〉)	エネルギー機器制御工学研究 パワーエレクトロニクス特論 Electric Power Control	研究指導 Mマル合 Dマル合
	5	准教授	齋藤 真 (〈令和7年4月〉)	エネルギー機器制御工学研究 モーションコントロール特論	研究指導 M合 D合
	6	教授	長谷川 忠大 (〈令和7年4月〉)	ロボティクス・メカトロニクス研究 自律走行システム特論 Autonomous Driving System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	吉見 卓 (〈令和7年4月〉)	ロボティクス・メカトロニクス研究 ロボットタスク・システム特論 Robot Task & System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	教授	安村 禎明 (〈令和7年4月〉)	ロボティクス・メカトロニクス研究 知能システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	9	教授	安孫子 聡子 (〈令和7年4月〉)	ロボティクス・メカトロニクス研究 Space Robotics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	10	准教授	重宗 宏毅 (〈令和7年4月〉)	動的機能デバイス研究 動的機能デバイス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	11	准教授	相曾 浩平 (〈令和7年4月〉)	エネルギー機器制御工学研究 モータドライブシステム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	12	准教授	川嶋 嶺 (〈令和7年4月〉)	宇宙電気推進研究 Space Electric Propulsion	研究指導 Mマル合 Dマル合

13	准教授	齋藤 敦史 〈令和7年4月〉	生物電子工学研究 センサ工学特論 Sensor Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
14	教授	神澤 雄智 〈令和7年4月〉	通信情報分類工学研究 通信情報分類工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
15	教授	森野 博章 〈令和7年4月〉	通信網工学研究 Mobile Communication Networks	研究指導 Mマル合 Dマル合
16	教授	行田 弘一 〈令和7年4月〉	無線通信システム工学研究 無線通信ネットワーク工学特論 Wireless Communications Network	研究指導 Mマル合 Dマル合
17	教授	松田 晴英 〈令和7年4月〉	数理工学研究 離散数学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
18	教授	田中 慎一 〈令和7年4月〉	電磁波回路工学研究 高周波回路工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
19	教授	武藤 憲司 〈令和7年4月〉	音響通信情報システム研究 音響信号処理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
20	教授	堀江 亮太 〈令和7年4月〉	生体通信工学研究 生体システム工学特論 Bionic and biomimetic system engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
21	准教授	李 ひよん 〈令和7年4月〉	光計測工学研究 光ファイバセンシング特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
22	教授	大橋 裕太郎 〈令和7年4月〉	情報・メディア教育研究 情報・メディア教育研究特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
23	准教授	菅 宣理 〈令和7年4月〉	無線信号処理研究 無線信号処理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
24	教授	山口 正樹 〈令和7年4月〉	機能材料工学研究 機能材料工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

25	教授	小池 義和 〈令和7年4月〉	電子回路工学研究 電子回路工学特論 交流モータ設計特論 コンピュータ・メデイエーテッド・コミュニケーション特論 Nano Devices and Materials 実証的ソフトウェア工学特論 Nano Devices and Materials Advanced Electronic Circuit Advanced Antenna Engineering Advanced Computer Architecture Urban and Regional Development in Information Age	研究指導 Mマル合 Dマル合
26	教授	横井 秀樹 〈令和7年4月〉	光デバイス工学研究 Optical Fiber Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
27	教授	浜野 学 〈令和7年4月〉	生体計測工学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
28	教授	石川 博康 〈令和7年4月〉	半導体エレクトロニクス研究 半導体エレクトロニクス特論 Epitaxial Semiconductor Materials	研究指導 Mマル合 Dマル合
29	准教授	佐々木 昌浩 〈令和7年4月〉	電子回路工学研究 集積回路工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
30	教授	加納 慎一郎 〈令和7年4月〉	生体計測工学研究 神経工学特論 Advanced Neural Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
31	教授	プレーマチャンドラ チンタカ 〈令和7年4月〉	電子回路工学研究 先端画像処理・ロボティクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
32	准教授	當麻 浩司 〈令和7年4月〉	分子センサ工学研究 分子センシング特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
33	准教授	前田 慶博 〈令和7年4月〉	電子回路工学研究 画像センシング特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
34	教授	中野 匡規 〈令和7年4月〉	超構造量子物質エレクトロニクス研究 量子物質エレクトロニクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
35	准教授	畑 勝裕 〈令和7年4月〉	電源システム工学研究 電源システム工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
36	教授	木村 昌臣 〈令和7年4月〉	データ工学研究 データ工学特論 Topics in Data Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合

37	教授	杉本 徹 〈令和7年4月〉	知能情報工学研究 自然言語処理システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
38	教授	篠埜 功 〈令和7年4月〉	プログラミング言語研究 ソフトウェア構成特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
39	教授	石崎 聡之 〈令和7年4月〉	スポーツ情報学研究 スポーツ情報学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
40	教授	松原 良太 〈令和7年4月〉	数理工学研究 有限数学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
41	教授	福田 浩章 〈令和7年4月〉	分散システム研究 分散システム特論 Advanced OS and Virtualization	研究指導 Mマル合 Dマル合
42	教授	菅谷 みどり (島崎 みどり) 〈令和7年4月〉	基盤システム研究 基盤システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
43	教授	井尻 敬 〈令和7年4月〉	インタラクティブグラフィクス研究 画像メディア工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
44	教授	真鍋 宏幸 (真鍋 宏幸) 〈令和7年4月〉	実世界インタラクション研究 実世界インタラクション特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
45	教授	新熊 亮一 〈令和7年4月〉	社会情報ネットワークデザイン研究 Information Network Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
46	准教授	渡部 昌平 〈令和7年4月〉	量子情報工学研究 量子情報工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
47	教授	上岡 英史 〈令和7年4月〉	情報通信システム工学研究 Ubiquitous Computing System	研究指導 Mマル合 Dマル合
48	准教授	SRIPIAN PEERAYA 〈令和7年4月〉	応用知覚工学研究 Advanced Information System Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
49	准教授	Phan Xuan Tan 〈令和7年4月〉	Ubiquitous Computing System Artificial Intelligence: Applications & Safety Ubiquitous Computing System	研究指導 M合 D合

50	准教授	LAOHAKANGVAL VIT Tipporn 〈令和7年4月〉	アフェクティブ・テクノロジー研究 Data Science for Human Behavior Analysis	研究指導 Mマル合 Dマル合
51	教授	島田 明 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 メカトロニクスシステム制御特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
52	教授	山崎 憲一 (山崎 憲一) 〈令和7年4月〉	広域分散システム研究 ネットワークプログラミング特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
53	教授	佐々木 毅 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 確率・統計の推定システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
54	教授	野田 夏子 〈令和7年4月〉	知能ソフトウェア工学研究 ソフトウェア設計特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
55	教授	吉武 良治 〈令和7年4月〉	情報デザイン研究 人間中心設計特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
56	准教授	日高 杏子 (菅谷 杏子) 〈令和7年4月〉	Advanced Seminar in Advertising Design	研究指導 M合 D合
57	教授	益子 宗 〈令和7年4月〉	メディア体験デザイン研究 メディア体験デザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
58	助教	瓜生 大輔 〈令和7年4月〉	情報デザイン研究 HCIデザイン研究特論	研究指導 M合 D合
59	シニア教授	椎名 毅 〈令和7年4月〉	生体計測工学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
60	准教授	金尾 太郎 〈令和7年4月〉	量子情報基盤技術研究 量子情報基盤技術特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
61	教授	青木 洋貴 〈令和7年4月〉	認知工学研究 Advanced Cognitive Ergonomics	研究指導 Mマル合 Dマル合
62	助教	奥 貴紀 〈令和7年4月〉	身体知システム研究 ヒューマンロボティクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
63	教授	吉久保 肇子 〈令和7年4月〉	情報通信システム工学研究 Research Methodology	研究指導 Mマル合

64	准教授	小岩 健太 〈令和7年4月〉		電力システム工学研究 制御システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
65	准教授	新井 麻希 〈令和7年4月〉		無線通信方式研究 無線通信方式特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
66	准教授	深田 健太 〈令和7年4月〉		ソフトエレクトロニクス研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
67	准教授	木下 雄一郎 〈令和7年4月〉		人間情報システム研究 人間情報システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
68	助教	金丸 真奈美 〈令和7年4月〉		情報通信システム工学研究	研究指導 M合 D合

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 材料工学専攻(M)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) (就任予定年月)	担当授業科目名	備考
材料工学分野	1	教授	松村 一成 (令和7年4月)	生体材料研究 生物化学特論 Methods in Bio-inspired Nanomaterial Science	研究指導 Mマル合 Dマル合
	2	教授	野田 和彦 (令和7年4月)	材料化学研究 材料化学特論 Materials Chemistry	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	荻谷 義治 (令和7年4月)	材料物理研究 材料物理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	4	教授	正木 匡彦 (令和7年4月)	ランダム系材料研究 融体物性特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	5	教授	小西 利史 (令和7年4月)	応用光化学研究 応用光化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	6	教授	弓野 健太郎 (令和7年4月)	半導体材料研究 半導体デバイス特論 Thin Film Physics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	幡野 明彦 (令和7年4月)	生物有機材料化学研究 生体分子化学特論 Enzyme Engineering 生体分子化学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	教授	新井 剛 (令和7年4月)	資源・エネルギー材料科学研究 エネルギー工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	9	教授	湯本 敦史 (令和7年4月)	薄膜材料研究 薄膜工学特論 Biomaterials	研究指導 Mマル合 Dマル合
	10	教授	下条 雅幸 (令和7年4月)	材料科学研究 電子顕微鏡学特論 Basic Physics in Electron Microscopy	研究指導 Mマル合 Dマル合
	11	教授	石崎 貴裕 (令和7年4月)	先端材料研究 先端材料工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	12	教授	芹澤 愛 (令和7年4月)	材料設計工学研究 非鉄金属材料特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

13	准教授	渡邊 祥正 〈令和7年4月〉		観測宇宙物理学研究 電波天文学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
14	教授	遠藤 理恵 〈令和7年4月〉		機能材料特論 高機能材料研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
15	准教授	木須 一彰 〈令和7年4月〉		電気化学デバイス特論 材料電気化学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 応用化学専攻(M)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) (就任予定年月)	担当授業科目名	備考
応用化学分野	1	教授	吉見 靖男 (令和7年4月)	化学工学研究 化学工学特論 Biomedical Technology Based on Chemical Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	2	教授	濱崎 啓太 (令和7年4月)	ケミカルバイオロジー研究 Chemical Biology	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	永 直文 (令和7年4月)	高分子材料化学研究 Polymer Chemistry 高分子材料化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	4	教授	野村 幹弘 (令和7年4月)	分離システム工学研究 エネルギー工学特論 Energy and Water Treatment Based on Chemical Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	5	教授	北川 理 (令和7年4月)	反応有機化学研究 反応有機化学特論 Organic Stereochemistry	研究指導 Mマル合 Dマル合
	6	教授	木戸脇 匡俊 (令和7年4月)	有機材料化学研究 環境分析化学特論 有機材料化学特論 高分子構造化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	田嶋 稔樹 (令和7年4月)	有機電気化学研究 有機電気化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	教授	清野 肇 (令和7年4月)	-	研究指導 Mマル合 Dマル合
	9	教授	堀 顕子 (武山 顕子) (令和7年4月)	分子集合学研究 分子集合学特論 Self-Assembles for Crystal Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	10	教授	大口 裕之 (令和7年4月)	エネルギー材料創成化学研究 エネルギー材料創成化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	11	准教授	GARY JAMES RICHARDS (令和7年4月)	-	研究指導 Mマル合 Dマル合

12	准教授	李 沁潼 〈令和7年4月〉		生態工学研究 環境生態工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
13	教授	土持 崇嗣 〈令和7年4月〉		計算物理化学研究 計算物理化学特論 Computational Physical Chemistry	研究指導 Mマル合 Dマル合
14	准教授	Ahmed Kumkum 〈令和7年4月〉		-	研究指導 M合 D合
15	准教授	Aaryashree 〈令和7年4月〉		分離システム工学研究	研究指導 M合 D合
16	准教授	瀬川 尋貴 〈令和7年4月〉		分析化学研究 分析化学特論 Applied Analytical Chemistry	研究指導 Mマル合 Dマル合
17	准教授	李 素潤 〈令和7年4月〉		多機能材料デザイン研究 Biomaterials	研究指導 Mマル合 Dマル合

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 機械工学専攻(M)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) (<small>就任予定年月</small>)	担当授業科目名	備考
機械工学分野	1	教授	角田 和巳 (<small>令和7年4月</small>)	熱流体工学研究 連続体力学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	2	教授	矢作 裕司 (<small>令和7年4月</small>)	エネルギー環境工学研究 燃焼工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	内村 裕 (<small>令和7年4月</small>)	ロボット制御工学研究 機械制御工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	4	教授	佐伯 暢人 (<small>令和7年4月</small>)	粒状体力学研究 連続体力学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	5	教授	坂上 賢一 (<small>令和7年4月</small>)	固体力学研究 固体力学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	6	教授	丹下 学 (<small>令和7年4月</small>)	マイクロ熱流体工学研究 Experimental Thermo-fluid Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	二井 信行 (<small>令和7年4月</small>)	生物微小流体工学研究 細胞デバイス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	教授	澤 武一 (<small>令和7年4月</small>)	機械加工学研究 機械加工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	9	教授	松尾 繁樹 (<small>令和7年4月</small>)	レーザー応用工学研究 レーザー工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	10	教授	白井 克明 (<small>令和7年4月</small>)	熱流体理工学研究 Advanced Thermal Fluid Measurement Science and Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	11	准教授	河田 卓也 (<small>令和7年4月</small>)	熱流体工学研究 乱流工学の基礎	研究指導 M合 D合
	12	教授	廣瀬 敏也 (<small>令和7年4月</small>)	ヒューマンマシンインタフェース研究 Human-Machine System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	13	教授	青木 孝史朗 (<small>令和7年4月</small>)	材料加工学研究 材料加工論	研究指導 Mマル合 Dマル合

14	教授	小野 直樹 〈令和7年4月〉	熱物質移動工学研究 Microscale Machines and Mechanics Microscale Fluid Mechanics	研究指導 Mマル合 Dマル合
15	教授	細矢 直基 〈令和7年4月〉	機械動力学研究 Advanced Structural Dynamics	研究指導 Mマル合 Dマル合
16	教授	斎藤 寛泰 〈令和7年4月〉	燃焼工学研究 熱機関工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
17	教授	山本 創太 〈令和7年4月〉	生体機能工学研究 Biomechanics & Injury Prevention	研究指導 Mマル合 Dマル合
18	准教授	中村 真吾 〈令和7年4月〉	知能情報処理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
19	教授	長澤 純人 〈令和7年4月〉	マイクロロボティクス研究 Microscale Machines and Mechanics	研究指導 Mマル合 Dマル合
20	教授	富田 裕介 (若槻 裕介) 〈令和7年4月〉	計算統計物理研究 統計物理学と数値計算	研究指導 Mマル合 Dマル合
21	教授	橋村 真治 〈令和7年4月〉	強度設計学研究 風環境シミュレーション特論 Advanced Materials Science Advanced Applications of Fluid Engineering Mechanical Joining Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
22	教授	吉原 正一郎 〈令和7年4月〉	機能材料工学研究 機能材料工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
23	准教授	吉田 慎哉 〈令和7年4月〉	微小システム集積学研究 Microscale Machines and Mechanics	研究指導 Mマル合 Dマル合
24	准教授	新谷 真由 〈令和7年4月〉	言語認知科学研究 言語認知科学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
25	准教授	亀尾 佳貴 〈令和7年4月〉	バイオメカニクス研究 バイオメカニクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
26	教授	Rajagopalan Umamaheswari 〈令和7年4月〉	光エネルギー工学研究 Optical Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合

27	教授	君島 真仁 〈令和7年4月〉	熱プロセス工学研究 Energy Conversion Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
28	教授	伊藤 和寿 〈令和7年4月〉	動的システム制御理論研究 Adaptive and Optimal Control	研究指導 Mマル合 Dマル合
29	教授	橋田 規子 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 エモーショナルデザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
30	教授	櫻木 新 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 クリティカルシンキング特論	研究指導 M合 D合
31	教授	梁 元碩 〈令和7年4月〉	インタフェースデザイン特論 プロダクトデザイン研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
32	教授	蘆澤 雄亮 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 プロモーションデザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
33	教授	田邊 匡生 〈令和7年4月〉	光学デザイン研究 光学デザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
34	教授	早房 敬祐 〈令和7年4月〉	モデルベースデザイン研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
35	准教授	繁里 光宏 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 デザインプロセス特論	研究指導 M合
36	教授	平尾 章成 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 エルゴノミクスデザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
37	准教授	桑原 彬 〈令和7年4月〉	熱物質移動工学研究 プラズマ工学	研究指導 M合 D合
38	准教授	中島 瑞季 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 感性デザイン機能特論 感性デザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻(M)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) 〈就任予定年月〉	担当授業科目名	備考
システム理工学分野	1	准教授	櫻井 みぎ和 (加藤 みぎ和) 〈令和7年4月〉	応用数理研究	研究指導 M合 D合
	2	教授	前田 健吾 〈令和7年4月〉	一般相対論・宇宙物理学研究 相対性理論特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	本田 まり (眞鍋 まり) 〈令和7年4月〉	経済システム論研究	研究指導 M合
	4	教授	村上 嘉代子 〈令和7年4月〉	コミュニティ情報システム研究 システム工学特別演習 実践研究論文特論 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト クロスイノベーションプロジェクト	研究指導 Mマル合 Dマル合
	5	准教授	BUI NGOC TAM 〈令和7年4月〉	システムデザイン研究	研究指導 M合 D合
	6	教授	奥田 宏志 〈令和7年4月〉	科学技術教育研究 科学技術教育特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	山本 紳一郎 〈令和7年4月〉	福祉支援システム研究 システム工学特別演習 Neurophysiology and Rehabilitation Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	教授	福井 浩二 〈令和7年4月〉	分子細胞生物学研究 分子細胞生物学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	9	教授	越阪部 奈緒美 〈令和7年4月〉	食品科学研究 機能性食品学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	10	教授	渡邊 宣夫 〈令和7年4月〉	生体制御システム研究 Advanced Biofluid Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	11	教授	須原 義智 〈令和7年4月〉	生命創薬科学研究 生命創薬科学特論 医薬品合成化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	12	教授	赤木 亮太 〈令和7年4月〉	福祉支援システム研究 生体機械学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

13	教授	吉村 建二郎 〈令和7年4月〉	生物物理学研究 細胞生理学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
14	准教授	廣田 佳久 〈令和7年4月〉	生命創薬科学研究 生化学特論 薬理学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
15	准教授	中村 奈緒子 〈令和7年4月〉	生体制御システム研究 生体材料科学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
16	教授	佐藤 大樹 〈令和7年4月〉	脳機能計測システム研究 システム工学特別演習 脳機能計測システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
17	准教授	アズハム ズルカルナイン (AZHAM BIN ZULKHARNAIN) 〈令和7年4月〉	環境生命科学研究 環境生命科学特論 Advanced Microbiology	研究指導 Mマル合 Dマル合
18	准教授	高木 基樹 〈令和7年4月〉	福祉支援システム研究 Life Support Robot	研究指導 Mマル合 Dマル合
19	教授	矢嶋 伊知朗 〈令和7年4月〉	健康影響科学研究 健康影響科学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
20	教授	川島 洋人 〈令和7年4月〉	環境科学特論 環境生命科学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
21	准教授	高山 祐三 〈令和7年4月〉	神経工学特論 生体制御システム研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
22	教授	田中 直彦 〈令和7年4月〉	医用超音波工学研究 医用超音波工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
23	教授	高橋 正信 〈令和7年4月〉	ビジュアル情報処理システム研究 画像応用システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
24	教授	陳 新開 〈令和7年4月〉	制御システム研究 Control Systems Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合

25	教授	鈴木 徹也 〈令和7年4月〉	ビジュアル情報処理システム研究 制約プログラミング特論	研究指導 M合 D合
26	教授	吉田 健二 (吉田 賢二) 〈令和7年4月〉	宇宙観測システム研究 宇宙観測システム特論I	研究指導 Mマル合 Dマル合
27	教授	久保田 あや (三谷 あや) 〈令和7年4月〉	宇宙観測システム研究 宇宙観測システム特論II	研究指導 Mマル合 Dマル合
28	シニア教授	間野 一則 〈令和7年4月〉	情報通信デザイン研究 システム工学特別演習 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト クロスイノベーションプロジェクト Speech Processing	研究指導 Mマル合 Dマル合
29	准教授	井岡 恵理 (水上 恵理) 〈令和7年4月〉	非線形システム研究 非線形現象特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
30	准教授	山崎 託 〈令和7年4月〉	情報ネットワーク工学研究 分散ネットワークシステム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
31	教授	久住 憲嗣 〈令和7年4月〉	ソフトウェア工学研究 ソフトウェア工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
32	准教授	後藤 裕介 〈令和7年4月〉	社会シミュレーション研究 システム工学特別演習 データ・シミュレーションプロジェクト 社会システム科学特論 社会システム科学特別演習	研究指導 Mマル合 Dマル合
33	准教授	保坂 亮介 〈令和7年4月〉	神経情報システム研究 神経情報システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
34	助教	原田 拓弥 〈令和7年4月〉	社会システム科学技術特論 社会シミュレーション研究	研究指導 M合 D合
35	教授	高嶋 和毅 〈令和7年4月〉	インタラクティブメディア研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
36	教授	川上 幸男 〈令和7年4月〉	流体制御システム研究 流体制御システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

37	教授	長谷川 浩志 〈令和7年4月〉	システムデザイン研究 システム工学特論 システム工学特別演習 創造的工学設計論 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト クロスイノベーションプロジェクト Engineering Optimization	研究指導 Mマル合 Dマル合
38	教授	足立 吉隆 〈令和7年4月〉	先端メカトロニクス研究 先端メカトロニクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
39	教授	武藤 正義 〈令和7年4月〉	社会数理システム研究 社会数理システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
40	教授	木村 元 〈令和7年4月〉	量子情報システム研究 量子情報科学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
41	教授	渡邊 大 〈令和7年4月〉	システムデザイン研究 連続体力学特論 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト	研究指導 Mマル合 Dマル合
42	教授	田中 みなみ 〈令和7年4月〉	システムデザイン研究 工業デザイン特論 Advanced Design Survey	研究指導 M合 D合
43	教授	飯塚 浩二郎 〈令和7年4月〉	ロボティクスシステム研究 宇宙探査ロボティクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
44	教授	矢田部 清美 〈令和7年4月〉	認知システム研究 Seminar in Cognitive Science	研究指導 Mマル合 Dマル合
45	助教	桑原 央明 〈令和7年4月〉	流体制御システム研究 知能化メカトロニクス特論	研究指導 M合 D合
46	教授	小山 友介 〈令和7年4月〉	経済システム論研究 経済システム論特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
47	教授	中村 仁 〈令和7年4月〉	防災空間計画研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
48	教授	磐田 朋子 (玄地 朋子) 〈令和7年4月〉	環境システム研究 システム工学特別演習 環境システム解析特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

49	教授	袖野 玲子 (蟹江 玲子) (令和7年4月)	環境政策研究 環境政策特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
50	教授	市川 学 (令和7年4月)	社会システム科学研究 システム工学特別演習 データ・シミュレーションプロジェクト 社会システム科学特論 社会システム科学特別演習 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト クロスイノベーションプロジェクト	研究指導 Mマル合 Dマル合
51	准教授	持永 大 (令和7年4月)	社会情報ネットワーク研究 システム工学特別演習	研究指導 Mマル合 Dマル合
52	教授	TAREK KATRAMIZ (令和7年4月)	サステナビリティガバナンス研究 Governing Sustainable Development	研究指導 Mマル合 Dマル合
53	教授	井戸川 知之 (令和7年4月)	応用数理研究 関数解析特論	研究指導 M合 D合
54	教授	鈴木 達夫 (令和7年4月)	数理物理研究 微分幾何学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
55	教授	石渡 哲哉 (令和7年4月)	数理解析研究 数理解析特論A 数理解析特論B	研究指導 Mマル合 Dマル合
56	教授	榎本 裕子 (令和7年4月)	非線形解析研究 解析学特論	研究指導 M合 D合
57	教授	尾崎 克久 (令和7年4月)	応用数理研究 システム工学特別演習 情報数学特論A 情報数学特論B	研究指導 Mマル合 Dマル合
58	教授	サイキセイ (令和7年4月)	数理制御研究 Advanced Robust Control Advanced Digital Control	研究指導 Mマル合 Dマル合
59	教授	亀子 正喜 (令和7年4月)	応用数理研究 Cohomology of Classifying Spaces Linear Representations of Finite Groups	研究指導 Mマル合 Dマル合

60	教授	竹内 慎吾 〈令和7年4月〉	非線形解析研究 非線形解析特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
61	教授	福田 亜希子 (相原 亜希子) 〈令和7年4月〉	応用数理研究 応用線形代数特論A 応用線形代数特論B	研究指導 Mマル合 Dマル合
62	准教授	清水 健一 〈令和7年4月〉	応用数理研究 応用代数学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
63	准教授	中津 智則 〈令和7年4月〉	数理物理研究 確率解析特論	研究指導 M合 D合
64	助教	田森 宥好 〈令和7年4月〉	応用数理研究	研究指導 M合 D合
65	教授	山澤 浩司 〈令和7年4月〉	複素偏微分方程式研究 偏微分方程式特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
66	准教授	廣瀬 三平 〈令和7年4月〉	解析学研究 偏微分方程式特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
67	教授	榊原 暢久 〈令和7年4月〉	高等教育開発研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
68	准教授	大谷 拓也 〈令和7年4月〉	人間・ロボティクス研究 人間・ロボティクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 社会基盤学専攻(M)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) (就任予定年月)	担当授業科目名	備考
社会基盤学分野	1	教授	紺野 克昭 (令和7年4月)	土木構造研究 Lectures on Civil Engineering 地盤振動工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	2	教授	勝木 太 (令和7年4月)	コンクリート構造研究 コンクリート工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	岩倉 成志 (令和7年4月)	土木計画研究 Lectures on Civil Engineering 交通計画特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	4	教授	穴見 健吾 (令和7年4月)	土木構造研究 Lectures on Civil Engineering 鋼構造物の耐久性設計特論 Durability Design for Steel Structures	研究指導 Mマル合 Dマル合
	5	教授	中川 雅史 (令和7年4月)	空間情報工学研究 Lectures on Civil Engineering 空間情報構築特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	6	教授	並河 努 (令和7年4月)	地盤基礎工学研究 Lectures on Civil Engineering 地盤耐震工学特論 Geotechnical Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	谷田川 ルミ (令和7年4月)	学校教育社会学特論 持続性社会基盤研究 学校教育社会学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	教授	宮本 仁志 (令和7年4月)	水工学研究 Lectures on Civil Engineering 水圏環境特論 Environmental Hydraulics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	9	教授	稲積 真哉 (令和7年4月)	地盤基礎工学研究 Lectures on Civil Engineering 環境地盤工学特論 社会基盤学グローバル演習 Environmental Geotechnics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	10	教授	平林 由希子 (由希子) (令和7年4月)	水工学研究 Lectures on Civil Engineering 水文・水資源学特論 Hydrology and Water Resources	研究指導 Mマル合 Dマル合
	11	准教授	楽 奕平 (令和7年4月)	土木計画研究 Lectures on Civil Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	12	教授	HENRY Michael War (令和7年4月)	社会基盤マネジメント研究 Lectures on Civil Engineering Principles of Sustainable Development for Engineers	研究指導 Mマル合 Dマル合
	13	教授	伊代田 岳史 (令和7年4月)	建設複合材料研究 Lectures on Civil Engineering コンクリート材料科学特論 Science of Concrete Material	研究指導 Mマル合 Dマル合
	14	准教授	田中 由乃 (令和7年4月)	都市景観研究	研究指導 Mマル合 Dマル合

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 建築学専攻(M)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) (就任予定年月)	担当授業科目名	備考
建築学分野	1	シニア教授	作山 康 (令和7年4月)	※都市計画研究 市街地整備計画特論 都市計画総論 建築学総論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	2	教授	澤田 英行 (令和7年4月)	※建築設計情報研究 建築設計情報特論 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	増田 幸宏 (令和7年4月)	Urban Environmental System Planning 都市環境工学研究 建築学総論 Urban Environmental System Planning	研究指導 Mマル合 Dマル合
	4	教授	松下 希和 (八束 希和) (令和7年4月)	※空間デザイン研究 gPBL in Europe Architectural Planning and Project Design 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
	5	教授	石川 裕次 (令和7年4月)	建築構造システム研究 建築構造システム特論 建築学総論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
	6	教授	鈴木 俊治 (令和7年4月)	※都市デザイン研究 建築・地域プロジェクト演習 環境設計特論 gPBL in Europe Placemaking Seminar	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	山寄 一也 (令和7年4月)	※建築設計情報研究 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	教授	片岡 誠 (令和7年4月)	※生産システム研究 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合

9	教授	桑田 仁 〈令和7年4月〉	※都市計画研究 都市計画総論 空間計画特論 建築学演習・都市地域デザイン Exchange program with Hanyang University (a) Exchange program with Hanyang University (b) Urban and Community Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
10	教授	村上 公哉 〈令和7年4月〉	都市環境工学研究 環境設計演習3 Engineering for architecture 環境工学特論4	研究指導 Mマル合 Dマル合
11	教授	隈澤 文俊 〈令和7年4月〉	建築構造研究 構造振動学特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
12	教授	志村 秀明 〈令和7年4月〉	※都市計画研究 まちづくり特論 都市計画総論 インターンシップ1 インターンシップ2 インターンシップ3 インターンシップ4 建築学総論 建築学演習・都市地域デザイン Urban and Community Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
13	教授	蟹澤 宏剛 〈令和7年4月〉	※生産システム研究 建築生産特論2 建築生産マネジメント特論1 建築生産マネジメント特論2 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
14	教授	岸田 慎司 〈令和7年4月〉	建築地震防災研究 鉄筋コンクリート構造特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
15	教授	椋山 健二 〈令和7年4月〉	建築構造研究 建築構造解析特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
16	教授	秋元 孝之 〈令和7年4月〉	建築環境工学研究 環境設計演習3 建築学総論 Engineering for architecture 環境工学特論3	研究指導 Mマル合 Dマル合
17	教授	栗島 英明 〈令和7年4月〉	環境工学特論5 都市環境工学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合

18	教授	郷田 修身 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 建築設計特論1 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B	研究指導 Mマル合 Dマル合
19	教授	原田 真宏 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 建築設計特論1 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
20	教授	清水 郁郎 〈令和7年4月〉	※住環境計画研究 住環境計画特論 Housing and Environmental Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
21	教授	谷口 大造 〈令和7年4月〉	※空間デザイン研究 空間デザイン特論 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
22	教授	前田 英寿 〈令和7年4月〉	※都市デザイン研究 空間計画特論 建築学演習・都市地域デザイン Urban and Community Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
23	教授	小澤 雄樹 〈令和7年4月〉	建築構造計画研究 建築空間構造特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
24	教授	西沢 大良 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 近代都市設計特論 建築学総論 Architectural Environment Planning Exchange program with MARHI (a) Exchange program with MARHI (b) 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
25	教授	佐藤 宏亮 〈令和7年4月〉	※都市計画研究 まちづくり特論 都市計画総論 建築学総論 建築学演習・都市地域デザイン	研究指導 Mマル合 Dマル合
26	教授	志手 一哉 〈令和7年4月〉	※生産システム研究 建築生産特論1 建築学総論 建築生産マネジメント特論1 Engineering for architecture 建築生産マネジメント特論2	研究指導 Mマル合 Dマル合

27	教授	濱崎 仁 〈令和7年4月〉	材料施工研究 材料施工特論 建築学総論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
28	准教授	岡野 道子 (長曾我部 道子) 〈令和7年4月〉	※プロジェクトデザイン研究 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B 復興デザイン学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
29	教授	山代 悟 〈令和7年4月〉	※プロジェクトデザイン研究 Architectural Planning and Project Design 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
30	教授	古賀 純子 〈令和7年4月〉	材料施工研究 建築材料特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
31	助教	對馬 聖菜 〈令和7年4月〉	建築環境工学研究 環境設計演習3 環境工学特論2	研究指導 M合 D合
32	准教授	浅田 勇人 (龍崎 勇人) 〈令和7年4月〉	建築鋼構造特論 建築鋼構造研究 建築学総論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
33	教授	猪熊 純 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 空間デザイン特論 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
34	准教授	岡崎 瑠美 〈令和7年4月〉	建築・都市デザイン史特論 History of architecture and urban design Exchange program with ENSAPB (a) Exchange program with ENSAPB (b) ※建築史研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
35	教授	小埜 芳秀 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 近代都市設計特論 建築学総論 Architectural Environment Planning 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合

36	准教授	小柏 典華 〈令和7年4月〉	※建築史研究 建築・都市デザイン史特論 建築学総論 History of architecture and urban design	研究指導 Mマル合 Dマル合
37	教授	小菅 瑠香 〈令和7年4月〉	※建築計画研究 建築計画特論 建築学総論 Architectural planning and design	研究指導 Mマル合 Dマル合
38	准教授	水谷 晃啓 〈令和7年4月〉	※建築設計情報研究 建築・地域プロジェクト演習 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 地域環境システム工学専攻(D)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) 〈就任予定年月〉	担当授業科目名	備考
電気電子分子分野 材料工学分野	1	教授	西川 宏之 〈令和7年4月〉	エネルギー物性研究 量子ビーム応用特論 Advanced Quantum-Beam Applications	研究指導 Mマル合 Dマル合
	2	教授	松村 一成 〈令和7年4月〉	生体材料研究 生物化学特論 Methods in Bio-inspired Nanomaterial Science	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	野田 和彦 〈令和7年4月〉	材料化学研究 材料化学特論 Materials Chemistry	研究指導 Mマル合 Dマル合
	4	教授	苅谷 義治 〈令和7年4月〉	材料物理研究 材料物理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	5	教授	小西 利史 〈令和7年4月〉	応用光化学研究 応用光化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	6	教授	幡野 明彦 〈令和7年4月〉	生物有機材料化学研究 生体分子化学特論 Enzyme Engineering 生体分子化学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	新井 剛 〈令和7年4月〉	資源・エネルギー材料科学研究 エネルギー工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	准教授	渡邊 祥正 〈令和7年4月〉	観測宇宙物理学研究 電波天文学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	9	教授	遠藤 理恵 〈令和7年4月〉	機能材料特論 高機能材料研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
	10	准教授	木須 一彰 〈令和7年4月〉	電気化学デバイス特論 材料電気化学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合

応用化学分野	11	教授	吉見 靖男 〈令和7年4月〉	化学工学研究 化学工学特論 Biomedical Technology Based on Chemical Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	12	教授	濱崎 啓太 〈令和7年4月〉	ケミカルバイオロジー研究 Chemical Biology	研究指導 Mマル合 Dマル合
	13	教授	永 直文 〈令和7年4月〉	高分子材料化学研究 Polymer Chemistry 高分子材料化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	14	教授	野村 幹弘 〈令和7年4月〉	分離システム工学研究 エネルギー工学特論 Energy and Water Treatment Based on Chemical Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	15	教授	北川 理 〈令和7年4月〉	反応有機化学研究 反応有機化学特論 Organic Stereochemistry	研究指導 Mマル合 Dマル合
	16	教授	木戸脇 匡俊 〈令和7年4月〉	有機材料化学研究 環境分析化学特論 有機材料化学特論 高分子構造化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	17	教授	田嶋 稔樹 〈令和7年4月〉	有機電気化学研究 有機電気化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	18	教授	清野 肇 〈令和7年4月〉	-	研究指導 Mマル合 Dマル合
	19	教授	堀 顕子 (武山 顕子) 〈令和7年4月〉	分子集合学研究 分子集合学特論 Self-Assembles for Crystal Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	20	教授	大口 裕之 〈令和7年4月〉	エネルギー材料創成化学研究 エネルギー材料創成化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	21	准教授	GARY JAMES RICHARDS 〈令和7年4月〉	-	研究指導 Mマル合 Dマル合
	22	准教授	李 沁潼 〈令和7年4月〉	生態工学研究 環境生態工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	23	教授	土持 崇嗣 〈令和7年4月〉	計算物理化学研究 計算物理化学特論 Computational Physical Chemistry	研究指導 Mマル合 Dマル合
	24	准教授	瀬川 尋貴 〈令和7年4月〉	分析化学研究 分析化学特論 Applied Analytical Chemistry	研究指導 Mマル合 Dマル合
	25	准教授	李 素潤 〈令和7年4月〉	多機能材料デザイン研究 Biomaterials	研究指導 Mマル合 Dマル合
26	准教授	Ahmed Kumkum 〈令和7年4月〉	-	研究指導 M合 D合	
27	准教授	Aaryashree 〈令和7年4月〉	分離システム工学研究	研究指導 M合 D合	

機械工学分野	28	教授	角田 和巳 〈令和7年4月〉	熱流体工学研究 連続体力学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	29	教授	矢作 裕司 〈令和7年4月〉	エネルギー環境工学研究 燃焼工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	30	教授	坂上 賢一 〈令和7年4月〉	固体力学研究 固体力学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	31	教授	丹下 学 〈令和7年4月〉	マイクロ熱流体工学研究 Experimental Thermo-fluid Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	32	教授	白井 克明 〈令和7年4月〉	熱流体工学研究 Advanced Thermal Fluid Measurement Science and Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	33	准教授	河田 卓也 〈令和7年4月〉	熱流体工学研究 乱流工学の基礎	研究指導 M合 D合
	34	教授	小野 直樹 〈令和7年4月〉	熱物質移動工学研究 Microscale Machines and Mechanics Microscale Fluid Mechanics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	35	教授	細矢 直基 〈令和7年4月〉	機械動力学研究 Advanced Structural Dynamics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	36	教授	斎藤 寛泰 〈令和7年4月〉	燃焼工学研究 熱機関工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	37	准教授	中村 真吾 〈令和7年4月〉	知能情報処理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	38	教授	橋村 真治 〈令和7年4月〉	強度設計学研究 風環境シミュレーション特論 Advanced Materials Science Advanced Applications of Fluid Engineering Mechanical Joining Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	39	教授	Rajagopalan Umamaheswari 〈令和7年4月〉	光エネルギー工学研究 Optical Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	40	教授	君島 真仁 〈令和7年4月〉	熱プロセス工学研究 Energy Conversion Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	システム理工学分野	41	教授	中村 仁 〈令和7年4月〉	防災空間計画研究
42		教授	磐田 朋子 (玄地 朋子) 〈令和7年4月〉	環境システム研究 システム工学特別演習 環境システム解析特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
43		教授	袖野 玲子 (蟹江 玲子) 〈令和7年4月〉	環境政策研究 環境政策特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
44		教授	TAREK KATRAMIZ 〈令和7年4月〉	サステナビリティガバナンス研究 Governing Sustainable Development	研究指導 Mマル合 Dマル合

社会基盤学分野	45	教授	紺野 克昭 〈令和7年4月〉	土木構造研究 Lectures on Civil Engineering 地盤振動工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	46	教授	勝木 太 〈令和7年4月〉	コンクリート構造研究 コンクリート工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	47	教授	岩倉 成志 〈令和7年4月〉	土木計画研究 Lectures on Civil Engineering 交通計画特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	48	教授	穴見 健吾 〈令和7年4月〉	土木構造研究 Lectures on Civil Engineering 鋼構造物の耐久性設計特論 Durability Design for Steel Structures	研究指導 Mマル合 Dマル合
	49	教授	中川 雅史 〈令和7年4月〉	空間情報工学研究 Lectures on Civil Engineering 空間情報構築特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	50	教授	並河 努 〈令和7年4月〉	地盤基礎工学研究 Lectures on Civil Engineering 地盤耐震工学特論 Geotechnical Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	51	教授	谷田川 ルミ 〈令和7年4月〉	学校教育社会学特論 持続性社会基盤研究 学校教育社会学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	52	教授	宮本 仁志 〈令和7年4月〉	水工学研究 Lectures on Civil Engineering 水圏環境特論 Environmental Hydraulics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	53	教授	稲積 真哉 〈令和7年4月〉	地盤基礎工学研究 Lectures on Civil Engineering 環境地盤工学特論 社会基盤学グローバル演習 Environmental Geotechnics	研究指導 Mマル合 Dマル合
		教授	平林 由希子 (鼎 由希子) 〈令和7年4月〉	水工学研究 Lectures on Civil Engineering 水文・水資源学特論 Hydrology and Water Resources	研究指導 Mマル合 Dマル合
	54				
	55	准教授	楽 奕平 〈令和7年4月〉	土木計画研究 Lectures on Civil Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	56	教授	HENRY Michael War 〈令和7年4月〉	社会基盤マネジメント研究 Lectures on Civil Engineering Principles of Sustainable Development for Engineers	研究指導 Mマル合 Dマル合
57	教授	伊代田 岳史 〈令和7年4月〉	建設複合材料研究 Lectures on Civil Engineering コンクリート材料科学特論 Science of Concrete Material	研究指導 Mマル合 Dマル合	

	58	准教授	田中 由乃 〈令和7年4月〉		都市景観研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
--	----	-----	-------------------	--	--------	----------------------

建築学分野	59	シニア教授	作山 康 〈令和7年4月〉	※都市計画研究 市街地整備計画特論 都市計画総論 建築学総論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	60	教授	澤田 英行 〈令和7年4月〉	※建築設計情報研究 建築設計情報特論 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
		教授	増田 幸宏 〈令和7年4月〉	Urban Environmental System Planning 都市環境工学研究 建築学総論 Urban Environmental System Planning	研究指導 Mマル合 Dマル合
	61	教授	松下 希和	※空間デザイン研究 gPBL in Europe Architectural Planning and Project Design 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
	62		(八束 希和) 〈令和7年4月〉		
	63	教授	石川 裕次 〈令和7年4月〉	建築構造システム研究 建築構造システム特論 建築学総論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
	64	教授	鈴木 俊治 〈令和7年4月〉	※都市デザイン研究 建築・地域プロジェクト演習 環境設計特論 gPBL in Europe Placemaking Seminar	研究指導 Mマル合 Dマル合
	65	教授	山寄 一也 〈令和7年4月〉	※建築設計情報研究 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B	研究指導 Mマル合 Dマル合
	66	教授	片岡 誠 〈令和7年4月〉	※生産システム研究 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
	67	教授	桑田 仁 〈令和7年4月〉	※都市計画研究 都市計画総論 空間計画特論 建築学演習・都市地域デザイン Exchange program with Hanyang University (a) Exchange program with Hanyang University (b) Urban and Community Design	研究指導 Mマル合 Dマル合

68	教授	村上 公哉 〈令和7年4月〉	都市環境工学研究 環境設計演習3 Engineering for architecture 環境工学特論4	研究指導 Mマル合 Dマル合
69	教授	隈澤 文俊 〈令和7年4月〉	建築構造研究 構造振動学特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
70	教授	志村 秀明 〈令和7年4月〉	※都市計画研究 まちづくり特論 都市計画総論 インターンシップ1 インターンシップ2 インターンシップ3 インターンシップ4 建築学総論 建築学演習・都市地域デザイン Urban and Community Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
71	教授	蟹澤 宏剛 〈令和7年4月〉	※生産システム研究 建築生産特論2 建築生産マネジメント特論1 建築生産マネジメント特論2 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
72	教授	岸田 慎司 〈令和7年4月〉	建築地震防災研究 鉄筋コンクリート構造特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
73	教授	栴山 健二 〈令和7年4月〉	建築構造研究 建築構造解析特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
74	教授	秋元 孝之 〈令和7年4月〉	建築環境工学研究 環境設計演習3 建築学総論 Engineering for architecture 環境工学特論3	研究指導 Mマル合 Dマル合
75	教授	栗島 英明 〈令和7年4月〉	環境工学特論5 都市環境工学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
76	教授	郷田 修身 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 建築設計特論1 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B	研究指導 Mマル合 Dマル合

77	教授	原田 真宏 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 建築設計特論1 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
78	教授	清水 郁郎 〈令和7年4月〉	※住環境計画研究 住環境計画特論 Housing and Environmental Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
79	教授	谷口 大造 〈令和7年4月〉	※空間デザイン研究 空間デザイン特論 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
80	教授	前田 英寿 〈令和7年4月〉	※都市デザイン研究 空間計画特論 建築学演習・都市地域デザイン Urban and Community Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
81	教授	小澤 雄樹 〈令和7年4月〉	建築構造計画研究 建築空間構造特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
82	教授	西沢 大良 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 近代都市設計特論 建築学総論 Architectural Environment Planning Exchange program with MARHI (a) Exchange program with MARHI (b) 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
83	教授	佐藤 宏亮 〈令和7年4月〉	※都市計画研究 まちづくり特論 都市計画総論 建築学総論 建築学演習・都市地域デザイン	研究指導 Mマル合 Dマル合
84	教授	志手 一哉 〈令和7年4月〉	※生産システム研究 建築生産特論1 建築学総論 建築生産マネジメント特論1 Engineering for architecture 建築生産マネジメント特論2	研究指導 Mマル合 Dマル合
85	教授	濱崎 仁 〈令和7年4月〉	材料施工研究 材料施工特論 建築学総論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
86	准教授	岡野 道子 (長曾我部 道子) 〈令和7年4月〉	※プロジェクトデザイン研究 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B 復興デザイン学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

87	教授	山代 悟 〈令和7年4月〉	※プロジェクトデザイン研究 Architectural Planning and Project Design 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
88	教授	古賀 純子 〈令和7年4月〉	材料施工研究 建築材料特論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
	助教	對馬 聖菜 〈令和7年4月〉	建築環境工学研究 環境設計演習3 環境工学特論2	研究指導 M合 D合
89	准教授	浅田 勇人 (龍崎 勇人) 〈令和7年4月〉	建築鋼構造特論 建築鋼構造研究 建築学総論 Engineering for architecture	研究指導 Mマル合 Dマル合
90				
91	教授	猪熊 純 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 空間デザイン特論 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
92	准教授	岡崎 瑠美 〈令和7年4月〉	建築・都市デザイン史特論 History of architecture and urban design Exchange program with ENSAPB (a) Exchange program with ENSAPB (b) ※建築史研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
93	教授	小埜 芳秀 〈令和7年4月〉	※建築設計研究 近代都市設計特論 建築学総論 Architectural Environment Planning 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合
94	准教授	小柏 典華 〈令和7年4月〉	※建築史研究 建築・都市デザイン史特論 建築学総論 History of architecture and urban design	研究指導 Mマル合 Dマル合
95	教授	小菅 瑠香 〈令和7年4月〉	※建築計画研究 建築計画特論 建築学総論 Architectural planning and design	研究指導 Mマル合 Dマル合
96	准教授	水谷 晃啓 〈令和7年4月〉	※建築設計情報研究 建築・地域プロジェクト演習 建築学演習・デザイン1A 建築学演習・デザイン1B 建築学演習・デザイン2A 建築学演習・デザイン2B	研究指導 Mマル合 Dマル合

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 機械制御システム工学専攻(D)

研究領域	調書番号	職名	氏名(年齢) 〈就任予定年月〉	担当授業科目名	備考
電気電子情報工学分野	1	教授	藤田 吾郎 〈令和7年4月〉	電力システム工学研究 Advanced Power System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	2	教授	安藤 吉伸 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 メカトロニクス特論 Autonomous Mobile Robot System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	3	教授	高見 弘 〈令和7年4月〉	エネルギー機器制御工学研究 パワーエレクトロニクス特論 Electric Power Control	研究指導 Mマル合 Dマル合
	4	准教授	齋藤 真 〈令和7年4月〉	エネルギー機器制御工学研究 モーションコントロール特論	研究指導 M合 D合
	5	教授	長谷川 忠大 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 自律走行システム特論 Autonomous Driving System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	6	教授	吉見 卓 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 ロボットタスク・システム特論 Robot Task & System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	7	教授	安村 禎明 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 知能システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	8	教授	安孫子 聡子 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 Space Robotics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	9	准教授	重宗 宏毅 〈令和7年4月〉	動的機能デバイス研究 動的機能デバイス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	10	准教授	相曾 浩平 〈令和7年4月〉	エネルギー機器制御工学研究 モータドライブシステム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	11	准教授	川嶋 嶺 〈令和7年4月〉	宇宙電気推進研究 Space Electric Propulsion	研究指導 Mマル合 Dマル合
	12	准教授	齋藤 敦史 〈令和7年4月〉	生物電子工学研究 センサ工学特論 Sensor Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	13	教授	神澤 雄智 〈令和7年4月〉	通信情報分類工学研究 通信情報分類工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	14	教授	森野 博章 〈令和7年4月〉	通信網工学研究 Mobile Communication Networks	研究指導 Mマル合 Dマル合
	15	教授	行田 弘一 〈令和7年4月〉	無線通信システム工学研究 無線通信ネットワーク工学特論 Wireless Communications Network	研究指導 Mマル合 Dマル合
	16	教授	松田 晴英 〈令和7年4月〉	数理工学研究 離散数学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	17	教授	田中 慎一 〈令和7年4月〉	電磁波回路工学研究 高周波回路工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

18	教授	武藤 憲司 〈令和7年4月〉	音響通信情報システム研究 音響信号処理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
19	教授	堀江 亮太 〈令和7年4月〉	生体通信工学研究 生体システム工学特論 Bionic and biomimetic system engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
19	准教授	李 ひよん 〈令和7年4月〉	光計測工学研究 光ファイバセンシング特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
20	教授	大橋 裕太郎 〈令和7年4月〉	情報・メディア教育研究 情報・メディア教育研究特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
21	准教授	菅 宣理 〈令和7年4月〉	無線信号処理研究 無線信号処理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
22	教授	山口 正樹 〈令和7年4月〉	機能材料工学研究 機能材料工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
23	教授	小池 義和 〈令和7年4月〉	電子回路工学研究 電子回路工学特論 交流モータ設計特論 コンピュータ・メデイエーテッド・コミュニケーション特論 Nano Devices and Materials 実証的ソフトウェア工学特論 Nano Devices and Materials Advanced Electronic Circuit Advanced Antenna Engineering Advanced Computer Architecture Urban and Regional Development in Information Age	研究指導 Mマル合 Dマル合
24	教授	横井 秀樹 〈令和7年4月〉	光デバイス工学研究 Optical Fiber Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
25	教授	浜野 学 〈令和7年4月〉	生体計測工学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
26	教授	石川 博康 〈令和7年4月〉	半導体エレクトロニクス研究 半導体エレクトロニクス特論 Epitaxial Semiconductor Materials	研究指導 Mマル合 Dマル合
27	准教授	佐々木 昌浩 〈令和7年4月〉	電子回路工学研究 集積回路工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

28	教授	加納 慎一郎 〈令和7年4月〉	生体計測工学研究 神経工学特論 Advanced Neural Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
29	教授	プレーマチャンドラ チンタカ 〈令和7年4月〉	電子回路工学研究 先端画像処理・ロボティクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
30	准教授	當麻 浩司 〈令和7年4月〉	分子センサ工学研究 分子センシング特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
31	准教授	前田 慶博 〈令和7年4月〉	電子回路工学研究 画像センシング特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
32	教授	中野 匡規 〈令和7年4月〉	超構造量子物質エレクトロニクス研究 量子物質エレクトロニクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
33	准教授	畑 勝裕 〈令和7年4月〉	電源システム工学研究 電源システム工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
34	教授	木村 昌臣 〈令和7年4月〉	データ工学研究 データ工学特論 Topics in Data Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
35	教授	杉本 徹 〈令和7年4月〉	知能情報工学研究 自然言語処理システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
36	教授	篠埜 功 〈令和7年4月〉	プログラミング言語研究 ソフトウェア構成特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
37	教授	石崎 聡之 〈令和7年4月〉	スポーツ情報学研究 スポーツ情報学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
38	教授	松原 良太 〈令和7年4月〉	数理工学研究 有限数学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
39	教授	福田 浩章 〈令和7年4月〉	分散システム研究 分散システム特論 Advanced OS and Virtualization	研究指導 Mマル合 Dマル合
40	教授	菅谷 みどり (島崎 みどり) 〈令和7年4月〉	基盤システム研究 基盤システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
41	教授	井尻 敬 〈令和7年4月〉	インタラクティブグラフィクス研究 画像メディア工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
42	教授	真鍋 宏幸 (真鍋 宏幸) 〈令和7年4月〉	実世界インタラクション研究 実世界インタラクション特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
43	教授	新熊 亮一 〈令和7年4月〉	社会情報ネットワークデザイン研究 Information Network Design	研究指導 Mマル合 Dマル合
44	准教授	渡部 昌平 〈令和7年4月〉	量子情報工学研究 量子情報工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

45	教授	上岡 英史 〈令和7年4月〉	情報通信システム工学研究 Ubiquitous Computing System	研究指導 Mマル合 Dマル合
46	准教授	SRIPIAN PEERAYA 〈令和7年4月〉	応用知覚工学研究 Advanced Information System Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
47	准教授	Phan Xuan Tan 〈令和7年4月〉	Ubiquitous Computing System Artificial Intelligence: Applications & Safety Ubiquitous Computing System	研究指導 M合 D合
48	准教授	LAOHAKANGVAL VIT Tipporn 〈令和7年4月〉	アフェクティブ・テクノロジー研究 Data Science for Human Behavior Analysis	研究指導 Mマル合 Dマル合
49	教授	島田 明 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 メカトロニクスシステム制御特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
50	教授	山崎 憲一 (山崎 憲一) 〈令和7年4月〉	広域分散システム研究 ネットワークプログラミング特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
51	教授	佐々木 毅 〈令和7年4月〉	ロボティクス・メカトロニクス研究 確率・統計的推定システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
52	教授	野田 夏子 〈令和7年4月〉	知能ソフトウェア工学研究 ソフトウェア設計特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
53	教授	吉武 良治 〈令和7年4月〉	情報デザイン研究 人間中心設計特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
54	准教授	日高 杏子 (菅谷 杏子) 〈令和7年4月〉	Advanced Seminar in Advertising Design	研究指導 M合 D合
55	教授	益子 宗 〈令和7年4月〉	メディア体験デザイン研究 メディア体験デザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
56	助教	瓜生 大輔 〈令和7年4月〉	情報デザイン研究 HCIデザイン研究特論	研究指導 M合 D合
57	シニア教授	椎名 毅 〈令和7年4月〉	生体計測工学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
58	准教授	金尾 太郎 〈令和7年4月〉	量子情報基盤技術研究 量子情報基盤技術特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
59	教授	青木 洋貴 〈令和7年4月〉	認知工学研究 Advanced Cognitive Ergonomics	研究指導 Mマル合 Dマル合
60	助教	奥 貴紀 〈令和7年4月〉	身体知システム研究 ヒューマンロボティクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
61	准教授	小岩 健太 〈令和7年4月〉	電力システム工学研究 制御システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

62	准教授	新井 麻希 〈令和7年4月〉		無線通信方式研究 無線通信方式特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
63	准教授	深田 健太 〈令和7年4月〉		ソフトエレクトロニクス研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
64	准教授	木下 雄一朗 〈令和7年4月〉		人間情報システム研究 人間情報システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
65	助教	金丸 真奈美 〈令和7年4月〉		情報通信システム工学研究	研究指導 M合 D合

材料工学分野	66	教授	正木 匡彦 〈令和7年4月〉		ランダム系材料研究 融体物性特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	67	教授	弓野 健太郎 〈令和7年4月〉		半導体材料研究 半導体デバイス特論 Thin Film Physics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	68	教授	湯本 敦史 〈令和7年4月〉		薄膜材料研究 薄膜工学特論 Biomaterials	研究指導 Mマル合 Dマル合
	69	教授	下条 雅幸 〈令和7年4月〉		材料科学研究 電子顕微鏡学特論 Basic Physics in Electron Microscopy	研究指導 Mマル合 Dマル合
	70	教授	石崎 貴裕 〈令和7年4月〉		先端材料研究 先端材料工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	71	教授	芹澤 愛 〈令和7年4月〉		材料設計工学研究 非鉄金属材料特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	72	教授	内村 裕 〈令和7年4月〉		ロボット制御工学研究 機械制御工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

機械工学分野	73	教授	佐伯 暢人 〈令和7年4月〉	粒状体力学研究 連続体力学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	74	教授	二井 信行 〈令和7年4月〉	生物微小流体工学研究 細胞デバイス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	75	教授	澤 武一 〈令和7年4月〉	機械加工学研究 機械加工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	76	教授	松尾 繁樹 〈令和7年4月〉	レーザー応用工学研究 レーザー工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	77	教授	廣瀬 敏也 〈令和7年4月〉	ヒューマンマシンインタフェース研究 Human-Machine System	研究指導 Mマル合 Dマル合
	78	教授	青木 孝史朗 〈令和7年4月〉	材料加工学研究 材料加工論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	79	教授	細矢 直基 〈令和7年4月〉	機械動力学研究 Advanced Structural Dynamics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	80	教授	山本 創太 〈令和7年4月〉	生体機能工学研究 Biomechanics & Injury Prevention	研究指導 Mマル合 Dマル合
	81	准教授	中村 真吾 〈令和7年4月〉	知能情報処理特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	82	教授	長澤 純人 〈令和7年4月〉	マイクロロボティクス研究 Microscale Machines and Mechanics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	83	教授	富田 裕介 (若槻 裕介) 〈令和7年4月〉	計算統計物理研究 統計物理学と数値計算	研究指導 Mマル合 Dマル合
	84	教授	吉原 正一郎 〈令和7年4月〉	機能材料工学研究 機能材料工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	85	准教授	吉田 慎哉 〈令和7年4月〉	微小システム集積学研究 Microscale Machines and Mechanics	研究指導 Mマル合 Dマル合
	86	准教授	新谷 真由 〈令和7年4月〉	言語認知科学研究 言語認知科学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
87	准教授	亀尾 佳貴 〈令和7年4月〉	バイオメカニクス研究 バイオメカニクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合	

88	教授	伊藤 和寿 〈令和7年4月〉	動的システム制御理論研究 Adaptive and Optimal Control	研究指導 Mマル合 Dマル合
89	教授	橋田 規子 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 エモーショナルデザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
90	教授	櫻木 新 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 クリティカルシンキング特論	研究指導 M合 D合
91	教授	梁 元碩 〈令和7年4月〉	インタフェースデザイン特論 プロダクトデザイン研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
92	教授	蘆澤 雄亮 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 プロモーションデザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
93	教授	田邊 匡生 〈令和7年4月〉	光学デザイン研究 光学デザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
94	教授	早房 敬祐 〈令和7年4月〉	モデルベースデザイン研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
95	教授	平尾 章成 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 エルゴノミクスデザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
96	准教授	桑原 彬 〈令和7年4月〉	熱物質移動工学研究 プラズマ工学	研究指導 M合 D合
97	准教授	中島 瑞季 〈令和7年4月〉	プロダクトデザイン研究 感性デザイン機能特論 感性デザイン特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

システム理工学分野	98	准教授	櫻井 みぎ和 (加藤 みぎ和) 〈令和7年4月〉	応用数理研究	研究指導 M合 D合
	99	教授	前田 健吾 〈令和7年4月〉	一般相対論・宇宙物理学研究 相対性理論特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	100	教授	村上 嘉代子 〈令和7年4月〉	コミュニティ情報システム研究 システム工学特別演習 実践研究論文特論 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト クロスイノベーションプロジェクト	研究指導 Mマル合 Dマル合
	101	准教授	BUI NGOC TAM 〈令和7年4月〉	システムデザイン研究	研究指導 M合 D合
	102	教授	奥田 宏志 〈令和7年4月〉	科学技術教育研究 科学技術教育特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	103	教授	山本 紳一郎 〈令和7年4月〉	福祉支援システム研究 システム工学特別演習 Neurophysiology and Rehabilitation Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	104	教授	福井 浩二 〈令和7年4月〉	分子細胞生物学研究 分子細胞生物学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	105	教授	越阪部 奈緒美 〈令和7年4月〉	食品科学研究 機能性食品学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	106	教授	渡邊 宣夫 〈令和7年4月〉	生体制御システム研究 Advanced Biofluid Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
	107	教授	須原 義智 〈令和7年4月〉	生命創薬科学研究 生命創薬科学特論 医薬品合成化学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	108	教授	赤木 亮太 〈令和7年4月〉	福祉支援システム研究 生体機械学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
	109	教授	吉村 建二郎 〈令和7年4月〉	生物物理学研究 細胞生理学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
110	准教授	廣田 佳久 〈令和7年4月〉	生命創薬科学研究 生化学特論 薬理学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合	

111	准教授	中村 奈緒子 〈令和7年4月〉	生体制御システム研究 生体材料科学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
112	教授	佐藤 大樹 〈令和7年4月〉	脳機能計測システム研究 システム工学特別演習 脳機能計測システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
113	准教授	アズハム ズルカルナイン (AZHAM BIN ZULKHARNAIN) 〈令和7年4月〉	環境生命科学研究 環境生命科学特論 Advanced Microbiology	研究指導 Mマル合 Dマル合
114	准教授	高木 基樹 〈令和7年4月〉	福祉支援システム研究 Life Support Robot	研究指導 Mマル合 Dマル合
115	教授	矢嶋 伊知朗 〈令和7年4月〉	健康影響科学研究 健康影響科学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
116	教授	川島 洋人 〈令和7年4月〉	環境科学特論 環境生命科学研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
117	准教授	高山 祐三 〈令和7年4月〉	神経工学特論 生体制御システム研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
118	教授	田中 直彦 〈令和7年4月〉	医用超音波工学研究 医用超音波工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
119	教授	高橋 正信 〈令和7年4月〉	ビジュアル情報処理システム研究 画像応用システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
120	教授	陳 新開 〈令和7年4月〉	制御システム研究 Control Systems Engineering	研究指導 Mマル合 Dマル合
121	教授	鈴木 徹也 〈令和7年4月〉	ビジュアル情報処理システム研究 制約プログラミング特論	研究指導 M合 D合
122	教授	吉田 健二 (吉田 賢二) 〈令和7年4月〉	宇宙観測システム研究 宇宙観測システム特論I	研究指導 Mマル合 Dマル合
123	教授	久保田 あや (三谷 あや) 〈令和7年4月〉	宇宙観測システム研究 宇宙観測システム特論II	研究指導 Mマル合 Dマル合

124	シニア教授	間野 一則 〈令和7年4月〉	情報通信デザイン研究 システム工学特別演習 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト クロスイノベーションプロジェクト Speech Processing	研究指導 Mマル合 Dマル合
125	准教授	井岡 恵理 (水上 恵理) 〈令和7年4月〉	非線形システム研究 非線形現象特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
126	准教授	山崎 託 〈令和7年4月〉	情報ネットワーク工学研究 分散ネットワークシステム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
127	教授	久住 憲嗣 〈令和7年4月〉	ソフトウェア工学研究 ソフトウェア工学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
128	准教授	後藤 裕介 〈令和7年4月〉	社会シミュレーション研究 システム工学特別演習 データ・シミュレーションプロジェクト 社会システム科学特論 社会システム科学特別演習	研究指導 Mマル合 Dマル合
129	准教授	保坂 亮介 〈令和7年4月〉	神経情報システム研究 神経情報システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
130	助教	原田 拓弥 〈令和7年4月〉	社会システム科学技術特論 社会シミュレーション研究	研究指導 M合 D合
131	教授	高嶋 和毅 〈令和7年4月〉	インタラクティブメディア研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
132	教授	川上 幸男 〈令和7年4月〉	流体制御システム研究 流体制御システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
133	教授	長谷川 浩志 〈令和7年4月〉	システムデザイン研究 システム工学特論 システム工学特別演習 創造的工学設計論 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト クロスイノベーションプロジェクト Engineering Optimization	研究指導 Mマル合 Dマル合
134	教授	足立 吉隆 〈令和7年4月〉	先端メカトロニクス研究 先端メカトロニクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合

135	教授	武藤 正義 〈令和7年4月〉	社会数理システム研究 社会数理システム特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
136	教授	木村 元 〈令和7年4月〉	量子情報システム研究 量子情報科学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
137	教授	渡邊 大 〈令和7年4月〉	システムデザイン研究 連続体力学特論 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト	研究指導 Mマル合 Dマル合
138	教授	田中 みなみ 〈令和7年4月〉	システムデザイン研究 工業デザイン特論 Advanced Design Survey	研究指導 M合 D合
139	教授	飯塚 浩二郎 〈令和7年4月〉	ロボティクスシステム研究 宇宙探査ロボティクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
140	教授	矢田部 清美 〈令和7年4月〉	認知システム研究 Seminar in Cognitive Science	研究指導 Mマル合 Dマル合
141	助教	桑原 央明 〈令和7年4月〉	流体制御システム研究 知能化メカトロニクス特論	研究指導 M合 D合
142	教授	小山 友介 〈令和7年4月〉	経済システム論研究 経済システム論特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
143	教授	市川 学 〈令和7年4月〉	社会システム科学研究 システム工学特別演習 データ・シミュレーションプロジェクト 社会システム科学特論 社会システム科学特別演習 クロスカルチャーエンジニアリングプロジェクト クロスイノベーションプロジェクト	研究指導 Mマル合 Dマル合
144	准教授	持永 大 〈令和7年4月〉	社会情報ネットワーク研究 システム工学特別演習	研究指導 Mマル合 Dマル合
145	教授	井戸川 知之 〈令和7年4月〉	応用数理研究 関数解析特論	研究指導 M合 D合
146	教授	鈴木 達夫 〈令和7年4月〉	数理物理研究 微分幾何学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
147	教授	石渡 哲哉 〈令和7年4月〉	数理解析研究 数理解析特論A 数理解析特論B	研究指導 Mマル合 Dマル合

148	教授	榎本 裕子 〈令和7年4月〉	非線形解析研究 解析学特論	研究指導 M合 D合
149	教授	尾崎 克久 〈令和7年4月〉	応用数理研究 システム工学特別演習 情報数学特論A 情報数学特論B	研究指導 Mマル合 Dマル合
150	教授	サイキセイ 〈令和7年4月〉	数理制御研究 Advanced Robust Control Advanced Digital Control	研究指導 Mマル合 Dマル合
151	教授	亀子 正喜 〈令和7年4月〉	応用数理研究 Cohomology of Classifying Spaces Linear Representations of Finite Groups	研究指導 Mマル合 Dマル合
152	教授	竹内 慎吾 〈令和7年4月〉	非線形解析研究 非線形解析特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
153	教授	福田 亜希子 (相原 亜希子) 〈令和7年4月〉	応用数理研究 応用線形代数特論A 応用線形代数特論B	研究指導 Mマル合 Dマル合
154	准教授	清水 健一 〈令和7年4月〉	応用数理研究 応用代数学特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
155	准教授	中津 智則 〈令和7年4月〉	数理物理研究 確率解析特論	研究指導 M合 D合
156	助教	田森 宥好 〈令和7年4月〉	応用数理研究	研究指導 M合 D合
157	教授	山澤 浩司 〈令和7年4月〉	複素偏微分方程式研究 偏微分方程式特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
158	准教授	廣瀬 三平 〈令和7年4月〉	解析学研究 偏微分方程式特論	研究指導 Mマル合 Dマル合
159	教授	榊原 暢久 〈令和7年4月〉	高等教育開発研究	研究指導 Mマル合 Dマル合
160	准教授	大谷 拓也 〈令和7年4月〉	人間・ロボティクス研究 人間・ロボティクス特論	研究指導 Mマル合 Dマル合